

解剖学（34256）

後期

Anatomy

生命科学部 健康科学科

年次	1 年
対象	26 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 内藤一郎

授業の概要

からだの構造ってどうなっているの？そんな疑問に答える講義を目指します。ヒトの健康を願いたい、ヒトの身体能力を高めたい、からだやこころの痛みを軽くしたいなどを考えるとき、解剖学の知識は必要不可欠です。スライドや、可能な限り標本を使用しながら講義をすすめます。

到達目標

- 1 ヒトの体の構造を機能を関連づけて理解できる。
- 2 さらに、基本的な事柄を正確に理解し、他の人にも説明できる。
- 3 解剖学の範囲は非常に広く、骨格や筋、あるいは感覚器や神経系など、どこか自分の得意領域を持ち、その分野では誰にも負けない知識を身につける。

評価方法

試験（80％）を行い、授業に取り組む姿勢（10％）や小テスト（10％）も含めて総合的に判定します。

注意事項

私語、遅刻は厳禁。講義はup-to-date なものとするため、講義日程を変更する場合もある。

授業計画

回数	内容
第1回	体の構造、細胞・組織・器官・器官系
第2回	体の区分と方向を表す用語、骨格と筋の基本構造、関節
第3回	体幹、頭部と四肢の骨格と筋・関節
第4回	循環器の仕組み、心臓の構造、血管の構造と役割
第5回	全身の動脈と静脈、門脈系
第6回	リンパとリンパ節、胎児期の血液循環
第7回	呼吸器の構造、呼吸運動、匂いを感じる仕組み
第8回	消化器の区分と構造、食物の消化・吸収
第9回	肝臓と膵臓、十二指腸と胆管・膵管
第10回	尿のできる仕組み、泌尿器の役割
第11回	男女の生殖器の違い、受精から着床まで
第12回	おもな内分泌器官とホルモンのはたらき
第13回	神経系、中枢神経と保護する仕組み、脳と脊髄
第14回	末梢神経と自律神経系、伝導路
第15回	感覚器、皮膚と付属器

授業外学習

学習時間の目安:合計60時間

- ・ 次回の授業内容を確認し、その範囲を予め読み、概略を掴んでおくこと（各2時間）
- ・ 前回の講義の内容についてよく復習しておくこと（各2時間）

教科書

ぜんぶわかる 人体解剖図|坂井建雄、橋本尚詩|成美堂出版|978-4-415-30619-3

参考書

「解剖学」東洋療法学校協会編、河野邦雄他著、医歯薬出版
「ロス&ウィルソン健康と病気のしくみがわかる解剖生理学 改訂版」、アン・ウォー、アリソン・グラント 著、島田他 監訳、西村書店

備考

基礎演習（34508）

通年

Basic Seminar

生命科学部 健康科学科

年次	1 年
対象	26 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 加藤敬史

授業の概要

健康科学科の教育内容を理解し、大学における学習で必要となる基礎的な技能や能力を身につけ、大学での学びを通じて自己のキャリアデザインを描く能力と社会に貢献できる人材として成長するための基礎的な事項を学ぶ。
【アクティブラーニング】プレゼンテーションを学ぶためにグループ発表の時間を2時間設けている

到達目標

大学入学時から卒業，そして社会人として、自己の能力を発展させていくために必要となるスタディ・スキルの習得と、健康科学科において習得した知識と技能を基礎として、社会に貢献できる人材として成長することを目標としている。具体的には、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）の「課題解決力を身につける」に対応して、1）卒業を見据えた自分のキャリアデザインを描き，その計画を実行するための準備ができる。2）グループワークによる資料調査とディスカッション、プレゼンテーションができる、ことを目標としている。

評価方法

課題（70％）、演習への積極的参加と態度（30％）の割合で評価する。

注意事項

通年科目のため再履修が困難であることを認識しておくこと。
「卒業生による就業体験報告」は、講師の日程調整により授業計画が前後することがある。

授業計画

前期

- ・ガイダンス
- ・大学での学びと卒業後を見据えた準備
- ・資料検索とレポート作成のマナーと技術
- ・卒業生による就業体験報告

後期

- ・グループワークによる健康・スポーツ関連企画の立案と発表
- ・各ゼミの研究内容紹介
- ・卒業生による就業体験報告
- ・卒業研究発表会に参加し、健康科学科の教育内容を理解する

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

各授業の後に2時間程度でできる課題を出すので必ず次回までに提出すること。

教科書

なし。

参考書

配布プリント。

備考

年次	2 年
対象	25 ～ 21 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	梶浦文夫 妹尾護 加藤敬史 仲章伸 岡憲明 藤本一満 水野恭志 箕口けい子 岡田誠剛 高木翔士 松村敬則 山崎勝利 山野ひとみ 川添敏弘

授業の概要

日本の地域性や地震発生の歴史を詳述し、総合的な減災・備災の重要性について解説する。また、震災発生時や長期間の避難生活時に適切な対応ができるように具体例を挙げて推奨できる方法を解説する。

到達目標

地震などの災害に対する減災・備災の具体策を学ぶと共に、より総合的で、且つ効果的な方法を考案できるようになる。

- 1 地震が発生するメカニズムを理解し、説明できる。(主に2、3回目に対応)
- 2 地域の地形的な特徴や歴史的な変遷を理解し、説明できる。(主に4、5回目に対応)
- 3 減災・備災の具体策を理解し、説明できる。(主に6～15回目に対応)

評価方法

毎回授業後にレポートを提出し、担当教員が評価する。全教員の評価を集計して総合的に評価する。

到達目標1～3の達成度をレポートにより総合的に評価する。到達目標 1 の評価は2，3回目のレポートにより、到達目標 2 の評価は4，5回目のレポートにより、到達目標 3 の評価は6～15回目のレポートにより評価する。

注意事項

本科目は、文部科学省「地（知）の拠点整備事業」（COC事業）として実施される「くらしき若衆」の認定のための選択科目の一つになっている。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション、何故、減災・備災なのか（梶浦文夫）
第2回	東日本大震災から学ぶこと（岡憲明）
第3回	日本周辺のプレートの概要と地震の発生（加藤敬史）
第4回	岡山県の沿岸部の地盤地質（加藤敬史）
第5回	地震の前兆現象と地震予知（妹尾 護）
第6回	防災グッズの活用方法（水野恭志）
第7回	災害弱者救済の方法（松村敬則）

回数	内容
第8回	化学物質の総合管理（仲 章伸）
第9回	災害時における感染対策（山崎勝利）
第10回	災害時避難における飼い主の権利と責任（川添敏弘）
第11回	災害による野生動物への影響（山野ひとみ）
第12回	災害、ストレス、うつ（岡田誠剛）
第13回	災害時におけるPOCT（臨床現場即時検査）の有用性（藤本一満）
第14回	地震に強い住宅とは（梶浦文夫）
第15回	鍼灸を用いた健康管理（箕口けい子）

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

講義内容が多岐に渡ることから、予習と復習をしっかりと行うこと。また、インターネット、新聞等により最新の情報を集めるように努めること。

教科書

使用しない。

参考書

授業中に適宜指示する。

備考

減災・備災体験実習（34608）

後期

Disaster Mitigation and Preparedness Measures Experience

生命科学部 健康科学科

年次	3 年
対象	24 ～ 21 W,W
単位数	1． 0 単位
担当教員	大杉忠則 箕口けい子 湯川尚一郎 高木翔士 菅正樹

授業の概要

日本の地域性や災害発生時の状況を踏まえ、実習を通していざという際の行動および備えを学ぶ。
テント設営、ロープワーク、担架搬送、避難生活について体験し、自分が今後遭遇するかもしれない災害において、まず自助を遂行できるようにする。

到達目標

- 1

一人一人が南海トラフ地震等を想定した減災・備災対策を自らのこととして捉え、それに対する備えを想定することができる。
- 2

自助・共助・公助について理解した上で、第一に自分の身は自分で守ることができる。

評価方法

授業に取り組む態度・姿勢 7 0 %（到達目標 1 ～ 2 を評価）、成果発表 3 0 %（到達目標 2 を評価）で総合的に評価する。

注意事項

本科目は、「くらしき若衆」の認定のための選択科目の一つになっている。

減災・備災体験実習は36名を受講上限とする。
希望者が多い場合、減災・備災のすすめの成績順に選抜を行う。

減災・備災体験キャンプにおいて「1 日分の備蓄作成」、「避難生活に対する備え」を行うための実費が必要になる。

授業計画

- 第1回

オリエンテーション（大杉 忠則 箕口 けい子 湯川尚一郎 山崎勝利 菅正樹）
- 第2回～15回

減災・備災体験キャンプ（一泊二日）（大杉 忠則 箕口 けい子 湯川尚一郎 山崎勝利 菅正樹）
- ・テント設営

・宿泊準備

・ロープワークと滑車の利用

・防災・減災・そして備災

・災害時に役立つ東洋医学

・ペット個体識別用マイクロチップ

・クライミング

・燃料の調達

・食事（準備、調理、片付け）

・担架搬送

・グループワーク

・最後に成果発表

授業外学習

備蓄、炊飯、ロープワークを始めとする体験した内容は、忘れないように定期的実践すること。また、新技術にも対応できるように常にアンテナを立てておくこと。（15時間）

教科書

必要に応じて、プリントを配布する。

参考書

適宜紹介する。

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 椎葉大輔

授業の概要

人体は多数の細胞や器官を精巧に連携、調節、統合させながら恒常性を保ち生命活動を営んでいる。教育・スポーツ現場や救急現場において個体の生理応答を評価・推察するためには、これらの基礎的知識は不可欠である。本授業では基本的な構造とともにそれらの仕組みを学ぶ。高校で生物学を履修していない学生にも理解できるよう講義をすすめる。【アクティブラーニング】運動時生理応答をモデル化した教材を操作して生体内現象を学ぶ。【フィードバック】小テスト終了後、全体への解説および個別対応を行う。

到達目標

- 1 「人体に関する生理学的な基礎知識を理解し説明できる」
- 2 「保健体育教員や運動指導者、スポーツトレーナー、救命救急士が目の当たりにする生体応答を「1」の知識から推察し意見提示できる」

評価方法

授業に取り組む態度 5％（到達目標 1，2）、試験 95％（到達目標 1，2）にて評価する。

注意事項

解剖学とともに専門科目の基礎となる重要科目なので予習・復習を十分にすること。

授業計画

回数	内容
第1回	恒常性、体液
第2回	血液系
第3回	血液系
第4回	呼吸器系（1）
第5回	呼吸器系（2）
第6回	循環器系（1）
第7回	循環器系（2）
第8回	消化器系
第9回	泌尿器系
第10回	内分泌
第11回	生殖
第12回	神経系
第13回	神経・筋肉
第14回	感覚器（1）
第15回	感覚器（2）

授業外学習

次回講義のテーマとキーワードを出すので予習を行うこと（2時間）。また受講した内容について、復習を行うこと（2時間）。

教科書

目でみるからだのメカニズム|堺 章|医学書院|978-4-260-33095-4

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 山野力

授業の概要

日常生活やスポーツ現場において、基本的な人体の構造を理解するとともに、運動器としての骨格、靱帯、腱、関節、筋肉を機能的解剖学という観点から理解することをねらいとしている。

【アクティブラーニング】 グループ・ディスカッションとプレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】課題、小テスト、レポート、プレゼンテーション等に対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

機能解剖についての専門用語を憶え、意義、目的を理解し、説明できる。各部位ごとの筋肉の機能および解剖を理解し、説明できる。現場で実践できるよう知識を高める。

- 1 動きの基本面について理解し、説明できる。
- 2 脊柱の動きについて理解し、説明できる。
- 3 肩関節、肘関節、股関節、膝関節の動きについて理解し、説明できる。

評価方法

授業に取り組む態度、姿勢、レポート、小テスト、定期試験等により総合的に評価する。

評価の比率は、授業に取り組む態度、姿勢 1 0 %、レポート・小テスト等5 0 %、定期試験 4 0 %

定期試験をしない場合は平常点 2 0 %、レポート・小テスト等 8 0 %

注意事項

本科目は、健康運動実践指導者、アスレティックトレーナー等になるための資格免許科目であることから、高い水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければ単位の取得はかなり厳しい。定期試験の再試はしない。

宿題等は毎回出します。自宅で解剖学用語を覚えること。随時、授業開始時に小テストを行う。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（機能解剖学とは）
第2回	基礎 動きの平面、骨、軟骨、関節、靱帯、筋
第3回	頭部、顔面
第4回	頸部
第5回	上肢I 上肢の骨、関節、筋、血管神経
第6回	上肢II 肩関節、上腕
第7回	上肢III 肘、前腕
第8回	上肢IV 手
第9回	体幹I 脊柱
第10回	体幹II 胸部、腹部、骨盤
第11回	下肢I 下肢の骨、関節、筋、血管神経
第12回	下肢II 股関節、大腿

回数	内容
第13回	下肢Ⅲ 膝関節、下腿
第14回	下肢Ⅳ 足
第15回	まとめ

授業外学習

- 毎日予習、復習をおこない講義内容を確実に習得する。随時小テストを実施する。指定する課外授業等参加の場合は加点する。
- ・各回の授業開始時に口頭で小テストを実施するので、前回の授業についてよく復習しておくこと。（各2時間）
 - ・授業計画に示した範囲の教科書、参考書を事前に読み、概略をつかんでおくこと。（各2時間）

教科書

ボディ・ナビゲーション ムーブメント 医道の日本社
ISBN:978-4-7529-3110-2

参考書

アスレティックトレーナー専門科目テキスト第2 巻運動器の解剖と機能（日本スポーツ協会）

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 19 W,W
単位数	2． 0 単位
担当教員	 松尾清子

授業の概要

生化学は生物が行う生命活動のしくみを科学的に解き明かそうとする学問である。それはすなわち私たち自身の体のしくみを知ることであり、特に健康に関する職業を志す人には理解してほしい学問である。本講義では生物の体を構成する化学成分や栄養素の詳しい代謝について解説する。また遺伝のしくみ、内部環境の維持、免疫のシステムなどについても解説する。

到達目標

化学物質が生命構築におよぼしている様々な役割、しくみ、必然性などを学ぶ。生命の不思議、神秘について知り、そこからさまざまな現象・問題を自身で考え、解決する能力を培う。

評価方法

平常点（出席点、小テストまたは課題） 4 0 % + 定期試験 6 0 %

注意事項

特になし。

授業計画

回数	内容
第1回	人体の仕組み
第2回	タンパク質の構造とはたらき
第3回	糖質の構造とはたらき（1）単糖と多糖
第4回	糖質の構造とはたらき（2）糖代謝とATP合成
第5回	脂質の構造とはたらき
第6回	核酸の構造とはたらき
第7回	DNAからタンパク質へ
第8回	酵素の性質とはたらき
第9回	ビタミンの種類とはたらき
第10回	水・無機質のはたらき
第11回	栄養の消化・吸収
第12回	内部環境の調節
第13回	エネルギーの消費と供給
第14回	生体の防御システム
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

小テストまたは課題を出すので復習をすること。

教科書

「イラスト 生化学入門 栄養素の旅」相原 英孝 他著（東京教学社）

参考書

なし

備考

微生物学（34251）

後期

Microbiology

生命科学部 健康科学科

年次	1 年
対象	26 ～ 19 W,W
単位数	2． 0 単位
担当教員	 松尾清子

授業の概要

微生物はヒトが地球上に誕生するよりもずっと以前から存在しその生命を維持、発展させてきた。その歴史の中で微生物とヒトの間には共存～破壊に至る種々の関係が生じてきた。そこで微生物がヒトの健康や生活にどのように関わっているのか、基礎と応用面から講義する。基礎としては前半の講義で細胞の構造や機能、増殖の仕組みを紹介する。応用面としては後半の講義でヒトや動物に病気を引き起こす病原微生物を紹介する。

到達目標

微生物とは何か、どのような特徴を持ち、ヒトとはどこが違うのかなど、微生物学の基本を理解する。病原微生物による感染およびその予防についての正しい知識を習得する。

評価方法

平常点（出席点、小テストまたはレポート） 4 0 % + 定期試験 6 0 %

注意事項

特になし。

授業計画

回数	内容
第1回	はじめにー微生物とは何か
第2回	微生物学の歴史
第3回	微生物の種類と構造
第4回	微生物の代謝（1）好気呼吸
第5回	微生物の代謝（2）発酵
第6回	微生物の増殖と培養
第7回	消毒と滅菌
第8回	微生物の遺伝（1）DNAのはたらき
第9回	微生物の遺伝（2）変異と遺伝
第10回	感染の成立
第11回	病原性を持つ細菌（1）食中毒
第12回	病原性を持つ細菌（2）その他の感染症
第13回	ウイルスによる感染症
第14回	微生物の利用
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

小テストまたはレポート課題があるので、復習しておくこと。

教科書

「コンパクト微生物学 改訂第3版」 小熊 恵二 他（南江堂）

参考書

なし

備考

年次	2 年
対象	25 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 藤田雅範

授業の概要

救急救命士に求められる医療従事者としての必要な知識はもとより、病理学における疾患の成り立ちと回復の過程を理解させるとともに、救急搬送の6割を超える急病人に対する観察、判断、処置、病院選定などについて概論的に解説し、救急医学の基礎から応用までを理解させる。

到達目標

- 1 医療従事者としての自覚、人間性、救急現場においての的確な観察能力、その症状を理解したうえでの適正な応急処置ができるようになる。
- 2 傷病者に最も適する医療機関の選定など、救急救命士として最低限必要な知識を身につけることができる。
- 3 更なる救急救命医療への向上心を持つことができる。

評価方法

- ・講義に取り組む姿勢、課題レポート提出、模擬授業などの平常点と定期試験で評価を行う。
- ・評価は、レポート（30％）、模擬授業（30％）、定期試験（40％）の重みで判定する。

注意事項

無断での欠席、遅刻、早退はしないこと。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（消防救急における救急救命士とは）
第2回	成長の発達と老化
第3回	疾患I
第4回	疾患II
第5回	炎症と感染
第6回	循環障害
第7回	代謝障害I
第8回	代謝障害II
第9回	退行性病変と進行性病変I
第10回	退行性病変と進行性病変II
第11回	腫瘍
第12回	奇形
第13回	損傷I
第14回	損傷II
第15回	死

授業外学習

学習時間の目安：60時間

ミニテストの実施（予習）および課題レポート（復習）の作成を必要毎に行うので、毎回予習ならびに復習をしておくこと。

教科書

改訂第10版 救急救命士標準テキスト：へるす出版

参考書

参考文献は適宜案内する。

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 枝松千尋  吉田悦男

授業の概要

健康管理の目的は、人々が健康で長寿を全うできるように諸条件を社会が確立することである。本講義では健康管理における重要な問題について毎回異なるテーマをとりあげ説明する。そして、実際に地域で行われている健康管理活動について学ぶ。

【アクティブラーニング】 グループ毎にジョギングを行うことで、グループ全員が目標を達成するための方策をグループごとに話し合う。

【フィードバック】 スマホアプリを用いてジョギング実施状況を共有し、健康管理の観点からフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1 健康づくりの指導者として必要な知識を習得する。
- 2 健康管理の習慣を身につける。

評価方法

試験（小テスト）（４０％）、レポート（４０％）（到達目標１）および授業に取り組む姿勢（２０％）（到達目標２）で総合的に評価する。上記の評価方法により、到達目標の達成度を総合的に評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

健康管理としての健康づくり運動の実践として、近年ブームとなっている市民マラソンに参加予定である。参加費は自費である。

授業計画

回数	内容
第1回	健康の概念（吉田・枝松）
第2回	健康の現状（吉田・枝松）
第3回	健康増進の施策（吉田・枝松）
第4回	健康づくりの課題（吉田・枝松）
第5回	健康づくりの実際：運動、栄養（吉田・枝松）
第6回	健康づくりの実際：飲酒、喫煙（吉田・枝松）
第7回	健康管理の方法（吉田・枝松）
第8回	母子保健（吉田・枝松）
第9回	学校の健康管理（吉田・枝松）
第10回	職場の健康管理（吉田・枝松）
第11回	地域における健康管理（１）（吉田・枝松）
第12回	地域における健康管理（２）（吉田・枝松）
第13回	地域における健康と介護予防（１）（吉田・枝松）
第14回	地域における健康と介護予防（２）（吉田・枝松）
第15回	地域における健康と介護予防（３）（吉田・枝松）

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

毎回、次回講義の予習に必要な課題を出すので、復習とともにしっかり勉強しておく（60分）。
自分自身の健康づくり運動として10km/週以上（90分以上）のジョギングを行い、健康管理の実践と習慣付けを行う。

教科書

資料を配布する

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

年次	2 年
対象	25 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 矢田貝智恵子

授業の概要

各種栄養素の種類や性質、体内における代謝について学ぶ科目である。具体的には、各種栄養素の消化・吸収のメカニズムについてその概要を理解する。また、生体内での代謝や生理機能について理解するとともに、エネルギー代謝や栄養素代謝の関連性についても学ぶ。各栄養素の役割について、健康の維持増進、疾病予防・治療における栄養の役割を学び、望ましい栄養や食事の摂り方を理解する。

健康科学分野のうち、栄養に関する基礎的知識を身につけ、健康的な生活を営むことができ、幅広い教養と豊かな人間性を備えた社会人の育成を目的としている。

【フィードバック】練習課題に対して解説を含めたフィードバックを行う。

到達目標

- 1 栄養の基本（栄養と栄養素の定義、消化・吸収、体内での栄養素の変化と役割、エネルギー代謝）について理解し、説明できる。
- 2 健康の維持増進、疾病予防・治療における栄養の役割について理解し、説明できる。
- 3 各栄養素の種類と役割を理解し、健康生活を送るための望ましい栄養や食事の摂り方について説明できる。

評価方法

授業に取り組む姿勢 10%（到達目標1、2）、レポート 20%（到達目標3）、定期試験 70%（到達目標1、2、3）により成績を評価し、総合計 60 点以上を合格とする。

注意事項

- ・指定した教科書を購入し、必ず予習をしておくこと。
- ・講義の進捗状況によって、順番が前後することもある。
- ・後期「スポーツ栄養学」履修予定者は必ず履修すること。

授業計画

回数	内容
第1回	栄養と健康
第2回	栄養と食生活
第3回	消化・吸収（1）消化器系の構造と機能
第4回	消化・吸収（2）各消化管での消化と栄養素の体内動態
第5回	糖質（1）糖質の化学と栄養
第6回	糖質（2）糖質の代謝と機能
第7回	脂質（1）脂質の化学と栄養
第8回	脂質（2）脂質の代謝と機能
第9回	たんぱく質（1）たんぱく質の化学と栄養
第10回	たんぱく質（2）たんぱく質の代謝と機能
第11回	ビタミン（1）脂溶性ビタミンの栄養
第12回	ビタミン（2）水溶性ビタミンの栄養
第13回	無機質（1）準主要元素の栄養

回数	内容
第14回	無機質（2）微量元素の栄養
第15回	エネルギー代謝

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・ 次回の授業範囲について、テキストを読み、講義内容が理解できるよう予習しておくこと。
- ・ 各講義ごとに練習問題を課すので、復習を兼ねて理解しておくこと。

教科書

「新 食品・栄養科学シリーズ 基礎栄養学 第4版」・灘本知憲、仲佐輝子編・化学同人・ISBN:978-4-7598-1637-2

参考書

「コンパクト栄養学 改訂第4版」・廣野治子監修・南江堂・ISBN:978-4-5242-5945-8

「オールガイド食品成分表2020」・実教出版編集部・ISBN:978-4-407-34850-7

上記以外の参考書については、適宜紹介する。

備考

発育・発達と老化（34302）

前期

Growth・Development and Aging

生命科学部 健康科学科

年次	3 年
対象	24 ～ 19 W,W
単位数	2. 0 単位
担当教員	👤 枝松千尋

授業の概要

発育・発達と老化の基本的なパターンについて事例を取り上げ解説する。また、発育・発達と老化に関する背景をホルモン・運動・食生活などの関係から解説する。

【アクティブラーニング】 グループ・ディスカッションを取り入れている。

【フィードバック】課題、レポート等に対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1 「発育・発達の基本的な知識を理解し、その年代に応じた指導方法を理解する」
- 2 「老化に伴う身体能力の衰えについて理解し、安全な指導方法について理解する」

評価方法

課題図書レポート 5 0 %（到達目標1を評価）、定期試験 5 0 %（到達目標 1, 2 を評価）で成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

特になし

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	発育・発達と老化の定義
第3回	スキャモンの発育曲線について
第4回	伸長期と充実期について
第5回	機能の発達について－その 1－身体的・心理的特徴
第6回	機能の発達について－その 2－怪我および病気
第7回	機能の発達のプログラム
第8回	発育期におけるトレーニングとその効果
第9回	機能的発達の為のトレーニングとその効果
第10回	動きの発達とスキルの獲得（基本的動作の習得）
第11回	動きの発達とスキルの獲得（動作の習熟）
第12回	動きの発達とスキルの獲得（スポーツスキルの上達と専門的スキルの獲得）
第13回	老化現象の背景について
第14回	中高年者の為のトレーニングとその効果
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・課題図書「赤ちゃん脳科学」を読んでレポートを作成する。各章（7章）ごとに提出期限（7回のレポート）がある。
- ・毎回、前回授業の確認を行うので、十分な復習を行うこと。

教科書

講義中に指示する。

参考書

- 「赤ちゃん脳科学」，小西行郎，集英社新書
- 「子供の発育発達と健康」，青柳領，ナカニシヤ出版

備考

健康運動のプログラミング（34510）

前期

Programing of Health Fitness

生命科学部 健康科学科

年次	3 年
対象	24 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 椎葉大輔

授業の概要

運動プログラムの作成は健康運動指導者として必須の専門的知識である。本講義は、体力の保持増進に関与する運動処方、各種疾患者に対する運動処方、また生活習慣病予防としての運動処方などについて具体的な健康運動の立案、プログラミングを行い実際に実行する。【アクティブラーニング】根拠に基づいた運動処方を身につけるため、先行研究を調査し、プレゼンテーションする場を設ける。【フィードバック】プレゼンテーションの内容について、他の先行報告の紹介を交え、説明・指導する。

到達目標

- 1 「運動による健康増進メカニズムについて理解する」
- 2 「原理原則に則った運動プログラムの作成法を習得する」
- 3 「先行報告について調査を通じて、健康運動分野の学術論文から情報を獲得することができる」

評価方法

小テスト 20点（到達目標1）、プレゼンテーション 40点（到達目標2、3）およびプレゼンテーションに対するディスカッションの評価 40点（到達目標2、3）で総合的に評価する。

注意事項

本講義は、健康運動に関する資料等のまとめ、プレゼンテーション、議論を行うので時間外学習を十分に行うことが重要である。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（運動と健康、スポーツプログラマーの役割）
第2回	運動処方の一般的原則とトレーニングの原則
第3回	健診結果の読み方および効果の判定（1）
第4回	健診結果の読み方および効果の判定（2）
第5回	トレーニングの構成内容I（子供のプログラム）
第6回	トレーニングの構成内容II（壮年のプログラム）
第7回	トレーニングの構成内容III（女性のプログラム）
第8回	心電図と心拍数の測定と判断（心肺機能のフィットネス）
第9回	フィットネストレーニングのプログラミングと実習
第10回	運動プログラム作成の理論（1）
第11回	運動プログラム作成の理論（2）
第12回	運動処方案の作成（プログラミング）
第13回	諸疾患者に対する運動プログラミングと実習
第14回	服薬者の運動プログラム作成上の注意点
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計80時間

授業内で健康運動に関わる学术论文をまとめ、プレゼンテーションを行う。当該論文について、授業時間外で熟読し、まとめ、発表資料を作成すること（20時間）。また、毎授業終了時に次回テーマと予習項目を提示するので、復習だけでなく予習も行うこと（4時間）。

教科書

健康運動実践指導者養成テキスト（健康・体力づくり事業財団、購入方法については授業内で説明）

参考書

講義中に紹介する。

備考

運動処方 (34354)

後期

Exercise Prescription

生命科学部 健康科学科

年次	3 年
対象	24 ～ 19 W,W
単位数	2. 0 単位
担当教員	 枝松千尋  廣田聖治

授業の概要

生活習慣病改善における運動処方の基本的な手順、運動負荷試験、運動プログラミングについて解説する。また高齢者、心疾患患者と障害者に対する運動処方、生活改善についても理解させる。

【アクティブラーニング】 プレゼンテーションを取り入れている。学外施設での現場体験実習では一般の利用者とのコミュニケーションを図る。

【フィードバック】課題、小テスト、プレゼンテーション等に対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1 「生活習慣病等の対象に対する運動処方の知識を身につける」
- 2 「運動負荷試験から運動処方作成・実践の手順を理解する」

評価方法

授業に取り組む姿勢・確認テスト70%、定期試験30%で評価する。

上記の評価方法により、到達目標 1, 2 の達成度を総合的に評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・健康運動指導士の受験希望者が履修すること。それ以外の学生の履修は基本的に認めない。（学外の施設と連携し、健康運動指導の現場体験をさせていただくため）
- ・生活習慣病予防（2年前期）を履修しておくこと。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション・運動処方とは（枝松）
第2回	運動処方におけるメディカルチェックの意義（枝松）
第3回	生活習慣病改善における運動処方作成の理論（１）（枝松）
第4回	生活習慣病改善における運動処方作成の理論（２）（枝松）
第5回	生活習慣病改善における運動処方の実際（１）（枝松）
第6回	生活習慣病改善における運動処方の実際（２）（枝松）
第7回	障害者への運動処方の実際（１）（枝松）
第8回	障害者への運動処方の実際（２）（枝松）
第9回	運動処方における行動変容の理論（１）（枝松）
第10回	運動処方における行動変容の理論（２）（枝松）
第11回	運動処方における行動変容の実際（１）（枝松）
第12回	運動処方における行動変容の実際（２）（枝松）
第13回	高齢者への運動処方の実際（１）（廣田）
第14回	高齢者への運動処方の実際（２）（廣田）

回数	内容
第15回	まとめ（枝松）

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・健康運動指導士試験と同等の確認テストを毎回行うので、十分な予習復習を行うこと（60分）。
- ・学外の施設と連携し、健康運動指導の現場体験を行う（8間程度）。

教科書

健康運動指導士養成講習会テキスト（上下巻）

参考書

プリントを配布する

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 内藤 整

授業の概要

この講義は、環境や人間生活を理解するための基本的な科目である。自然環境の中では、植物も動物もそれぞれの種が互いに影響を与えながら生態系を構成している。生態系におけるエネルギー生産者である植物と人間との関係、植物の物質生産機能について解説する。

【アクティブラーニング】プレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】課題（小テスト、レポート）に対しては、講評などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1.生態系におけるエネルギーの流れ、人間生活における植物の重要性について理解し説明できる。
- 2.植物の物質生産機能について説明できる。
- 3.野生植物と栽培植物の違いについて説明できる。

評価方法

授業中の小テストや課題の提出状況などの平常点30%（到達目標1,2を評価）と定期試験70%（到達目標1,2,3を評価）によって評価を行う。

注意事項

低学年のうちに受講することが望ましい。

プレゼンテーションを取り入れているので、パワーポイントが使えることが望ましい。

授業計画

回数	内容
第1回	食物とは（独立栄養と従属栄養） 課題「作物について」あるいは「植物の不思議」（詳しい内容については講義中に指示する）
第2回	植物が必要とする養分
第3回	人間に必要な栄養 課題レポート「タンパク質を構成するアミノ酸」
第4回	食と健康
第5回	植物の成長
第6回	植物の形態と構造I. 細胞
第7回	植物の形態と構造II. 組織と器官
第8回	光合成I. 光合成器官植物の形態と構造
第9回	光合成II. 電子伝達系
第10回	光合成III. カルビンサイクル
第11回	光合成IV. C 4 ジカルボン酸サイクルとベンケイソウ型有機酸代謝
第12回	光合成と環境条件
第13回	群落光合成と物質生産
第14回	植物に関する疑問 【プレゼンテーションとディスカッション】
第15回	野生植物と栽培植物

授業外学習

- ・予習として、毎回配布されるプリントの英語部分を訳して、内容を理解しておく（15時間）。
- ・小テストを行うので、前回までの復習をしておくこと（30時間）。
- ・日常生活の中でどのような食物（植物）を摂取しているか調べる（3時間）。
- ・タンパク質を構成するアミノ酸の種類と化学構造を調べる（課題レポート「タンパク質を構成するアミノ酸」）（2時間）。
- ・作物の起源、来歴、栽培法、生理機能、形態的特徴など指示された内容について調べる（10時間）。

教科書

使用しない。プリントを配布する。

参考書

清水碩著「大学の生物学 植物生理学」裳華房、M.J.Chrispeels and D.E.Sadava 「Plants, Genes, and Agriculture」

Jones and Bartlett Publishers、薮野友三郎他著「植物遺伝学」朝倉書店、エリック・シュローサー著「ファストフードが世界を食いつくす」草思社、フレッド・マグドフ他編「利潤への渴望」大月書店、ティム・ラング他著「フード・ウォーズ」コモンズ、など授業中に適宜案内する。

備考

環境リスク論（34257）

後期

Environmental Risk

生命科学部 健康科学科

年次	2 年
対象	25 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 妹尾護

授業の概要

私たちの身近な水について、水質基準値について説明するとともに、各物質の人体への影響や水質汚染の実例（公害病等）について解説する。
【フィードバック】課題（レポート）に対する講評や省察等のフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1 私たちの生活環境における水（水道水、地下水等）について、水質基準の考え方を理解し説明できる。
- 2 各水質基準項目について、公害病等の人体への影響を理解し、論述することができる。

評価方法

授業時間中に実施する小テスト20％（到達目標1を評価）、最終レポート80％（到達目標1，2を評価）により成績評価を行う。

注意事項

特になし。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（授業の進め方、参考資料、授業外学習、評価方法等の説明）
第2回	水質基準値と水質汚染
第3回	水道水ができるまで（緩速・急速ろ過法、高度浄水処理）
第4回	遊離・結合残留塩素
第5回	一般細菌および大腸菌
第6回	カドミウム
第7回	水銀
第8回	鉛、ヒ素、シアン化物イオン
第9回	硝酸態窒素および亜硝酸態窒素、フッ素
第10回	ホウ素および亜鉛
第11回	アルミニウム
第12回	鉄および銅
第13回	ナトリウム、マグネシウム、カルシウム（硬度）
第14回	陰イオン界面活性剤
第15回	総復習・まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

・前回の授業内容について復習するとともに、配布プリント等により、次回の授業内容を確認し、その範囲の専門用語の意味等を調べて理解し

ておくこと。

教科書

配布プリントを使用する。（教科書は使用しない）

参考書

授業中に適宜紹介する。

備考

体力測定法（実習含む）（34404）

前期

Measurement and Assessment of Physical Fitness

生命科学部 健康科学科

年次	2 年
対象	25 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 山野力

授業の概要

運動機能、運動能力、そして運動技能について、測定・評価方法を学び実習する。実習のデータ処理、分析、推定値などの統計処理及びデータの妥当性・客観性を検定する技能を習得する。

到達目標

講義では評価の意義と考え方、測定・評価方法等を理解し、実習ではその内容を実践できるようになる。

評価方法

課題レポート20％、測定報告20％、学期内テスト60％により評価する。

注意事項

- ・講義は、データの収集及び処理があるので欠席をしないこと。
- ・実際に測定、実技を行うので動きやすい服装を用意すること。

授業計画

回数	内容
第1回	トレーナーによる身体機能・体力評価の目的と意義および役割
第2回	身体機能の評価プロセスと検査測定
第3回	形態の計測方法（周囲径計測、身体組成の測定、キャリパー）
第4回	姿勢・身体アライメントの計測方法
第5回	関節可動域の計測方法I（目的と意義）
第6回	関節可動域の計測方法II（具体的方法）
第7回	徒手筋力検査法I（筋萎縮と筋肥大の観察）
第8回	徒手筋力検査法II（具体的方法）
第9回	一般的な体力測定法I（文部科学省体力テスト）
第10回	中高齢者の体力測定法I
第11回	中高齢者の体力測定法II
第12回	高齢者の体力測定法I
第13回	高齢者の体力測定法II
第14回	介護予防に関連する体力測定法
第15回	データ処理と評価方法

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・各回の講義に対し予習と復習を必ず行うこと。

教科書

講義用の資料を配布する。

参考書

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト5
日本スポーツ協会体カテストの方法と活用

備考

Cardiopulmonary Exercise Test(Include Practice)

生命科学部 健康科学科

年次	2 年
対象	25 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	椎葉大輔 吉田悦男

授業の概要

本講義は、健康運動指導者に必須となる専門的知識である運動負荷試験の意義と手法を身につける事を目的とする。具体的には、運動生理学の基礎理論、運動に対する生理学的諸指標の応答と実際などを取り上げ、運動制限の要因となる疾病の病態生理、運動負荷テストのプロトコールを提示し、被験者への評価、判定などの分析、考察について学ぶ。【アクティブラーニング】機器などを用いた負荷テスト（実習）によって血圧および心電図などの読み取り、判断する能力を養成する。【フィードバック】測定結果を元に、先行報告を交え運動負荷による生体の応答について、解説・指導する。

到達目標

- 1「運動負荷試験の意義について理解し説明できる」
- 2「各種運動負荷試験の手法を習得し実施できる」
- 3「運動負荷試験における禁忌、エンドポイント設定などを理解し、安全な運動負荷試験の方法を理解・説明および実施できる」

評価方法

小テスト 5 0％（到達目標 1， 3）、授業内（実習）評価 3 0％（到達目標 2， 3）およびレポート 2 0％（到達目標 1， 3）で総合的に評価する。

注意事項

本講義は、運動負荷テストを理論（評価・判断）と実習（機器操作）の両面から学ぶ授業であることから、機器の使用法の習得や手技の習熟度も評価対象となる。これらが授業時間内で十分に習得できない場合は、教員に相談の上、授業時間外でトレーニングを行うこと。

授業計画

回数	内容
第1回	運動負荷試験とは（吉田）
第2回	健診の意義と重要性（吉田）
第3回	メディカルチェックとインフォームドコンセント（吉田）
第4回	心拍数と血圧の測定法（椎葉）
第5回	安静時の心電図の計測と読み方（吉田 椎葉）
第6回	運動時の心電図の計測と読み方（吉田 椎葉）
第7回	運動負荷試験 1（運動中の心拍数・心電図）（吉田 椎葉）
第8回	運動負荷試験 2（運動中の血圧）（吉田 椎葉）
第9回	安静時の基礎代謝（椎葉）
第10回	運動負荷を加えたときの酸素摂取量（椎葉 枝松）
第11回	最大運動時の心拍と酸素摂取量（1）（椎葉 枝松）
第12回	最大運動時の心拍と酸素摂取量（2）（椎葉 枝松）
第13回	運動に対する生理応答と被験者特性（服薬者）（吉田）
第14回	運動に対する生理応答と被験者特性（高齢者）（椎葉）

回数	内容
第15回	まとめ（吉田 椎葉）

授業外学習

毎授業で授業外学習課題を出す。課題について，復習および先行報告等を検索し，次回授業で発表できるよう，準備すること（2時間）。また，授業終了時に次回テーマと予習項目を提示するので，予習を行うこと（2時間）。

教科書

運動処方 の指針|日本体力医学会体力科学編集委員会|南江堂|978-4-524-26216-8

参考書

講義中に紹介する。

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 19 W,W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 浅川富美雪

授業の概要

人々が適切な保健医療サービスを受け、健康に生活していくために、どのような保健医療施設とマンパワーが用意されているか、どのようなシステムが活動しているか理解する。また、活動の根拠となる科学的思考態度を学ぶ。
〔フィードバック〕課題・小テストなどの講評や省察

到達目標

健康の成り立ちを生活レベルから多要因（病因、環境要因、宿主要因）的に理解し、予防の考え方（一次・二次・三次予防）や人々の健康生活のための社会のしくみについて理解する。

評価方法

課題提出・授業に取り組む姿勢・小テスト（20％）と定期試験（80％）で評価を行う。

注意事項

関連する科目を履修しておくこと
講義の順番や進度は前後することがある。また、内容も一部変わることがある。

授業計画

回数	内容
第1回	健康の定義、健康の概念、健康の連続性、人間－環境系
第2回	健康（病気）の成り立ち、疫学的考え方・アプローチ
第3回	疫学的要因（病因、環境要因、宿主要因）、多要因疾病観
第4回	予防の考え方（一次・二次・三次予防）
第5回	健康水準・疾病異常の測定、疫学指標（死亡率、罹患率etc）
第6回	人口、人口静態統計、国勢調査、比率・用語、人口ピラミッド
第7回	人口動態統計、比率・用語、出生率の推移、死亡率の推移
第8回	国民の健康水準、生命表、平均余命、その他の保健統計
第9回	しくみ、保健行政、組織、国、地方自治体、保健所、地域保健法
第10回	保健医療制度、地域保健医療計画、保健医療と福祉
第11回	母子保健、現状と動向、主な施策、今後の展開
第12回	成人保健、生活習慣病（がんetc）、現状と動向、予防と対策
第13回	老人保健、高齢化社会、老人問題、老人福祉、介護保険
第14回	保健習慣、包括的保健医療福祉
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

課題を与えるので、授業外学習（各2時間）し、提出すること。また、授業中にランダムに発問 or 適宜小テストをするので、授業内容についてよく復習をしておくこと

教科書

プリントを配布する。

参考書

国民衛生の動向（厚生統計協会）等

備考

年次	2 年
対象	25 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 浅川富美雪

授業の概要

人間の行動が環境に及ぼす影響並びに各種環境が生活に及ぼす影響について、基礎的知識を習得するとともに対策の立案、評価に必要な基礎的知識と技術を学習する。とくに重視する事項は人間と環境の相互作用の理解ならびに地域社会におけるその行動である。
【フィードバック】課題・小テストなどの講評や省察

到達目標

Think Globally, Act Locally の意味を理解し、行動することができるように、知識と技術および考え方を習得する。

評価方法

課題提出・授業に取り組む姿勢・小テスト（20％）と定期試験（80％）で評価を行う。

注意事項

関連する科目を履修しておくこと
講義の順番や進度は前後することがある。また、内容も一部変わることがある。

授業計画

回数	内容
第1回	環境の概念、人間－環境系、生態系、量－影響（反応）関係
第2回	公害、発生要因、影響、対策、環境影響評価、環境基本法
第3回	空気（大気）環境と健康、物理的要因（気象）・化学的成分
第4回	大気汚染（物質）、影響、現状、環境基準、対策
第5回	水環境と健康、水質指標、上水道、水質基準
第6回	水質汚濁、污水处理、下水道、排水基準、環境基準
第7回	廃棄物、処理、土壌汚染、化学物質汚染、騒音、振動、悪臭
第8回	居住・生活環境、室内空気汚染、温熱指数、至適条件
第9回	働く環境と健康、歴史、労働基準法、労働安全衛生法
第10回	職業性因子による健康障害、物理的要因、じん肺
第11回	有機溶剤、重金属、中毒、発がん、生物学的モニタリング
第12回	健康管理、作業管理、作業環境管理、Total Health Promotion Plan
第13回	地球環境問題、地球温暖化、オゾン層の破壊・熱帯雨林の減少etc
第14回	Think Globally, Act Locally.
第15回	総まとめ

授業外学習

課題を与えるので、授業外学習（各4時間）し、提出すること。また、授業中にランダムに発問 or 適宜小テストをするので、授業内容についてよく復習をしておくこと

教科書

プリントを配布する。

参考書

国民衛生の動向（厚生統計協会）、環境白書（環境省）等

備考

年次	3 年
対象	24 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 浅川富美雪

授業の概要

この講義においては、多要因から成る健康の成り立ちを生活レベルから理解し、人々の健康生活の保持増進や疾病の予防、医療・福祉のために考え、行動することができるように、考え方や知識を習得する。

なお、公衆衛生学は極めて包括的、学際的かつ集学的な学問体系であるため、関連した諸科学の学習が重要である。また、公衆衛生学には医学・医療の社会的適用という側面があるため、日頃から総合性、社会性、現実性、即時性を養うよう心がけることが望まれる。

【フィードバック】課題・小テストなどの講評や省察

到達目標

公衆衛生の概念と包括的保健医療福祉の考え方および基本的な内容を理解する。

評価方法

課題提出・授業に取り組む姿勢・小テスト（20％）と定期試験（80％）で評価を行う。

注意事項

関連する科目を履修しておくこと

講義の順番や進度は前後することがある。

授業計画

回数	内容
第1回	公衆衛生（学）の定義、公衆衛生の倫理、健康の概念、健康（病気）の成り立ち
第2回	疫学、疫学的要因、疫学的考え方・アプローチ、多要因疾病観
第3回	人口・保健統計、健康水準の測定、疫学指標（出生率、死亡率etc）
第4回	保健行政、組織、国、地方自治体、保健所、地域保健法、衛生法規
第5回	保健医療制度、地域保健医療計画、保健医療と福祉・社会保障
第6回	母子保健、主な施策、現状、問題点とその要因、学校保健
第7回	成人保健、生活習慣病（がんetc）、現状と動向、予防と対策
第8回	高齢者保健、高齢化社会、高齢者問題、高齢者福祉、介護保険
第9回	感染症・予防対策、食品衛生、食中毒の予防、国民栄養、精神保健
第10回	保健習慣、一次・二次・三次予防、包括的保健医療福祉
第11回	環境保健、人間－環境系、生態系、大気（空気）、水、住居、廃棄物
第12回	化学物質と健康、環境基本法、公害と健康被害の補償、地球環境問題
第13回	産業保健、働く環境と健康、労働基準法、労働安全衛生法
第14回	職業病とその予防、作業関連疾患、健康管理、健康づくり（THP）
第15回	総まとめ

授業外学習

課題を与えるので、授業外学習（各 4 時間）し、提出すること。また、授業中にランダムに発問 or 適宜小テストをするので、授業内容についてよく復習をしておくこと

教科書

わかりやすい公衆衛生学（ヌーヴェルヒロカワ）

参考書

国民衛生の動向（厚生統計協会）等

備考

学校保健（34455）

後期

School Health

生命科学部 健康科学科

年次	2 年
対象	25 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 浅川富美雪

授業の概要

学校保健とは保健教育、保健管理、学校安全、学校体育、学校給食等により、学習能率を高め、教育効果を確保し、児童、生徒、学生および幼児や教職員の健康の保持増進を図ることにあるということを理解する。

〔アクティブラーニング〕調査学習とプレゼンテーションを取り入れている。

〔フィードバック〕課題・小テストなどの講評や省察

到達目標

学校保健とは、どのような制度の骨格と内容を持ち、わが国の保健対策の中でどのような位置にあるのかを理解する。

評価方法

授業に取り組む姿勢・グループ or 個人学習とプレゼンテーション（20％）および定期試験（80％）で評価を行う。

注意事項

関連する科目を履修しておくこと

講義の順番や進度は前後することがある。また、内容も一部変わることがある。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	学校保健の意義
第3回	保健教育（1）保健学習（グループ or 個人学習 & 発表）
第4回	保健教育（2）保健指導（グループ or 個人学習 & 発表）
第5回	保健管理（1）健康診断
第6回	保健管理（2）健康相談
第7回	保健管理（3）感染症予防（グループ or 個人学習 & 発表）
第8回	保健管理（4）環境衛生（グループ or 個人学習 & 発表）
第9回	学校安全 安全教育・安全管理
第10回	学校体育 教育課程内活動・教育課程外活動
第11回	学校給食
第12回	特殊教育
第13回	職員の健康管理（1）労働災害・職業病
第14回	職員の健康管理（2）健康的な職業生活
第15回	総まとめ

授業外学習

授業中にランダムに発問 or 適宜小テストをするので、授業内容についてよく復習（各4時間）をしておくこと。また、教科書からテーマを選択

してグループ or 個人で学習し、発表させるので、自主的学習をすること

教科書

現代高等保健体育（大修館書店）およびプリント配布

参考書

必要に応じて指示する。

備考

年次	2 年
対象	25 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 北村吉宏

授業の概要

救急救命士として、救急現場等において活動する中でも頻度の高い精神疾患について、傷病者がどのような精神症状をもっているのかを評価・把握することは大切である。そうした精神疾患の病態や症状、所見等について学び、観察、評価、処置及び搬送に関する知識を習得する。

到達目標

- 1 精神疾患について原因、症状の両面から大まかに分類し、それぞれについて概要を説明できる。
- 2 精神障害傷病者への対応時に必要な法律をあげ、それぞれの概要を説明できる。
- 3 向精神薬の主な副作用について概要を説明できる。
- 4 精神科救急の医療体制について説明できる。

評価方法

・ミニテスト 30%（到達目標 1 ～ 4 を評価）、定期試験 40%（到達目標 1 ～ 4 を評価）により成績を評価し、総合計 6 0 点以上を合格とする。

注意事項

- ・救急救命士資格の取得、消防・警察・自衛隊を目指す学生を対象とする。
- ・本科目は、救急救命士になるための資格免許科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。
- ・より良い授業環境を確保するため、受講中の態度、遅刻、途中退出等の扱いについて留意点をまとめた「受講上の注意」を明確に示すので遵守すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	精神障害（総論）：分類、疫学
第3回	精神障害（総論）：主要症候、基本的対応
第4回	統合失調症、気分障害
第5回	器質性精神障害
第6回	中毒性障害：アルコール関連障害、アルコール依存・乱用と関連が強い身体疾患
第7回	中毒性障害：覚醒剤乱用・依存、危険ドラッグ
第8回	その他の精神障害：パニック障害、心的外傷後ストレス障害（PTSD）
第9回	その他の精神障害：解離性（転換性）障害、摂食障害
第10回	その他の精神障害：パーソナリティ障害、精神遅滞、広汎性発達障害
第11回	向精神薬の主な副作用：悪性症候群、セロトニン症候群
第12回	精神保健福祉・その他：精神保健福祉法について
第13回	精神保健福祉・その他：精神保健福祉を支える仕組み
第14回	精神科救急医療体制について

回数	内容
第15回	精神医学まとめ

授業外学習

- ・学習時間の目安：合計 3 0 時間
- ・次回の授業内容を確認し、その範囲の専門用語の意味等を調べて理解しておくこと。
- ・授業内容の復習として、ミニテストを 3 回程度実施する。

教科書

改訂第 9 版 救急救命士標準テキスト（上巻）：へるす出版（10,584円（税込））ISBN 978-4-89269-869-9

改訂第 9 版 救急救命士標準テキスト（下巻）：へるす出版（10,584円（税込））ISBN 978-4-89269-870-5

参考書

適宜指示する。

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 梶原彰子

授業の概要

急速に変化していく社会生活の中で、よりよく生きていくために心の健康を維持することは不可欠である。この講義では社会生活における心の健康や心の病についての基礎知識を学ぶ。また、自身の心の健康に興味を持ち、健康な心の維持を援助するために家庭、学校・職場等で展開されているメンタルヘルス活動について学ぶ。

到達目標

- 1 心の健康や心の病についての基礎知識を理解する。
- 2 自身の心の健康について関心を持つ。
- 3 心の病やその予防について必要な対処法を身につける。

評価方法

集中講義であり、より良い授業環境を確保するため、受講中の態度、欠席、遅刻、途中退出の扱い等に関する留意点をまとめた初回講義で配布する「オリエンテーション」を熟読し、遵守すること。初回到座席指定するため、指定の席に座ることが出席の条件です。態度・姿勢（50％）、課題（20％）、テスト等（30％）等により総合的に評価する。

注意事項

授業内で指定する準備物は忘れると活動に参加できません。必ず持参してください。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション・メンタルヘルスとは？
第2回	大学生に知ってほしいメンタルヘルス
第3回	災害時のメンタルヘルス
第4回	依存のメンタルヘルス
第5回	こころと行動の発達①（乳幼児期）
第6回	こころと行動の発達②（学童期）
第7回	こころと行動の発達③（思春期・青年期・成人期）
第8回	こころと行動の発達④（中年期・老年期）
第9回	こころの病とメンタルヘルス①（気分が落ち込むとき）
第10回	こころの病とメンタルヘルス②（こころが病むとき）
第11回	こころの病とメンタルヘルス③（さまざまな病気）
第12回	こころの病とメンタルヘルス④（こころの病の治療とは）
第13回	ストレスとメンタルヘルス
第14回	働く人のメンタルヘルス
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

各回の授業時に課題（小レポートや感想）を提示する。最終日にはテスト(持ち込み不可)を実施する。

教科書

授業中にレジメや資料を配布します。

参考書

授業中に適宜紹介します。

備考

生活習慣病予防（34205）

前期

Prevention of Lifestyle-related Diseases

生命科学部 健康科学科

年次	2 年
対象	25 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 椎葉大輔  矢田貝智恵子  吉田悦男

授業の概要

運動不足、栄養過剰、不規則な生活、ストレス増大などにより生活習慣病のリスクが増している。また、近年では生活習慣に起因する代謝異常が児童期から見られることから、生活習慣病予防に関する知見は幼児や児童を対象とする者にとっても重要な知識である。本授業では、生活習慣病の原因・治療法および運動処方や栄養摂取について学び、適切な運動処方や食生活指導を実施できる人材の育成を目標としている。

【アクティブラーニング】運動処方や食生活指導の基礎となるエネルギー摂取・消費量および運動強度など学んだ内容から課題を提示し、それについて発言機会を設定する。

【フィードバック】アクティブラーニング内の課題についての解説を集団および個別に行う。

到達目標

- 1 「各疾患の基本メカニズムについて理解し説明できる」
- 2 「各疾患を予防する上で生活習慣病として共通する部分と疾病別に分けて考えるべき部分を、運動と食事の知識に基づき系統立てて理解し説明できる」

評価方法

授業に取り組む姿勢 1 0 %（到達目標 1、2）、小テスト 2 0 %（到達目標 1、2）、定期試験 7 0 %（到達目標 1、2）で評価する。

注意事項

運動処方（3 年後期）を履修する予定の学生は履修しておくことが望ましい。

授業計画

回数	内容
第1回	メタボリックシンドロームについて（吉田・椎葉）
第2回	肥満症（1）（椎葉・吉田）
第3回	肥満症（2）（矢田貝・吉田）
第4回	脂質異常症（高尿酸血症）（1）（椎葉・吉田）
第5回	脂質異常症（高尿酸血症）（2）（矢田貝・吉田）
第6回	糖尿病（1）（椎葉・吉田）
第7回	糖尿病（2）（矢田貝・吉田）
第8回	高血圧症（1）（椎葉・吉田）
第9回	高血圧症（2）（矢田貝・吉田）
第10回	虚血性心疾患とリハビリテーション（椎葉・吉田）
第11回	呼吸器疾患（慢性閉塞性肺疾患、運動誘発性喘息）（矢田貝・吉田）
第12回	ロコモティブシンドローム（椎葉・吉田）
第13回	がん（悪性新生物）（矢田貝・吉田）
第14回	運動器退行性疾患（椎葉・吉田）

回数	内容
第15回	軽度認知障害、認知症（矢田貝・吉田）

授業外学習

学習時間の目安:合計 6 0 時間

各回の授業開始時に小テストを課すので、前回の授業内容については、よく復習しておくこと（各4時間）。

また予習については、各回講義終了時に指示する。

教科書

「はじめて学ぶ 健康・スポーツ科学シリーズ 6 スポーツ・健康栄養学」・赤田 みゆき他著・化学同人・ISBN:978-4-7598-1709-6

参考書

講義中に適宜案内する。

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 矢田貝智恵子

授業の概要

ヒトが成長し、健康的な生活を送るために不可欠な食品の種類と栄養学的特徴、特殊成分、調理・加工特性と用途、食品の表示や規格など食品を正しく理解するための基礎知識や食品の栄養価算定方法を学ぶ。さらに、食の安全や食品偽装などの食品産業倫理について学び、食品構成をもとに、健康で豊かな生活をおくるための望ましい食生活について理解する。

健康科学分野のうち、食品に関する基礎的知識を身につけ、健康的な生活を営むことができ、幅広い教養と豊かな人間性を備えた社会人の育成を目的としている。

【フィードバック】確認テストに対して解説を含めたフィードバックを行う。

到達目標

- 1 食品の種類と栄養学的特徴、特殊成分、調理・加工特性と用途、食品の表示や規格など、食品についての基礎知識や食品産業倫理について説明できる。
- 2 食品成分表の概要について理解し、栄養価の算定ができる。
- 3 食品構成をもとに、健康的な生活をおくるための望ましい食生活について説明できる。

評価方法

授業に取り組む姿勢 10%（到達目標1）、レポート 30%（到達目標1、2、3）、定期試験 60%（到達目標1、2）により成績を評価し、総合計 60 点以上を合格とする。

注意事項

- ・指定するテキストを必ず準備すること。
- ・食品・栄養に関する講義を、段階的・系統的に進めるため1年次前期での履修を勧める。
- ・講義の進捗状況によって、順番が前後することもある。

授業計画

回数	内容
第1回	食と生活-食品産業倫理-
第2回	食品の種類と分類
第3回	食品成分表
第4回	穀類の栄養素と特徴
第5回	いも類の栄養素と特徴
第6回	豆類・種実類の栄養素と特徴
第7回	野菜類の栄養素と特徴（1）
第8回	野菜類の栄養素と特徴（2）
第9回	果実類の栄養素と特徴
第10回	きのこ・藻類の栄養素と特徴
第11回	食肉類の栄養素と特徴
第12回	卵類の栄養素と特徴

回数	内容
第13回	乳類の栄養素と特徴
第14回	魚介類の栄養素と特徴
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・ 次回の授業範囲について、テキストを読み、講義内容が理解できるよう予習しておくこと。
- ・ 各回の授業開始時に確認テストを実施するので、前回の授業についてよく復習しておくこと。

教科書

「食品学―食品成分と機能性― 新スタンダード栄養・食物シリーズ 5」・久保田紀久枝、森光康次郎編・東京化学同人・ISBN:978-4-8079-1665-8
「オールガイド食品成分表2020」・実教出版編集部・ISBN:978-4-407-34850-7

参考書

適宜紹介する。

備考

年次	2 年
対象	25 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 内藤佐和

授業の概要

食の安全性には微生物や化学物質など様々なものが影響を及ぼしている。また，近年は食品による事故が多発し，衛生管理に関する問題も増加している。

本講義では，健康・医療に関する基礎的な知識を身につけることを目標とし、「食の安全性」確保のために、食中毒をはじめ飲食に起因する健康障害やその予防対策等について学ぶ。

到達目標

- 1 食の安全・衛生を確保するための基礎知識を理解し説明できる
- 2 食中毒の原因や予防対策について理解し説明できる

評価方法

授業中に実施する練習課題を10%（到達目標1を評価）レポート20%（到達目標2を評価）および定期試験70%（到達目標1, 2を評価）により総合的に評価する。

注意事項

受講にあたっては微生物学の基礎知識を有していることが望ましい。

授業の順番や進度は前後することがある。

授業計画

回数	内容
第1回	食品衛生とは
第2回	食品と微生物（微生物の生育と影響要因）
第3回	食品の腐敗と変敗、食品変質の防止法
第4回	食中毒の分類と発生状況
第5回	細菌性食中毒（感染型）
第6回	細菌性食中毒（生体内毒素型）
第7回	細菌性食中毒（食品内毒素型）
第8回	ウイルス性食中毒、化学性食中毒
第9回	自然毒食中毒（植物性・動物性）
第10回	寄生虫、環境汚染物質による食中毒
第11回	食中毒の予防 レポート（食中毒について）
第12回	食品添加物の役割と安全性
第13回	食品の表示
第14回	食品衛生対策（HACCP等）
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

次回テーマに関連する専門用語等について調べ、理解できるよう予習しておくこと（各2時間）。

各回で練習課題を実施するので、復習をしておくこと。また、授業内容の理解度向上のため、課題レポートを出題する（各2時間）。

教科書

資料プリントを配布する。

参考書

食品衛生学第3版，東京化学同人，一色賢司編，978-4-8079-1603-0

イラスト 食品衛生学，東京教学社，石田和夫ら，4-8082-6013-1

その他，参考となるものは授業の中で随時紹介する。

備考

環境ハザード（34502）

前期

Environmental Hazard
生命科学部 健康科学科

年次	2 年
対象	25 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	👤 妹尾護

授業の概要

化学物質は、環境を経由して人や生態系に影響を及ぼすが、それぞれの物質が持つハザード（Hazard：有害性）について、リスク評価と関連づけて解説する。また、身近な問題としての紫外線、電磁波、放射線等によるハザードを取り上げ、それらが人体に及ぼす影響等についても説明する。

【フィードバック】課題（レポート）に対する講評等のフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

私たちの生活環境における身近な物質のハザード（有害性）について、その特徴や人体に及ぼす影響等を理解し、説明できる。

評価方法

授業時間中に実施する小テスト20％および最終レポート80％（到達目標を評価）により成績評価を行う。

注意事項

特になし。

授業計画

回数	内容
	オリエンテーション（授業の進め方、参考資料、授業外学習、評価方法等の説明）
第1回	
第2回	ハザード (Hazard) と リスク (Risk)
第3回	物質による毒性
第4回	健康リスク評価
第5回	PRTR 制度
第6回	PRTR 物質の有害性
第7回	紫外線によるハザード – 紫外線の種類と性質 –
第8回	紫外線によるハザード – 紫外線の人体への影響 –
第9回	電磁波によるハザード – 超低周波の人体への影響 –
第10回	電磁波によるハザード – 高周波の人体への影響 –
第11回	放射性物質によるハザード – 放射性物質の種類と性質 –
第12回	放射性物質によるハザード – 放射性物質の人体への影響 –
第13回	化学物質によるハザード – 界面活性剤 –

回数	内容
第14回	化学物質によるハザード－内分泌攪乱物質－
第15回	総復習・まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

・前回の授業内容について復習するとともに、配布プリント等により、次回の授業内容を確認し、その範囲の専門用語の意味等を調べて理解しておくこと。

教科書

配布プリントを使用する。（教科書は使用しない）

参考書

授業中に適宜紹介する。

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 加藤敬史

授業の概要

生物と環境は相互に関わり合いながら変化している。現在私たちは地球温暖化、巨大地震などの環境問題や自然災害の驚異に直面しているが、自然環境の変化と我々人類を含む生物との関わりをより正確に把握するためには、短期間の観測で理解することは困難である。地球の長い歴史の中で何度も繰り返されてきた環境変化と生物の適応放散は地球の履歴書とでもいうべき化石や地層の中に記録されている。この講義では古生物学的、地質学的な手法によって自然を調べ、自然環境を解析する手法を紹介する。

【フィードバック】課題とQuickQuizに対して提出メ切り後ホームページ上に解説をあげ、随時フィードバックを行う。

到達目標

生物の分類体系と、古生物学的、地質学的手法によって明らかになった生命史の概略を理解し、説明できる。卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）の「健康科学分野の基礎的な知識を身につける」に対応して、私たちの身近な自然環境について理解する。

評価方法

課題（20％）、講義への意欲的な取り組み（10％）定期試験（70％）の割合で評価する。なお、講義への意欲的な取組については、質問カードやe-mailでの質問や、講義中の発言など、授業に参加し、積極的に学ぶ態度とその内容を考慮して評価する。

注意事項

教養科目の地球科学を受講すると、より理解が深まる。

授業計画

回数	内容
第1回	はじめに
第2回	自然を調べる
第3回	自然を分ける（生物の体系）
第4回	自然を分ける（生物分類の実際）
第5回	化石とは何か
第6回	地層と化石
第7回	環境の指示者としての古生物（様々な示相化石）
第8回	環境の指示者としての古生物（微化石を用いた環境解析）
第9回	生物の大量絶滅から考える地球環境
第10回	新生代の地球環境（哺乳類の時代）
第11回	新生代の地球環境（氷河と海面変動）
第12回	人類の歴史
第13回	日本の動物相の変遷
第14回	開発と生物
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間：60時間

講義で使用するスライドはホームページ（<http://www.kusa.ac.jp/~tkato>）上にアップロードしてあるので指示に従って予習、復習を行うこと。
また、各講義に課題とQuickQuizを提示してあるので講義の進行に合わせて提出すること。提出は指定のメールフォームで行うこと。※パソコン、スマホなどでのアクセスが困難な学生は手書きのレポートも受け付ける。

教科書

なし（配付プリントを使用し、適宜参考資料・文献等を提示する）

参考書

配付プリントを使用し、適宜参考資料・文献等を提示する

備考

年次	2 年
対象	25 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 蘆原友里

授業の概要

【アクティブラーニング】国家試験対策を基盤とした実際の臨床現場における種々のX線検査の役割、救急搬送時の撮影モダリティの理解、災害時における放射線関連知識、放射線被ばくに関する法令・知識の習得。グループディスカッションや協働学習を導入。

到達目標

- 1 国家試験関連項目の理解を通じて実際の放射線管理区域内検査関連の臨床知識を体系的網羅的に説明できる。
- 2 医療機関搬送後初療室等でのX線検査に対する目的・項目・手順等が相応に類別できる。
- 3 医療、蘇生現場におけるチーム医療に寄与できる。

評価方法

受講姿勢： 30％ チーム学習(グループワーク)： 30％ テスト得点： 40％

注意事項

15週目(定期試験期間中)に、学期末試験として「グループによるピア評価・第14週までの進捗テスト」を実施する。

授業計画

回数	内容
第1回	救急医療とその歴史・救急医療にかかわる法令・感染対策・チーム医療・救急患者搬入時における臨床検査の進め方とその役割・救急診療に関する基礎的知識・各種生体モニタの知識
第2回	救急診療における医療情報管理・救急診療における放射線防護と法令の基礎知識
第3回	救急患者に対する対応の基本・危機管理に関する知識・撮影機器の管理と撮影時の注意点に関する知識
第4回	第1～3週までの内容を網羅したシナリオ作成・グループ討議・チームレポート提出
第5回	救急画像診断概論・薬剤副作用情報・内因性疾患患者の診療・内因性疾患の診療における撮影の実際(前半)
第6回	内因性疾患の診療における撮影の実際(後半)
第7回	第5・6週までの内容を網羅したシナリオ作成・グループ討議・チームレポート提出
第8回	グループによるピア評価・第7週までの進捗テスト
第9回	外傷患者の診療・外傷診療における撮影の実際(前半)
第10回	外傷診療における撮影の実際(後半)
第11回	第9・10週までの内容を網羅したシナリオ作成・グループ討議・チームレポート提出
第12回	小児撮影の実際・その他の救急疾患撮影・確認目的撮影に関する情報・電撃傷
第13回	災害医療の原則とトリアージの概念・災害医療における撮影の実際(+αとしてBDLS)
第14回	第12・13週までの内容を網羅したシナリオ作成・グループ討議・チームレポート提出
第15回	グループによるピア評価・第14週までの進捗テスト

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・ 次回の授業内容を確認し、範囲となる教科書等を一読し理解しておくこと。
- ・ グループディスカッションまでに、対応する授業回の復習を行っておくこと。
- ・ 毎回の授業に下記教科書2種を必ず持参すること。

教科書

日本救急撮影技師認定機構

救急撮影ガイドラインー救急撮影認定技師標準テキスト 改訂第2版(2016/05)

へるす出版 ISBN-13: 978-4892698866

救急救命士標準テキスト編集委員会

救急救命士標準テキスト<上巻> 改訂第9版(2015/10/1)

へるす出版 ISBN-10:4892698695 ISBN-13:978-4892698699

参考書

学習進捗に応じて考慮。

備考

フィールドワーク（34602）

前期

Fieldwork

生命科学部 健康科学科

年次	2 年
対象	25 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 加藤敬史  妹尾護  内藤整

授業の概要

私たちの周りの自然環境について、自然の大切さを知ることが目的とする。里山の保護、自然観察、生物と環境の相互の関わり、および水や土壌の汚染などについて、それらの現状を体験することによって深く理解し、それらの調査方法や測定・解析方法を身を以て学び、体得する。

自然保護活動にも参加してもらう。

自然の変動により、内容・担当日が変わることもあり得る。

【アクティブラーニング】フィールドワークを取り入れている。

【フィードバック】課題（レポート等）に対する講評や省察等のフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

1) 里山の自然の成り立ちについて理解し、竹林の整備を行うことの意義を説明できる。2) 資源の採掘が自然環境にどのような影響を与えるのか、含まれる鉱物の種類や、周辺の水質の調査などを通して、理解し説明できる。3) 岡山県の代表的な岩石である石灰岩が作り出す地形と、また、その地形に依存して生きる生物たちのによって成り立つ自然環境を理解し説明できる。4) 近代農業のメリットとデメリットを理解し、環境へのインパクトを低減する方策について説明できる。卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）の「健康科学分野の専門的知識・技能を身につける」に対応して、私たちの身近な自然環境についての知識と理解を深めること、自然環境の調査法などを身につけることを目標に設定している。

評価方法

実習中の積極的な活動（作業などの迅速で効率的な実施への協力、グループ内での役割を果たす、実習に対する創意工夫など）を評価する（80%）。実習の報告書・レポート（20%）の割合で評価する。

注意事項

- ・学内の竹林、および学外での実習（土曜日）を行う集中講義形式の授業である。天候によって内容や当初予定していた日時の変更もある。
- ・野外の活動のため、危険を伴う。事前に注意事項は説明するので、各自で責任のある行動が必要となる。
- ・移動手段の都合などから、受講数を制限することもある。
- ・予め実習のための資料をその都度配布する。その内容に関して事前に予習を行っておくこと。

授業計画

第 1 回 講義の目的、概要（担当：妹尾、内藤、加藤）

第 2 回～15 回 自然観察と竹林整備、春の里山を観察し、竹林の役割、利用、維持管理について体験する。（担当：妹尾、内藤、加藤）

第16 回～20 回 鉱山跡地の自然観察と水質調査。（担当：妹尾、加藤）

第21 回～25 回 石灰岩地帯の自然観察。（担当：妹尾、加藤）

第26 回～29 回 環境保全型農業体験。（担当：内藤）

第30 回 まとめ

【学外実習】第1回・30回は座学、第2回～15回は校地内での活動、第10回～29回は学外で行う。

授業外学習

学習時間の目安:合計30時間

各野外実習で、事前に資料を配付するので予習を行う（2時間×6回）。また各回の報告書を作成し提出する（3時間×6回）。

教科書

その都度、必要に応じ、プリント、資料を配布する。

参考書

必要に応じ、適宜紹介する。

備考

カウンセリング（34553）

後期

Counseling

生命科学部 健康科学科

年次	2 年
対象	25 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 片山 緑

授業の概要

カウンセリングの基本は相手の話を“聴く”ことである。ただこれは簡単なことのように、実に難しいことである。「自己理解」「人の話を聴く」「コミュニケーション」といった、自己や人との関わりの原点を演習を含めて探ったり、いくつかの心理療法や様々な場面でのカウンセリングの実践を概観することで、人と接するにあたって重要と思われる視点を習得してもらいたい。

到達目標

コミュニケーションについて知り、日常的な対人関係の中でカウンセリング的な視点を習得する。

評価方法

授業に取り組む姿勢、ミニレポートなど（20％）と定期試験（80％）により総合的に判断する。

注意事項

演習（グループ活動）を取り入れた授業であることを認識して履修すること。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション（自分の性格を知る）
- 第2回 カウンセリングとは何か①
- 第3回 カウンセリングとは何か②
- 第4回 心理療法4つの流派
- 第5回 “聴く”ということ①
- 第6回 “聴く”ということ②（演習）
- 第7回 自己理解（演習）
- 第8回 他者理解（演習）
- 第9回 “コミュニケーション”について（演習）
- 第10回 表現療法①
- 第11回 表現療法②（演習）
- 第12回 ストレスマネジメント（演習）
- 第13回 アサーション 積極的自己表現（演習）
- 第14回 学校現場でのカウンセリング・職場でのカウンセリング
- 第15回 まとめ

授業外学習

日常生活における人との関わりにおいて、授業で学んだ知識・技術を応用してみる。

教科書

なし

参考書

授業中に適宜案内する。

備考

ヒーリング実習（34105）

前期

Healing Training

生命科学部 健康科学科

年次	3 年
対象	24 ～ 19 W,W
単位数	2. 0 単位
担当教員	👤 美登由紀子

授業の概要

ストレス社会に生きる人間の身体と心に目を向けていき、ヒーリングの必要性、重要性について学ぶ。
自己のヒーリング方法を学び実践していくとともに、指導者として他社へのヒーリング指導方法を習得する。
休養の質を高め健康づくりに役立つ知識を身につける。

到達目標

- 1 ストレスについて理解する。
- 2 自己のヒーリング方法を習得し、実体験する。
- 3 他者へのヒーリングの指導方法を習得する。
- 4 自己の生活リズムを見直す。

評価方法

授業に取り組む態度・姿勢・授業ノート記入・ヒーリング方法実践・定期試験等により総合的に評価する。評価の比率は、授業の積極性40%・授業ノート30%・定期試験30%

注意事項

授業外でもヒーリング実践出来るよう解りやすい説明と課題の提出

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	ストレスとは
第3回	ヒーリングとは
第4回	ヒーリング方法1「自律訓練法」
第5回	ヒーリング方法2「筋肉弛緩法」
第6回	ヒーリング方法3「呼吸法」
第7回	ヨガ理論
第8回	ヨガ実践1呼吸法
第9回	ヨガ実践2ポーズ
第10回	ヨガ実践3ポーズ
第11回	ストレッチポール
第12回	ペアヨガ・ペアストレッチ
第13回	ピラティス理論
第14回	ピラティス実践
第15回	ヒーリングまとめ・試験

授業外学習

回数	内容
第1回	オリエンテーション 仲間との交流を深める （学習時間の目安：各2時間）
第2回	「ヒーリングとは」授業内容を理解する ヒーリングについて興味関心を持つ
第3回	「ストレスとは」授業内容を理解する。日々のストレスに気づく
第4回	「ストレスチェック」授業内容を理解する。自己のストレスチェックを継続する
第5回	ヒーリング方法1「自律訓練法」の練習
第6回	ヒーリング方法2「筋肉弛緩法」の練習
第7回	ヒーリング方法3「呼吸法」の練習
第8回	ヒーリング方法4「ヨガ」の練習
第9回	「ヨガ」継続訓練 知識理解
第10回	「ヨガ」継続訓練 呼吸法
第11回	「ヨガ」継続訓練 ポーズ習得
第12回	「ヨガ」継続訓練 柔軟性強化
第13回	「ヨガ」継続訓練 集中力強化
第14回	「ピラティス」練習 体幹強化
第15回	ヒーリング方法実践

教科書

授業内で提示する

参考書

授業内で紹介

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 矢田貝智恵子

授業の概要

健康科学分野のうち、食品に関する基礎的および専門的知識を身につけ、幅広い教養と豊かな人間性を備えた社会人の育成を目的としている。具体的には、ヒトが成長し、健康的な生活をおくるために不可欠なものである食品が、どのような成分からなり、どのような性質や機能を持っているのか、さらには加工・調理などによる食品成分の変化や、性質、物性に与える影響などについて学ぶ。また、食事調査および栄養計算の方法を学ぶとともに、行事食などに関する学習を通して食文化に興味・関心を持ち、健康的で豊かな生活を営む態度を育てる。
【フィードバック】確認テストに対して解説を含めたフィードバックを行う。

到達目標

- 食品に含まれる化学成分や栄養素の分類や種類、構造、性質について科学的に説明できる。
- 食品成分の変化や利用食品について、例を挙げて説明できる。
- 食事調査および栄養計算の方法を理解し、利用できる。
- 行事食などを通して食文化に興味・関心を持ち、健康的で豊かな生活を営むことができるようになる。

評価方法

授業に取り組む姿勢 10%（到達目標1、2）、レポート 20%（到達目標3、4）、定期試験 70%（到達目標1、2）により成績を評価し、総合計 60 点以上を合格とする。

注意事項

- ・指定するテキストを必ず購入すること。（前期「食品栄養学」で購入済みの場合は不要）
- ・食品・栄養に関する講義を、段階的・系統的に学ぶため、栄養学概論（2 年前期）履修予定者の履修を勧める。
- ・講義の進捗状況によって、順番が前後することもある。

授業計画

回数	内容
第1回	食品とは（食品倫理を含む）
第2回	食品の成分：水分
第3回	食品成分の化学構造と性質：単糖類
第4回	食品成分の化学構造と性質：多糖類
第5回	食品成分の化学構造と性質：アミノ酸
第6回	食品成分の化学構造と性質：たんぱく質
第7回	食品成分の化学構造と性質：脂肪酸
第8回	食品成分の化学構造と性質：脂質
第9回	食品成分の化学構造と性質：水溶性ビタミン（1）
第10回	食品成分の化学構造と性質：水溶性ビタミン（2）
第11回	食品成分の化学構造と性質：脂溶性ビタミン
第12回	食品成分の化学構造と性質：ミネラル（1）
第13回	食品成分の化学構造と性質：ミネラル（2）

回数	内容
第14回	食事調査および栄養計算の方法
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・ 次回の授業範囲について、テキストを読み、講義内容が理解できるよう予習しておくこと。
- ・ 各回の授業開始時に確認テストを実施するので、前回の授業についてよく復習しておくこと。

教科書

「食品学—食品成分と機能性— 新スタンダード栄養・食物シリーズ 5」・久保田紀久枝、森光康次郎編・東京化学同人・ISBN:978-4-8079-1665-8

「オールガイド食品成分表2020」・実教出版編集部・ISBN:978-4-407-34850-7

参考書

適宜紹介する。

備考

年次	2 年
対象	25 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 村上妃斗美

授業の概要

スポーツの心理的効果や心理的要因がスポーツのパフォーマンスに及ぼす影響など、スポーツの心理的テーマを広くシステムティックに取り上げ解説する。古くから「心」の問題は人間の主要なテーマとして宗教などで取り上げられてきたが、近代に入り、心理学が発生するに及んで、「心」の問題は科学として地位を確立し急速に発展した。スポーツにおいても古くから「心・技・体」と称されるように、「心」と「体」の調和が高いパフォーマンスを成立させるという考えがあった。1960年代以降スポーツ心理学が発生すると共に近年ではより明確に「心」と「体」の有機的統一の重要性が明らかにされてきている。本講義ではスポーツを実施するに際していかなる心理状態を保持することが重要か、またより高いパフォーマンスを発揮するためにはいかなる心理的準備が必要かについて、世界のトップレベルの選手の事例を引きながら解説すると共に、様々なスポーツ場面や指導場面において、スポーツ心理学が具体的にどのように応用されていくかについて学習する。また、これらの知見を自身のスポーツ活動と照らし合わせると共に、今後、体育・スポーツの指導者として活かせることを目的とする。

到達目標

- ・スポーツ心理学の基礎的知識を理解する。
- ・体育・スポーツ場面における心理学的現象を理解する。
- ・これらの知見を、体育・スポーツ指導においてどのように実践的に取り入れていくかについて理解する。

評価方法

定期試験（60％）、課題レポート等（20％）、授業に取り組む態度・姿勢（20％）により総合的に評価する。

注意事項

スポーツ活動や実戦経験を基礎としてスポーツ科学的予習復習を行うこと。自身の運動・スポーツ活動や指導に活かしていくことを目的としているため、高い目的意識と積極的な授業参加が要求される。

授業計画

回数	内容
第1回	スポーツとは
第2回	スポーツ心理学の歴史的発展
第3回	スポーツと認知・反応
第4回	競技スポーツの心理学Ⅰ
第5回	競技スポーツの心理学Ⅱ
第6回	スポーツとモチベーション
第7回	スポーツと発達
第8回	発達段階に応じたスポーツの心理的特徴
第9回	スポーツ技能の指導
第10回	スポーツとパーソナリティ
第11回	健康スポーツ心理学
第12回	体育心理学
第13回	アダプテッドスポーツ心理学

回数	内容
第14回	これからのスポーツ心理学
第15回	総復習

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

配布したプリントをよく読んで復習しておくこと。

教科書

プリント（資料）を配布する。

参考書

「スポーツメンタルトレーニング教本」日本スポーツ心理学会編著（大修館書店）

「教養としてのスポーツ心理学」徳永幹雄編著（大修館書店）

「これから学ぶスポーツ心理学」荒木雅信編著（大修館書店）

備考

年次	2 年
対象	25 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 高藤順

授業の概要

現代社会においてスポーツは、人々の生活において欠かせないものとなっており、社会の様々な領域で領域独自の社会的機能を果たすことを養成されている。その意味で現代におけるスポーツは極めて多様化・複雑化しており、スポーツを多面的かつ系統的に理解しなければならない。本講義では、スポーツをの多面的な領域から言及し、その実態と問題点及び将来展望について論じる。

到達目標

スポーツを取り巻く様々な社会との関係性を理解し、それらの知識をベースに将来的にスポーツとの関わりを実践することを目的とする。

評価方法

毎回の小レポート（30％）中間レポート（30％）最終レポート（40％）評価の詳細については、第1回目の授業において説明する。

注意事項

パワーポイントの資料は配布しないので、各自ノートまたはルーズリーフ等を必ず持参すること。授業の取り組みについては、厳しく指導する。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション スポーツ社会学とは！？
- 第2回 スポーツの概念
- 第3回 文化としてのスポーツ
- 第4回 スポーツと政治
- 第5回 スポーツと経済
- 第6回 地域社会におけるスポーツ
- 第7回 スポーツと薬物
- 第8回 スポーツと企業
- 第9回 スポーツと人権
- 第10回 障がい者とスポーツ（1）
- 第11回 障がい者とスポーツ（2）
- 第12回 スポーツと法制度
- 第13回 スポーツと健康
- 第14回 スポーツと教育
- 第15回 最終レポート

授業外学習

学習時間目安：合計60時間

毎授業後に次回テーマを提示するので予習を行うこと。また、評価のために実施した小レポートの内容を各自のノートに整理して復習すること。

教科書

授業中に指示する

参考書

授業中に指示する

備考

スポーツマネジメント（34614）

前期

Sports Management

生命科学部 健康科学科

年次	3 年
対象	24 ～ 19 W,W
単位数	2. 0 単位
担当教員	 高藤順

授業の概要

現代ではスポーツに関わる様々な活動がビジネスとして行われるようになっている。そして、これらのビジネスにおいて高度なマネジメントの知識と技能が要求されつつある。本講義では、スポーツマネジメントの基礎的概念についての理解を深め、マネジメントの基礎を習得するとともに、現代においてマネジメントがどのようにスポーツの場面で応用されているのかについて解説する。

到達目標

スポーツ現場におけるマネジメントをテーマとして、身体活動のみならず、ビジネス活動、文化活動など社会的活動としての価値を急速に高めつつあるスポーツの過程の知識を身につけるとともに、学生がスポーツの様々な場面において、効果的なマネジメントが行なえる方法及び能力が発揮できることを到達目標とする。

評価方法

毎回の小レポート（30%）中間レポート（30%）最終レポート（40%）評価の詳細については、第1回目の授業において説明する。

注意事項

パワーポイントの資料は配布しないので、ノート・ルーズリーフ等は必ず持参すること。授業に対する取り組みについては、厳しく指導する。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション・スポーツマネジメントとは！？
第2回	スポーツ生活と運動生活
第3回	スポーツ事業と経営資源
第4回	スポーツ事業の進め方
第5回	地域スポーツクラブ運営
第6回	クラブ運営の具体的内容
第7回	スポーツ組織のマネジメント
第8回	スポーツ事業のマーケティング
第9回	みるポーツのマネジメント
第10回	アメリカのトップリーグのマネジメント
第11回	ヨーロッパのトップリーグのマネジメント
第12回	日本におけるプロ野球とプロサッカーリーグのマネジメント
第13回	スポーツ施設のマネジメント
第14回	トップアスリートのマネジメント
第15回	最終レポート

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

毎授業後に次回テーマを提示するので予習を行うこと。また、評価のために実施した小レポートは、授業でフィードバックするので最終試験までに見直し復習すること。

教科書

授業中に指示する

参考書

授業中に指示する

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 19 W,W
単位数	2． 0 単位
担当教員	👤 猪木原孝二

授業の概要

健康体の維持増進を目的としたスポーツ活動の展開に必要な専門知識と方法を科学的・医学的見地から教授する。

到達目標

- 1.身体機能について理解する。
- 2.健康体を維持・増進していく上での運動の必要性に重点をおき、それに伴う身体機能の変化を理解する。

評価方法

授業に取り組む姿勢(40%)，試験(60%)で評価する。

注意事項

講義は、視聴覚室（V T R ・ O H P ・ P W P ）により運営するので欠席しないこと。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス
第2回	体力
第3回	健康と維持増進のサイクル
第4回	健康と運動
第5回	健康と休養
第6回	健康と栄養と小テスト(範囲：1回から5回まで)
第7回	運動が生体に与える効果I
第8回	運動が生体に与える効果II
第9回	運動が生体に与える効果III と小テスト(範囲：6回から8回まで)
第10回	スポーツとストレス
第11回	スポーツと年齢
第12回	スポーツと安全
第13回	スポーツと障害と小テスト(範囲：9回から12回まで)
第14回	まとめ（1）
第15回	まとめ（2）

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

課題レポートは、講義のテーマ毎に提示したものを作成し提出させるので、毎回復習しておくこと。

教科書

講義中に指示する。

参考書

使用しない

備考

年次	2 年
対象	25 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	👤 椎葉大輔

授業の概要

運動時、人間の身体は、外的・内的刺激に対して的確に反応し、運動を遂行している。スポーツ指導者として適切な指導法を模索する上で、この基礎的知識は必須である。本講義は、運動時にダイナミックに変化する生体反応について生理学的観点から解説する。特に、筋収縮のメカニズム、運動時の呼吸・循環機能のメカニズム、運動中の体液の役割、様々な環境下での身体の応答などを学ぶ。【アクティブラーニング】運動時生理応答をモデル化した教材を操作して生体内現象を学ぶ。【フィードバック】アクティブラーニング課題についての解説を全体および個別に行う。

到達目標

- 1 筋収縮のメカニズム、運動時の呼吸・循環機能のメカニズム、運動中の体液の役割など、運動時に変化する生理応答について理解し説明できる
- 2 スポーツ競技時に「1」の各現象がどのように運動して運動実施を制御しているか、考察し意見を提示できる

評価方法

授業に取り組む態度 5％（到達目標 1，2）、試験 95％（到達目標 1，2）にて評価する。

注意事項

本講義は健康運動およびスポーツの指導者にとって基礎となるため予習・復習が特に重要である。

授業計画

回数	内容
第1回	運動生理学とは
第2回	骨格筋の構造と筋収縮のメカニズム
第3回	骨格筋とトレーニング効果
第4回	神経系と運動（1）
第5回	神経系と運動（2）
第6回	呼吸器系の構造と呼吸のメカニズム
第7回	運動と酸素摂取量のメカニズム
第8回	循環器系の構造と血液成分
第9回	ガス交換の仕組み
第10回	無酸素および有酸素のエネルギー供給機構
第11回	運動とエネルギー代謝
第12回	運動と適応及び免疫
第13回	運動時のホルモン調節
第14回	環境変化と運動
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安:合計60時間

次回講義のテーマとキーワードを出すので予習を行うこと（2時間）。また受講した内容について、復習を行うこと（2時間）。

教科書

運動生理学の基礎と発展 3訂版・春日 規克・竹倉 宏明・フリースペース・ISBN978-4-434-25023-1

参考書

講義中に紹介する。

備考

バイオメカニクス（34207）

前期

Sports Biomechanics

生命科学部 健康科学科

年次	3 年
対象	24 ～ 19 W,W
単位数	2. 0 単位
担当教員	👤 枝松千尋

授業の概要

安全に効率的にスポーツのパフォーマンスを向上させるためには、スポーツ技術の裏側にあるものを理解し、分析し、そして新たなものを創造することが必要である。本講義では、力学・人体解剖学・運動生理学の複合領域であるバイオメカニクスを学び、科学的な視点からスポーツ技術を理解することを目指す。

【アクティブラーニング】 グループ・ディスカッションを取り入れている。

【フィードバック】 課題、小テスト、レポート等に対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1 「解剖学・力学の基礎を身につける」
- 2 「スポーツ技術をバイオメカニクスの観点から考察できる能力を身につける」

評価方法

授業に取り組む姿勢と小テスト 4 0 %（到達目標1を評価）、定期試験 6 0 %（到達目標 1, 2 を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・ 電卓を持参すること。
- ・ バイオメカニクス演習の基礎になる。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	身体のバイオメカニクスの特性と動作解析へのアプローチ法
第3回	身体重心（慣性質量と慣性モーメント）
第4回	加速度・速度・変位
第5回	力
第6回	運動量と力積
第7回	投射体の運動
第8回	力学的エネルギー・仕事・パワー
第9回	力のモーメントと角運動量
第10回	関節トルク
第11回	流体力学（空気・水の力とスポーツ）
第12回	スキルのバイオメカニクス（1）
第13回	スキルのバイオメカニクス（2）
第14回	スキルのバイオメカニクス（3）
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・毎回、練習問題を出題するので復習を十分に行うこと（特に計算問題）（60分以上）。
- ・人体解剖学に関する小テストを毎回行うので十分に予習しておくこと（30分以上）。

教科書

スポーツバイオメカニクス 2 0 項|阿江 通良・藤井 範久|朝倉書店|978-4-254-69040-8

参考書

プリント等配布

備考

バイオメカニクス演習（34258）

後期

Study of Sports Biomechanics

生命科学部 健康科学科

年次	3 年
対象	24 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	👤 山野力

授業の概要

バイオメカニクスでは、科学的な視点から身体動作を理解するための基礎知識を学んだ。本演習では、実際のスポーツや健康運動の現場での身体動作を題材に、高速度ビデオカメラ等の計測機器や分析装置を用いて、身体動作の記録、解析、そしてフィードバックまでを行うことを目指す。

到達目標

- ・機器の基本的操作方法を理解し、使用できる。
- ・スポーツ現場での身体動作の記録から解析、そしてフィードバックまでの流れを理解し説明できる。

評価方法

授業に取り組む姿勢等の平常点（60％）、課題（40％）で評価する。

注意事項

バイオメカニクスを受講しておくこと。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	身体重心の計測（1）
第3回	身体重心の計測（2）
第4回	身体動作の計測法
第5回	力の計測法
第6回	関節モーメントの解析（1）
第7回	関節モーメントの解析（2）
第8回	力学的エネルギー・仕事・パワーの解析（1）
第9回	力学的エネルギー・仕事・パワーの解析（2）
第10回	実際のスポーツ現場での身体動作の記録方法
第11回	実際のスポーツ現場での身体動作の解析方法（1）
第12回	実際のスポーツ現場での身体動作の解析方法（2）
第13回	実際のスポーツ現場での身体動作の解析方法（3）
第14回	実際のスポーツ現場での身体動作のフィードバック
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計 60 時間

・ 毎回課題を出すので、教科書を参考に各回の予習と復習を必ずしておくこと。

教科書

スポーツバイオメカニクス 20 項|阿江 通良・藤井 範久|朝倉書店|978-4-254-69040-8

参考書

プリント等配布

備考

年次	2 年
対象	25 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 矢田貝智恵子

授業の概要

スポーツ栄養学は、運動やスポーツにより身体活動量が多い人に対して必要な栄養学的理論・知識・スキルを体系化したものである。栄養学概論で習得した内容を基礎とし、競技能力向上だけでなく、健康の保持・増進における食事・栄養摂取の重要性について学ぶとともに、自身の食事・栄養摂取を通して、競技能力の向上や健康増進に意識的に取り組むことができることを目標とする。スポーツ医科学の分野に関する知識と技能を身につけ、健康生活に貢献できる人材の育成を目的としている。【フィードバック】復習課題および小テストに対して解説を含めたフィードバックを行う。

到達目標

- 1 栄養と栄養素の定義、エネルギー代謝、消化・吸収、体内での栄養素の変化と役割について理解した上で、スポーツ（運動）時における栄養素の役割や体内における代謝について科学的に説明できる。
- 2 スポーツ（運動）時における栄養素の役割や体内における代謝について理解した上で、シーズン、ライフスタイル、障害予防や特殊環境下などにおける栄養ケア（食事法、栄養素・水分補給など）についても説明できる。
- 3 レポート作成によって、自己の食生活を振り返り、改善点を見い出すことができる。

評価方法

授業に取り組む姿勢10%（到達目標1、2）、レポート40%（到達目標3）、定期試験 50%(到達目標1、2)に基づいて総合的に評価し、総合計 60 点以上を合格とする。

注意事項

- ・必ずテキストを購入すること。
- ・前期開講の「栄養学概論」履修が必須であり、トレーナーや指導者など、資格の取得を目指す学生を対象とする。
- ・講義の進捗状況によって、順番が前後することもある。

授業計画

回数	内容
第1回	スポーツ栄養学とは
第2回	栄養素とエネルギー代謝
第3回	栄養素の摂取（1）三大栄養素
第4回	栄養素の摂取（2）ビタミン・ミネラル
第5回	健康の維持・増進のための運動と栄養素
第6回	スポーツ選手の食事摂取基準
第7回	スポーツ選手の栄養ケア・マネジメント
第8回	スポーツ選手の食事：シーズン別
第9回	スポーツ選手の食事：ライフスタイル別
第10回	スポーツ選手の体づくり
第11回	スポーツ選手の献立作成（課題レポート作成について）
第12回	障害予防と栄養

回数	内容
第13回	熱中症予防と水分補給
第14回	サプリメント摂取の利点と留意点
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・ 次回の授業範囲について、テキストを読み、講義内容が理解できるよう予習しておくこと。
- ・ 課題に取り組み、前回の授業についてよく復習しておくこと。
- ・ 自身の食事・生活活動調査（3日間）を課題として実施する。また、調査結果を用いて、エネルギー摂取量・エネルギー消費量の算出を行い、レポートを作成する。

教科書

「はじめて学ぶ 健康・スポーツ科学シリーズ6 スポーツ・健康栄養学」・赤田 みゆき他著・化学同人・ISBN:978-4-7598-1709-6

参考書

「アスリートの栄養・食事ガイド」・小林 修平著・日本体育協会スポーツ医・科学専門委員会編集・ISBN:978-4-8041-1299-2

「体育・スポーツ指導者と学生のためのスポーツ栄養学」・田口素子、樋口満著・市村出版・ISBN:978-4-9021-0932-0

「オールガイド食品成分表2020」・実教出版編集部・ISBN:978-4-407-34850-7

上記以外の書籍や文献については、適宜紹介する。

備考

スポーツ障害論（34410）

前期

Sports Impediment

生命科学部 健康科学科

年次	3 年
対象	24 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 平川宏之

授業の概要

日常生活やスポーツ現場において、スポーツ外傷や障害に関する基礎的、一般的、専門的な医学的事項について理解することをねらいとしている。

到達目標

スポーツ外傷や障害に関する医学的事項について、意義、目的を理解し、説明できる。スポーツ障害を予防するトレーニングを行うことができ、指導できる。現場で出くわしたスポーツ外傷や障害に適切に一次対応できる。①整形外科的メディカルチェックとドーピングコントロールについて理解し、説明できる。②外科的スポーツ外傷・障害の基礎知識について理解し、説明できる。③頭部、顔面、頸部のスポーツ外傷・障害について理解し、説明できる。④顔面、頸部のスポーツ外傷・障害について理解し、説明できる。⑤上肢のスポーツ外傷・障害について理解し、説明できる。⑥下肢のスポーツ外傷・障害について理解し、説明できる。⑦体幹について理解し、説明できる。

評価方法

・評価の比率は、授業に取り組む態度、姿勢 2 0 %、レポート・小テスト等 8 0 %

注意事項

本科目は、健康運動実践指導者、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー等になるための資格免許科目であることから、高い水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければ単位の取得はかなり厳しい。定期試験の再試はしない。
宿題等は毎回出す（予習と復習）。小テストを行う。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（スポーツと健康管理）
第2回	内科的スポーツ障害と予防（１）
第3回	内科的スポーツ障害と予防（２）
第4回	整形外科的メディカルチェック
第5回	外科的スポーツ外傷・障害の基礎知識
第6回	頭部、顔面、頸部のスポーツ外傷・障害
第7回	上肢Ⅰ 肩関節、上腕のスポーツ外傷・障害
第8回	上肢Ⅱ 肘、前腕のスポーツ外傷・障害
第9回	上肢Ⅲ 手のスポーツ外傷・障害
第10回	体幹Ⅰ 脊柱のスポーツ外傷・障害
第11回	体幹Ⅱ 胸部、腹部、骨盤のスポーツ外傷・障害
第12回	下肢Ⅰ 股関節、大腿のスポーツ外傷・障害
第13回	下肢Ⅱ 膝関節、下腿のスポーツ外傷・障害
第14回	下肢Ⅲ 足のスポーツ外傷・障害
第15回	スポーツの種目によるスポーツ外傷・障害とドーピングコントロール

授業外学習

各回の授業開始時に口頭試問を実施するので、前回の授業についてよく復習しておくこと（各２時間）。授業計画に示した範囲の教科書、参考書を事前に読み、概略をつかんでおくこと（各２時間）。指定する課外授業等参加の場合は加点する。

教科書

アスレティックトレーナー専門科目テキスト第３巻スポーツ外傷・障害の基礎知識（日本スポーツ協会）、又は、スポーツ指導者のためのスポーツ医学（南江堂）

参考書

アスレティックトレーナー専門科目テキスト第２巻運動器の解剖と機能（日本スポーツ協会）、スポーツ外傷学(1)～(4)医歯薬出版、部位別スポーツ外傷・障害（南江堂）、スポーツ指導者のためのスポーツ医学（南江堂）

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	猪木原孝二 荒木直彦 枝松千尋 椎葉大輔

授業の概要

各種身体運動の基礎知識を理解させると同時に、スポーツの基本的なトレーニングとして筋力及び持久力を向上させるトレーニング理論について学習させる。

【アクティブラーニング】 グループ・ディスカッションを取り入れている。

【フィードバック】課題、小テスト、レポート等に対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

効率的なトレーニング方法及び指導方法についての知識を習得する。

評価方法

小テスト及び授業に取り組む姿勢60%、レポート40%で評価する。

上記の評価方法により、到達目標の達成度を総合的に評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本講義は、専門的な知識を習得させるためにオムニバス方式で行う。したがって、欠席しないことが条件である。

授業計画

回数	内容
第1回	体力とトレーニング（猪木原）
第2回	トレーニングの原理・原則と種類（猪木原）
第3回	運動器の仕組みと働き（猪木原）
第4回	トレーニング効果 1（運動器の適応）（枝松）
第5回	トレーニング効果 2（呼吸循環器の適応）（枝松）
第6回	運動様式とエネルギー供給経路 1（無酸素的エネルギー供給）（枝松）
第7回	運動様式とエネルギー供給経路 2（有酸素的エネルギー供給）（枝松）
第8回	トレーニングの計画および実施 1（椎葉）
第9回	トレーニングの計画および実施 2（椎葉）
第10回	トレーニングの計画および実施 3（椎葉）
第11回	トレーニングの計画および実施 4（椎葉）
第12回	トレーニングの計画および実施 5（荒木）
第13回	体力テストの計画・実施・評価（1）（荒木）
第14回	体力テストの計画・実施・評価（2）（荒木）
第15回	体力テストの計画・実施・評価（3）（荒木）

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

小テストを実施するので、講義の復習を毎回必ず行うこと。

教科書

講義中に指示する。

参考書

講義中に指示する。

備考

スポーツトレーニング実習（34263）

後期

Sports Training

生命科学部 健康科学科

年次	1 年
対象	26 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	👤猪木原孝二 👤荒木直彦 👤枝松千尋 👤椎葉大輔

授業の概要

スポーツトレーニング理論で学習したトレーニング方法について、実際に実習経験することでトレーニング方法及び指導方法を理解させる。
【アクティブラーニング】グループごとにトレーニング方法を考え、ディスカッションし、最終的には実践する。
【フィードバック】トレーニングメニューやフォームなどについてフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

1「スポーツトレーニングの種類を把握し、その目的を認識できる。更に個人個人に合った指導方法を理解し、実際に指導できる。」

評価方法

授業に取り組む姿勢(50%)，習熟度，課題研究(50%)で評価する。
上記の評価方法により、到達目標の達成度を総合的に評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

欠席をしないこと。（オムニバス方式で実施する。）

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（猪木原）
第2回	スポーツトレーニングとは（猪木原）
第3回	スポーツトレーニングの必要性和安全管理（猪木原）
第4回	筋肉の発達と特性（枝松）
第5回	総体的筋力トレーニングと実習（自重負荷，マシン及びバーベル負荷）ウエイトトレーニング（枝松）
第6回	瞬発的筋力トレーニングと実習（自重負荷，マシン及びバーベル負荷）ウエイトトレーニング（枝松）
第7回	持久的トレーニングと実習（マシン及びバーベル）ウエイトトレーニング（枝松）
第8回	呼吸器の構造と特性（有酸素トレーニング）（椎葉）
第9回	持久的トレーニングと実習（ウォーキングとジョギング）（椎葉）
第10回	持久的トレーニングと実習（インターバルトレーニング）（椎葉）
第11回	持久的トレーニングと実習（レペデシントレーニングトレーニング）（椎葉）
第12回	コンディショニングと軽スポーツ（荒木）
第13回	運動能力の評価判定（荒木）
第14回	補強トレーニング 各種体操とサーキットトレーニング（荒木）
第15回	トレーニング方法の発表（まとめ）（荒木）

授業外学習

学習したトレーニング方法を使って各自トレーニングを週2回（1回1時間）以上行うこと。

教科書

使用しない

参考書

使用しない

備考

ストレッチング理論（実習含む）（34506）

前期

Theory of Stretching
生命科学部 健康科学科

年次	2 年
対象	25 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 山野力

授業の概要

スポーツ場面におけるコンディショニングとして、傷害予防を目的としたストレッチと疲労回復を目的としたマッサージ、およびウォーミングアップ・クーリングダウンについて定義と方法を学び、実践を通して技術を習得する。また、コンディショニングを評価するための各種評価方法について学び、技術を習得する。

【実務経験のある教員による授業科目】現・アスレティックトレーナー（富山県ホッケー協会など）：アスレティックトレーナーとしての実務経験を有する教員が、アスレティックトレーナーの専門科目を学習していく上で、必須であるコンディショニングについて講義を行う。また、実習を通してコンディショニングの方法と実際、各種評価方法を指導する。

到達目標

コンディショニングとしてのストレッチ・マッサージ・ウォーミングアップ・クーリングダウンの定義・方法を理解し技術を習得するとともに、指導及び教育ができるようになる。

評価方法

学期内テスト40％、実技試験20％、授業に取り組む姿勢40％で総合的に評価する。

注意事項

- ・各回に行うストレッチングやスポーツマッサージに必要な、筋肉の起始・停止をしっかりと復習して授業にのぞむこと。
- ・実技を行うので、動きやすい服装を用意すること。

授業計画

回数	内容
第1回	ストレッチング・スポーツマッサージの定義・目的、有効性、注意点
第2回	傷害予防のためのストレッチングの方法と実際1（下肢）
第3回	傷害予防のためのストレッチングの方法と実際2（体幹）
第4回	傷害予防のためのストレッチングの方法と実際3（上肢）
第5回	疲労回復のためのスポーツマッサージの方法と実際1（下肢）
第6回	疲労回復のためのスポーツマッサージの方法と実際2（体幹）
第7回	疲労回復のためのスポーツマッサージの方法と実際3（上肢）
第8回	ウォーミングアップの定義・目的、有効性、注意点、方法
第9回	クーリングダウンの定義・目的、有効性、注意点、方法
第10回	フィールドテストの方法と実際
第11回	フィットネステストの方法と実際
第12回	身体（組成）測定、柔軟性テストの方法と実際
第13回	競技種目とウォーミングアップ・クーリングダウン、ストレッチング、マッサージ 1（冬季競技・記録競技・採点競技）
第14回	競技種目とウォーミングアップ・クーリングダウン、ストレッチング、マッサージ 2（球技系競技）

回数	内容
----	----

第15回	競技種目とウォーミングアップ・クーリングダウン、ストレッチング、マッサージ 3（格技）
------	---

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

・各回の予習と復習を必ずしておくこと。

教科書

講義用の資料を配布する。

参考書

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6

備考

テーピング理論（実習含む）（34509）

前期

Theory of Taping

生命科学部 健康科学科

年次	3 年
対象	24 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 山野力

授業の概要

スポーツ場面におけるケガや傷害に対する予防及び処置の仕方について理解する。
また、実習を通してテーピングおよびアイシングを用いた対処法を学び、コンディショニングづくりをサポートできる能力を高める。

到達目標

- ・スポーツ場面でのケガや傷害の原因、発症しやすい部位を理解し説明できる。
- ・各部位へのテーピングによる対処法を行うことができる。
- ・ケガや傷害に対する予防法を説明できる。

評価方法

学期内テスト50%、実技試験30%、小テスト数回20%、で総合的に評価する。

注意事項

実習を含むため、スポーツウエアなどの服装が好ましい。

授業計画

回数	内容
第1回	テーピングの定義・目的、有効性、注意点
第2回	傷害予防のためのテーピングの方法と実際 1（足部・足関節）
第3回	傷害予防のためのテーピングの方法と実際 2（下腿）
第4回	傷害予防のためのテーピングの方法と実際 3（膝関節）
第5回	傷害予防のためのテーピングの方法と実際 4（大腿・股関節）
第6回	傷害予防のためのテーピングの方法と実際 5（体幹[腰部・胸部]
第7回	傷害予防のためのテーピングの方法と実際 6（肩部[肩鎖関節・肩関節]
第8回	傷害予防のためのテーピングの方法と実際 7（肘関節）
第9回	傷害予防のためのテーピングの方法と実際 8（手関節・指関節）
第10回	疲労回復のためのアイシングの方法と実際 1
第11回	疲労回復のためのアイシングの方法と実際 2
第12回	疲労回復のためのアクアコンディショニングの方法と実際
第13回	競技種目とテーピング・アイシング 1（冬季競技、記録競技、採点競技）
第14回	競技種目とテーピング・アイシング 2（球技競技、格技）
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

・講義の前に必ず予習をし、各回に学んだことを復習しておくこと。

教科書

基礎から学ぶ！スポーツテーピング 令和版 高橋仁編著 ベースボールマガジン社 ISBN978-4-583-10140-8C2075

参考書

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6

備考

ウィンタースポーツ実習 (34601)

通年

Winter Sports Training

生命科学部 健康科学科

年次	1 年
対象	26 ～ 19 W,W
単位数	2. 0 単位
担当教員	 椎葉大輔  内藤整  加藤敬史  大上偉才

授業の概要

スケートおよびスキー・スノーボードといったウィンタースポーツ技術の向上を図ることで、運動不足になりがちな冬季にできるスポーツの幅を広げ、季節に応じたスポーツ活動の実践と指導ができるようになることを目的に行なう。【フィードバック】実習風景を撮影した映像を受講者とともに視聴し、フォームチェック等の指導を行う。

到達目標

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）の「健康科学分野の専門的知識・技能を身につける」に対応して、以下の通りとする。

- 1 「スケートの基本技術を習得すること」
- 2 「スキー・スノーボードの基本技術を習得すること」
- 3 「ウィンタースポーツの指導に関する手法および安全対策を含む注意点について、理解し説明できる」

評価方法

実習に取り組む姿勢 50%（到達目標1, 2）、技術点 40%（到達目標1, 2）、レポート10%（到達目標3）で評価する。

注意事項

スキー及びスノーボードは宿泊実習（学外）となる。その際の宿泊費、リフト代、レンタル用具代は個人負担。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（注意事項と実習方法、準備）（椎葉）
第2回	スケーティングの基本練習（1）（大上，内藤，加藤，椎葉）
第3回	スケーティングの基本練習（2）（大上，内藤，加藤，椎葉）
第4回	フィギアスケート（1）（ストローキングとステップ）（大上，内藤，加藤，椎葉）
第5回	フィギアスケート（2）（ダンスとシンクロ）（大上，内藤，加藤，椎葉）
第6回	フィギアスケート（3）（スピン）（大上，内藤，加藤，椎葉）
第7回	スケート技術の評価（スケーティング映像を用いて）（内藤、加藤、椎葉）
第8回	スケートにおける指導案の作成（内藤、加藤、椎葉）
第9回	冬季の運動プログラム作成とその留意点（内藤、加藤、椎葉）
第10回	室内リクリエーション（内藤、加藤、椎葉）
第11回	ウォーキングプログラムの作成（1）ウォーキングコース作成（内藤、加藤、椎葉）
第12回	ウォーキングプログラムの作成（2）コース歩行時の生理応答測定・評価（内藤、加藤、椎葉）
第13回	ジョギングプログラムの作成（1）ジョギングコース作成（内藤、加藤、椎葉）
第14回	ジョギングプログラムの作成（2）コース走行時の生理応答・評価（内藤、加藤、椎葉）
第15回	ウォーキング・ジョギングプログラム資料の作成（内藤、加藤、椎葉）

授業外学習

・スケート・スキー・スノーボードに関する書籍を読むこと（各2時間）。

教科書

使用しない

参考書

適宜紹介する。

備考

スポーツコンディショニング理論（34458）

後期

Theory of Sports Conditioning

生命科学部 健康科学科

年次	2 年
対象	25 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 山野力

授業の概要

コンディショニングの概念を理解し、アスリートが最高のパフォーマンスで競技に臨むための要因、具体的な方法の実際を競技特性を踏まえて学ぶ。また、傷害予防のためのアプローチおよび環境づくりについて学ぶ。

到達目標

競技力向上を目的としたコンディショニング方法を理解・習得し指導できる。また、傷害予防の観点からスポーツ環境整備の推進ができる。

評価方法

学期内テスト20％、レポート提出・小テスト50％、授業に取り組む姿勢30％で総合的に評価する。

注意事項

実技があるので、動きやすい服装を用意すること。

授業計画

回数	内容
第1回	コンディショニングの把握と管理1（コンディショニングとは）
第2回	コンディショニングの把握と管理2（コンディショニングの3因子：身体的因子・環境的因子・心因的因子）
第3回	コンディショニングの把握と管理3（コンディショニングの評価方法）
第4回	コンディショニングの把握と管理4（トレーニング計画とコンディショニング）
第5回	競技力向上を目的としたコンディショニングの方法1（代謝系・筋力トレーニング）
第6回	競技力向上を目的としたコンディショニングの方法2（コーディネーション・スタビリティ・アジリティトレーニング）
第7回	競技力向上を目的としたコンディショニングの方法3（スプリントと持久性トレーニング）
第8回	競技力向上を目的としたコンディショニングの方法4（サーキットトレーニング）
第9回	競技力向上を目的としたコンディショニングの実際1（代謝系・筋力トレーニング）
第10回	競技力向上を目的としたコンディショニングの実際2（コーディネーション・スタビリティ・アジリティトレーニング）
第11回	競技力向上を目的としたコンディショニングの実際3（スプリントと持久性トレーニング）
第12回	競技力向上を目的としたコンディショニングの実際4（サーキットトレーニング）
第13回	競技種目特性とコンディショニング1（冬季競技・記録競技・採点競技）
第14回	競技種目特性とコンディショニング2（球技系競技）
第15回	競技種目特性とコンディショニング3（格技）

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

・各回の講義にて学習したコンディショニングに対し必ず復習し、次回講義の予習をしておくこと。

教科書

講義用の資料を配布する。

参考書

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6

備考

アスレティックトレーナー概論（34151）

後期

Introduction to Athletic Trainer

生命科学部 健康科学科

年次	1 年
対象	26 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 山野力

授業の概要

本講義では、スポーツ環境におけるアスレティックトレーナー（AT）の役割とその業務を具体的に示し、AT の歴史的背景および諸外国の状況を理解する。AT の組織的な活動と運営管理について学び、コーチ・スポーツドクターなど様々な分野の専門家といかに連携を持って選手をサポートしていくかなどAT が現場で活動する上で必要な知識を養う。また、AT に必要な社会的秩序や倫理観を身につける。

到達目標

本講義の到達目標

- ・アスレティック・トレーナー（AT）の役割とその業務を具体的に示し、AT の歴史的背景および諸外国の状況を理解し説明できる。
- ・コーチ・スポーツドクターなど医科学スタッフと連携をとり、どのように選手をサポートしていくかなどAT が現場で活動する上で必要な知識を理解し説明できる。
- ・スポーツ環境におけるAT の組織的な活動と運営管理について説明できる。
- ・AT に必要な社会的秩序や倫理観を理解し身につけることができる。

評価方法

学期内テスト 5 0 %、学期内クイズ 2 0 %、レポート提出・授業に取り組む姿勢 3 0 %で、総合的に評価する。

注意事項

遅刻・欠席をしないこと。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	アスレティックトレーナー（AT）とは（日体協公認AT の定義・制度・養成事業）
第3回	世界と日本のトレーナー（歴史と現在）
第4回	AT の任務と役割
第5回	AT の業務（スポーツ外傷・傷害の予防について）
第6回	AT の業務（スポーツ現場における救急処置について）
第7回	AT の業務（アスレティック・リハビリテーションについて）
第8回	AT の業務（コンディショニングについて）
第9回	AT の業務（測定と評価について・健康管理と教育的指導について）
第10回	AT の業務（健康管理と教育的指導について）
第11回	コーチ・スポーツドクターとの連携・協力
第12回	アスレティックトレーナーの組織と運営
第13回	健康管理と組織運営（データの収集と管理・違法行為・危機管理）
第14回	AT の倫理（社会的な立場と貢献・倫理規定）
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

・各回課題を出すので、教科書を参考に各回の予習と復習を必ずしておくこと。

教科書

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト1

参考書

講義用の資料を配布する。

備考

スポーツ指導者基礎（34152）

後期

Basic lecture of Sports instructor

生命科学部 健康科学科

年次	1 年
対象	26 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 椎葉大輔

授業の概要

スポーツ指導者には対象の年齢や性別，あるいは体力的特性や技術習熟度などを考慮した上で，適切な指導法を選択することが求められる。本授業では，スポーツ指導者に共通して必要な基礎知識として、スポーツ医学の基礎・各年齢におけるスポーツ活動・スポーツ技術獲得などに関する知識を学ぶとともに，指導対象者の特性を学ぶ。【アクティブラーニング】授業内でテーマに関する「受講者自身の被指導経験」等について，発言する機会を設定する。【フィードバック】小テスト終了後，全体への解説および個別対応を行う。

到達目標

- 1 「スポーツ活動に起因して起こる怪我や疾患の基本的なメカニズムを説明できる」
- 2 「年齢や性別に応じた特性やスポーツ活動・指導に関して考慮すべき点について説明できる」
- 3 「自身の経験（体験）と先行報告との差異を考察し，その理由について自らの考えを提示できる」

評価方法

試験 95% (到達目標1, 2)，授業に取り組む姿勢 5%(授業内の発言や意見表示など，到達目標3)・により評価する。

注意事項

1講義1テーマで授業の進めるので，授業ごとの予習・復習が特に重要である。

授業計画

回数	内容
第1回	スポーツと健康
第2回	スポーツ活動中の外傷・障害と対処
第3回	スポーツ活動中の内科的障害と対処
第4回	救急処置
第5回	発育発達期の身体的・心理的特徴
第6回	発育発達期に多い外傷や内科的障害
第7回	発育発達期のスポーツ活動
第8回	中高齢者とスポーツ活動（加齢に伴う形態・体力の変化と運動の効果）
第9回	女性とスポーツ活動（女性の身体的・心理的特徴とスポーツ活動）
第10回	中高齢者・女性とスポーツ活動（基本的な運動プログラム）
第11回	スポーツバイオメカニクスの基礎I（良い動きのバイオメカニクスの原則）
第12回	スポーツバイオメカニクスの基礎II（各種スキルのバイオメカニクス）
第13回	スキルの獲得とその獲得過程I（スキルの獲得と停滞）
第14回	スキルの獲得とその獲得過程II（スキル獲得における指導者の役割）
第15回	競技スポーツとIT

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

毎授業で授業外学習課題を出す。課題について、復習および先行報告等を検索し、次回授業で発言できるよう、準備すること（2時間）。また、授業終了時に次回テーマと予習項目を提示するので、予習を行うこと（2時間）。

教科書

講義中に指示する。

参考書

講義中に紹介する。

備考

体表解剖学（34201）

前期

Surface Anatomy

生命科学部 健康科学科

年次	1 年
対象	26 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 山野力

授業の概要

本講義では、身体運動と関連付けて運動器の骨・筋・靱帯・関節・神経支配を学習する。

到達目標

動作の運動学習的観察・スポーツ障害の評価と原因の同定に必要な人体の構造と機能について理解し、体表から観察することによってそれらを関係づけることができるようになる。

評価方法

学期末テスト 4 0 %、学期内クイズ 5 0 %、レポート提出・授業に取り組む姿勢 1 0 %で、総合的に評価する。

注意事項

筋肉の走行に沿って触診するので、授業内容に適応できる服装を用意すること。（必要な場合は指示する）

授業計画

回数	内容
第1回	上肢I－運動時の上肢の骨、関節、筋、神経の体表解剖
第2回	上肢II－運動時の肩関節、上腕の体表解剖
第3回	上肢III－運動時の肘関節、前腕の体表解剖
第4回	上肢IV－運動時の手関節、手・指の体表解剖
第5回	下肢I－運動時の下肢の骨、関節、筋、神経の体表解剖
第6回	下肢II－運動時の股関節、大腿の体表解剖
第7回	下肢III－運動時の膝関節、下腿の体表解剖
第8回	下肢IV－運動時の足関節、足・指の体表解剖
第9回	体幹I－運動時の脊柱の体表解剖
第10回	体幹II－運動時の胸部の体表解剖
第11回	体幹III－運動時の腹部、骨盤の体表解剖
第12回	体幹IV－運動時の腰・背部の体表解剖
第13回	体幹V－運動時の頸部の体表解剖
第14回	体幹VI－運動時の頭部の体表解剖
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

・学期内に 6 回クイズを行う為、各回の予習と復習を必ずしておくこと。

教科書

参考書

適宜紹介する。

備考

スポーツ指導論 I（34103）

前期

Sports Guidance I

生命科学部 健康科学科

年次	2 年
対象	25 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 荒木直彦

授業の概要

中学校ならびに高等学校保健体育教員や財団法人日本体育協会の設ける公認スポーツ指導者、そして各種スポーツ、学校課外活動やスポーツにおける快適なスポーツライフ構築を担う指導者を養成を目的としている。

到達目標

学校課外活動における指導、各種競技種目のコーチング方法を習得する。

評価方法

授業に取り組む姿勢(20%)・レポート(40%)・小テスト(40%)により評価する。

注意事項

特になし。

授業計画

回数	内容
第1回	スポーツ指導者とはI（指導者の役割、心構えと視点）
第2回	スポーツ指導者とはII（上手な誉め方・叱り方、アドバイスの方法）
第3回	スポーツ指導者とはIII（選手育成プログラムの理念）
第4回	指導計画の立て方
第5回	指導計画と安全管理
第6回	スポーツ事故に対する安全管理と指導者の法的責任
第7回	スポーツと人権
第8回	スポーツと心
第9回	コーチングの心理（運動意欲の構成要素）
第10回	コーチングの心理（スポーツにおける動機付け、トレーニングと心理）
第11回	コーチングの心理（指導現場での心理相談）
第12回	指導現場でのスポーツと栄養（栄養素の役割と所要量）
第13回	指導現場でのスポーツと栄養（スポーツ活動と栄養、水分補給の重要性）
第14回	アスリートの栄養摂取と食生活（競技者のトレーニングと食事）
第15回	アスリートの栄養摂取と食生活（サプリメントについて）

授業外学習

各回に学んだ内容とに関する復習（2時間）

講義毎に紹介されるトピックに関連した文化人類学的内容をよく復習する。（2時間）

レポート作成（5時間）

教科書

公認スポーツ指導者育成テキストⅠ

公認スポーツ指導者育成テキストⅡ

参考書

公認スポーツ指導者育成テキストⅢ

備考

年次	2 年
対象	25 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 荒木直彦

授業の概要

社会的需要に対応できる高いスキルを備えたスポーツ指導者を育成する。スポーツ指導論Iで学んだ内容を発展させ、性差、年齢による要望、そしてトップアスリート育成等に関する高度な指導方法について学ぶ。

到達目標

トップアスリート育成における指導者の指導方法を習得する。

評価方法

授業に取り組む姿勢（20％）・レポート（40％）・試験（40％）により評価する。

注意事項

特に無し。

授業計画

回数	内容
第1回	指導者の役割Ⅰ（競技者との望ましい関係）
第2回	指導者の役割Ⅱ（競技者の自立と自律、ミーティングとは）
第3回	指導者の役割Ⅲ（効果的なミーティングの方法）
第4回	指導者の役割Ⅳ（長期的視野に立った競技者育成）
第5回	メンタルマネジメントⅠ（プレッシャー、あがり）
第6回	メンタルマネジメントⅡ（メンタルトレーニング）
第7回	メンタルマネジメントⅢ（スランプとは、試合に向けての心理的準備）
第8回	指導者のメンタルマネジメントⅠ（リーダーシップ）
第9回	指導者のメンタルマネジメントⅡ（指導者のメンタルマネジメント）
第10回	スポーツによる精神障害と対策
第11回	競技者育成のための指導法Ⅰ（指導効果の評価、評価方法）
第12回	競技者育成のための指導法Ⅱ（競技者育成システム）
第13回	競技者育成のための指導法Ⅲ（指導計画の重要ポイント）
第14回	競技者育成のための指導法Ⅳ（集団とコミュニケーション構造・役割構造）
第15回	競技者育成のための指導法Ⅴ（リーダーシップと凝集性、チームマネジメント）

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間
各回に学んだことを復習し、まとめる。
レポートの作成（3題）
指導計画表などの文献調査等

教科書

公認スポーツ指導者育成テキストⅡ
公認スポーツ指導者育成テキストⅢ

参考書

公認スポーツ指導者育成テキストⅠ

備考

年次	3 年
対象	24 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 吉田俊明

授業の概要

本講義では、アスレティックリハビリテーションの概念と定義、および概要を理解するとともに、アスレティックリハビリテーションで用いる各種エクササイズ・物理療法・補装具に関する基礎知識の習得を目的とする。

到達目標

対象者に適切なエクササイズができる基礎知識と、各種エクササイズ、物理療法、補装具に関する知識を習得し実践できるようになる。

評価方法

期末試験60%、講義に取り組む姿勢・小テスト40%

注意事項

アスレティックリハビリテーション実習につながるので、復習し理解すること。

授業計画

回数	内容
第1回	アスレティックリハビリテーションの定義と概要
第2回	機能評価の考え方とリスク管理の基礎知識
第3回	アスレティックリハビリテーションにおけるエクササイズの目的
第4回	筋力回復、筋力増強エクササイズの基礎知識
第5回	関節可動域回復、拡大エクササイズの基礎知識
第6回	神経筋協調性回復、向上エクササイズ
第7回	全身持久力回復、向上エクササイズ
第8回	身体組成の管理に用いるエクササイズ
第9回	再発予防、外傷予防のためのスポーツ動作エクササイズ
第10回	物理療法学概論
第11回	温熱療法と寒冷療法
第12回	電気刺激療法と超音波療法
第13回	鍼、灸、マッサージの有効利用方法
第14回	補装具の使用目的と装具
第15回	テーピングと足底挿板

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・各回の講義内容を確認し、参考書から専門知識の理解と内容の把握をしておくこと。
- ・各回の講義終了後に、学んだことを復習し理解しておくこと。

教科書

適宜紹介する。 必要なプリントを配布する。

参考書

公認アスレティックトレーナー 専門科目テキスト7 アスレティックリハビリテーション

備考

アスレティックリハビリテーション実習（34411）

前期

Practice of Athletic Rehabilitation

生命科学部 健康科学科

年次	4 年
対象	23 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 吉田俊明

授業の概要

本講義では、アスレティックリハビリテーション論・体力測定法・バイオメカニクス演習で学んだ知識を統合し、各スポーツ外傷・障害に対して、アスレティックリハビリテーションの指導ができる知識と技術の習得を目的とする。

到達目標

選定したスポーツ外傷・障害に対して、測定・評価を行い、アスレティックリハビリテーションのメニュー立案、説明、デモンストレーション、と現場での予防方法の実技指導ができる。

評価方法

期末評価50%、実技30%、授業に取り組む姿勢20%で総合的に評価する。

注意事項

実技を行うので動きやすい服装を用意すること。

授業計画

回数	内容
第1回	頸椎捻挫へのアスレティックリハビリテーション
第2回	腰部疾患へのアスレティックリハビリテーション
第3回	肩関節前方脱臼と投球障害肩へのアスレティックリハビリテーション
第4回	外傷性肘M C L 損傷へのアスレティックリハビリテーション
第5回	上腕骨内側・外側上顆炎・非外傷性肘M C L 損傷へのアスレティックリハビリテーション
第6回	足関節捻挫へのアスレティックリハビリテーション
第7回	膝内側側副靱帯損傷へのアスレティックリハビリテーション
第8回	膝前十字靱帯損傷へのアスレティックリハビリテーション
第9回	大腿屈筋群肉ばなれへのアスレティックリハビリテーション
第10回	扁平足障害（過回内足障害）へのアスレティックリハビリテーション
第11回	脛骨過労性骨障害へのアスレティックリハビリテーション
第12回	鰻足炎へのアスレティックリハビリテーション
第13回	膝蓋大腿関節障害へのアスレティックリハビリテーション
第14回	アスレティックリハビリテーションにおける競技種目特性
第15回	競技種目における動作特性と体力特性

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間

- ・各回の実習内容を整理し、注意点、アスレティックリハビリテーションのポイントを確認すること。
- ・毎回の実習についてよく復習しておくこと。

教科書

適宜紹介する。 必要なプリントを配布する。

参考書

公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト7 アスレティックリハビリテーション

備考

年次	2 年
対象	25 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 山野力

授業の概要

日常生活やスポーツ現場において、スポーツに関する基礎的、一般的な医学的事項について理解することをねらいとしている。

【アクティブラーニング】 グループ・ディスカッションとプレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】課題、小テスト、レポート、プレゼンテーション等に対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

スポーツに関する医学的事項について、意義、目的を理解し、説明できる。

現場で実践できるよう知識を高める。

- 1 スポーツの内科的障害について理解し、説明できる。
- 2 スポーツの頭部・頸部の外傷と障害、上肢の外傷と障害について理解し、説明できる。
- 3 スポーツの体幹の外傷と障害、下肢の外傷と障害について理解し、説明できる。
- 4 アスレティックリハビリテーションについて理解し、説明できる。

評価方法

・授業に取り組む態度、姿勢、レポート、小テスト、定期試験により総合的に評価する。

・評価の比率は平常点（授業に取り組む態度、姿勢）2 0 %、レポート・小テスト5 0 %、定期試験3 0 %を基準とする。

注意事項

本科目は、健康運動実践指導者、アスレティックトレーナー等になるための資格科目であることから、高い水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション、アスリートの健康管理①
第2回	アスリートの健康管理②
第3回	コンディショニングの手法
第4回	アスリートの内科的障害と対策
第5回	アスリートの外傷・障害と対策①
第6回	アスリートの外傷・障害と対策②
第7回	アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画①
第8回	アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画②
第9回	スポーツによる精神障害と対策
第10回	特殊環境下での対応
第11回	女性のスポーツ医学
第12回	小児のスポーツ医学
第13回	中高年のスポーツ医学
第14回	障害者のスポーツ医学

回数	内容
第15回	ドーピング防止

授業外学習

毎日予習、復習をおこない講義内容を確実に習得する。前回の授業をよく復習しておく。次回授業のテーマを予習しておく。
随時小テストを実施する。指定する課外授業等参加の場合は加点する。

- ・各回の授業開始時に口頭で小テストを実施するので、前回の授業についてよく復習しておくこと。（各2時間）
- ・授業計画に示した範囲の教科書、参考書を事前に読み、概略をつかんでおくこと。（各2時間）

教科書

スポーツ指導者のためのスポーツ医学|小出 清一ほか |南江堂|978-4-524-24034-0

参考書

アスレティックトレーナー専門科目テキスト第2 巻運動器の解剖と機能、アスレティックトレーナー専門科目テキスト第3 スポーツ外傷・障害の基礎知識、アスレティックトレーナー専門科目テキスト第4 巻健康管理とスポーツ医学、スポーツ外傷学(1)～(4)医歯薬出版、部位別スポーツ外傷・障害（南江堂）、「アスレチックトレーナーのためのスポーツ医学」文光堂（¥4,800+税）スポーツ医科学（杏林書院¥14,000）、臨床スポーツ医学（月刊誌）文光堂

備考

年次	2 年
対象	25 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 山野力  半田明

授業の概要

日常生活やスポーツ現場において、スポーツに関する基礎的、一般的、専門的な医学的事項について理解することをねらいとしている。
【アクティブラーニング】 グループ・ディスカッションとプレゼンテーションを取り入れている。
【フィードバック】課題、小テスト、レポート、プレゼンテーション等に対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

スポーツに関する医学的事項について、意義、目的を理解し、説明できる。

- 1 上肢のスポーツ外傷・障害について理解し、説明できる。
- 2 体幹のスポーツ外傷・障害について理解し、説明できる。
- 3 下肢のスポーツ外傷・障害について理解し、説明できる。
- 4 重篤な外傷の病態と診断・検査について理解し、説明できる。
- 5 年齢・性別によるスポーツ外傷・障害の特徴について理解し、説明できる。

評価方法

- ・授業に取り組む態度、姿勢、レポート、小テスト等により総合的に評価する。
- ・評価の比率は平常点（授業に取り組む態度、姿勢）20％、レポート・小テスト等80％

注意事項

本科目は、健康運動実践指導者、アスレティックトレーナー等になるための資格免許科目であることから、高い水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければ単位の取得はかなり厳しい。
宿題等は毎回出します(予習と復習)。翌週の授業開始時に小テストを行う。

授業計画

回数	内容
第1回	上肢のスポーツ外傷・障害1（病態、発生機転）と倫理。（スポーツドクター）
第2回	上肢のスポーツ外傷・障害2（診断方法、画像診断）（スポーツドクター）
第3回	上肢のスポーツ外傷・障害3（徒手の検査）（スポーツドクター）
第4回	下肢のスポーツ外傷・障害1（病態、発生機転）（スポーツドクター）
第5回	下肢のスポーツ外傷・障害2（診断方法、画像診断）（スポーツドクター）
第6回	下肢のスポーツ外傷・障害3（徒手の検査）（スポーツドクター）
第7回	体幹のスポーツ外傷・障害1（病態、発生機転）（スポーツドクター）
第8回	体幹のスポーツ外傷・障害2（診断方法、画像診断）（スポーツドクター）
第9回	体幹のスポーツ外傷・障害3（徒手の検査）（山野）
第10回	重篤な外傷の病態と診断・検査1（頭部・脊髄損傷）（スポーツドクター）
第11回	重篤な外傷の病態と診断・検査2（大出血）（スポーツドクター）
第12回	年齢・性別によるスポーツ外傷・障害の特徴1（発育期）（スポーツドクター）
第13回	年齢・性別によるスポーツ外傷・障害の特徴2（女性・高齢者）（スポーツドクター）

回数	内容
第14回	整形外科的メディカルチェック1（山野）
第15回	整形外科的メディカルチェック2（山野）

授業外学習

毎日予習、復習をおこない講義内容を確実に習得する。

随時小テストを実施する。指定する課外授業等参加の場合は加点する。

- ・各回の授業開始時に口頭で小テストを実施するので、前回の授業についてよく復習しておくこと。（各2時間）
- ・授業計画に示した範囲の教科書、参考書を事前に読み、概略をつかんでおくこと。（各2時間）

教科書

アスレティックトレーナー専門科目テキスト第3巻 スポーツ外傷・障害の基礎知識（日本スポーツ協会）

参考書

アスレティックトレーナー専門科目テキスト第2巻運動器の解剖と機能（日本スポーツ協会）、

スポーツ外傷学(1)～(4)医歯薬出版、部位別スポーツ外傷・障害（南江堂）

スポーツ指導者のためのスポーツ医学 南江堂

備考

年次	3 年
対象	24 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 福嶋啓祐

授業の概要

アスリートにみられる内臓器官、感染症、オーバートレーニング症候群や突然死、過換気症候群などの疾患の病態、症状、対応策と処置、予防処置について口述する。また、様々な環境下での運動時における生体の反応、順応、それらの環境下での障害について、さらに、女性や高齢者、発育期の子供の生理的特徴や運動に対する応答、特異的障害についても学習させるとともに、メディカルチェックの意義や必要性、実施内容、ドーピングコントロールなども幅広く解説する。

到達目標

スポーツに関する医学的事項について学び、意義、目的を理解し、説明できる。

評価方法

定期試験（100％）で評価する。

注意事項

本科目を履修する者は「内科学I（総論）」を受講していることが望ましい。

授業計画

回数	内容
第1回	A.アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (1)循環器系疾患 (2)呼吸器系疾患
第2回	A.アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (3)消化器系疾患 (4)血液疾患
第3回	A.アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (5)腎・泌尿器疾患 (6)代謝性疾患 (7)皮膚疾患
第4回	B.感染症に対する対応策 (1)呼吸器感染症 (2)血液感染症 (3)皮膚感染症
第5回	B.感染症に対する対応策 (4)ウイルス性結膜炎 (5)海外遠征時に注意すべき感染症 (6)各競技別ルールにみられる感染症対策
第6回	C.アスリートにみられる病的現象など (1)オーバートレーニング症候群 (2)突然死 (3)過換気症候群
第7回	C.アスリートにみられる病的現象など (4)摂食障害 (5)減量による障害 (6)喫煙・飲酒の問題点
第8回	D.特殊環境のスポーツ医学 (1)高所および低酸素環境下での身体への影響 (2)高圧環境 (3)暑熱環境
第9回	D.特殊環境のスポーツ医学 (4)低温環境 (5)時差 (6)海外遠征時の諸問題
第10回	E.年齢・性別による特徴 (1)女性のスポーツ医学 (2)成長期のスポーツ医学
第11回	E.年齢・性別による特徴 (3)高齢者のスポーツ医学
第12回	F.内科的メディカルチェック (1)メディカルチェックの意義と必要性 (2)対象別メディカルチェックの内容 (3)メディカルチェックにおける検査項目
第13回	F.内科的メディカルチェック (4)運動負荷試験の目的と方法 (5)運動負荷試験の実際 (6)運動負荷試験結果の判定基準
第14回	G.ドーピングコントロール (1)アンチドーピングの目的 (2)ドーピングの定義 (3)禁止される物質の種類
第15回	G.ドーピングコントロール (4)注意すべき市販薬 (5)事前申告を必要とする薬物 (6)ドーピングコントロールステーション同伴時の留意事項

授業外学習

学習時間の目安：60時間

アスレティックトレーナー専門科目テキスト第1巻～第2巻を購入して予習しておくこと。

復習として、課題レポートを毎回（15回）提出する。

教科書

アスレティックトレーナー専門科目テキスト第4巻 健康管理とスポーツ医学（公益財団法人日本スポーツ協会）

参考書

アスレティックトレーナー専門科目テキスト第1巻～第9巻（公益財団法人日本スポーツ協会）

備考

アスレティックトレーナー実習 I (34308)

前期

Practice of Athletic Trainer I

生命科学部 健康科学科

年次	4 年
対象	23 ～ 19 W,W
単位数	2. 0 単位
担当教員	 山野力

授業の概要

スポーツ現場において実習を行うことで、アスレティックトレーナーにとって必須である現場で実践できる知識と技術を学ぶ。

【実務経験のある教員による授業科目】現・アスレティックトレーナー（富山県ホッケー協会など）：アスレティックトレーナーとしての実務経験を有する教員が、現場における実務を体験しながら、知識と技術を習得させ、現場において安全に業務を遂行できる能力を身につけることができるよう指導する。

到達目標

アスレティックトレーナーとして、現場で安全に業務を遂行しうる基本的実技能力、および指導能力を身につける。

評価方法

実習態度40%、総合筆記テスト20%、基本的実技能力40%で総合的に評価する。

注意事項

現場、もしくは選手などから知りえた情報をいかなることがあっても漏えいしてはいけない。個人情報を含め、様々な情報の守秘義務に違反した場合、実習を即刻中止する。

また、現場実習日誌は、実習当日に正確に記入し、指導員の押印をもらうこと。事後報告は認められないので注意すること。
アスレティックトレーナーとしての自覚をもって実習に望むこと。

授業計画

スポーツ現場において、下記の内容に関する実習を行う。

- ・見学実習30時間
- ・検査・測定及び評価に関する実習とアスレックリハビリテーションプログラム作成に関する実習を合わせて30時間行う。

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間

- ・現場、実習先で業務を円滑に遂行できるよう、毎回の実習前に提示する実習内容の予習と復習は必ず行うこと。
- ・各回の実習後、問題点を整理しておくこと。

教科書

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト(1)～(9)全巻

参考書

適宜紹介する

備考

アスレティックトレーナー実習Ⅱ（34656）

後期

Practice of Athletic Trainer Ⅱ

生命科学部 健康科学科

年次	4 年
対象	23 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 山野力

授業の概要

スポーツ現場において実習を行うことで、アスレティックトレーナーにとって必須である現場で実践できる知識と技術を学ぶ。

到達目標

アスレティックトレーナーとして、現場で安全に業務を遂行しうる基本的実技能力、および指導能力を身につける。

評価方法

実習態度40%、総合筆記テスト20%、基本的実技能力40%で総合的に評価する。

注意事項

現場、もしくは選手などから知りえた情報をいかなることがあっても漏えいしてはいけない。個人情報を含め、様々な情報の守秘義務に違反した場合、実習を即刻中止する。

また、現場実習日誌は、実習当日に正確に記入し、指導員の押印をもらうこと。事後報告は認められないので注意すること。
アスレティックトレーナーとしての自覚をもって実習に望むこと。

授業計画

スポーツ現場において、下記の内容に関する実習を行う。

- ・スポーツ現場実習30時間
- ・アスレティックリハビリテーションプログラム作成に関する実習を合わせて30時間行う。

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間

- ・現場、実習先で業務を円滑に遂行できるよう、毎回の実習前に提示する実習内容の予習と復習は必ず行うこと。
- ・各回の実習後、問題点を整理しておくこと。

教科書

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト(1)～(9)全巻

参考書

適宜紹介する

備考

アスレティックトレーナー実習Ⅲ（34612）

通年

Practice of Athletic Trainer Ⅲ

生命科学部 健康科学科

年次	4 年
対象	23 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 吉田俊明

授業の概要

スポーツ現場において実習を行うことで、アスレティックトレーナーにとって必須である現場で実践できる知識と技術を学ぶ。

到達目標

アスレティックトレーナーとして、現場で安全に業務を遂行しうる基本的実技能力、および指導能力を身につけ実践できる。

評価方法

実習態度50%、基本的実技能力25%、A Tとしての総合力25%

注意事項

現場、もしくは選手などから知りえた情報をいかなることがあっても漏えいしてはいけない。必要によっては、実習を即刻中止する。アスレティックトレーナーとしての自覚をもって実習に望むこと。

授業計画

スポーツ現場において、下記の内容に関する実習を行う。

- ・検査・測定および評価とスポーツ現場実習
- ・アスレティックリハビリテーションメニューの立案、説明、デモンストレーションと実技指導
- ・現場での総合実習を組み合わせ60時間行う。

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間

- ・各回の現場実習での体験をもとに、現場で必要な知識と方法を確認し、他のアプローチの仕方も考える。
- ・各回の実習後、復習し理解しておくこと。

教科書

使用しない

参考書

適宜紹介する

備考

救急医学概論 I（34406）

前期

Introduction to emergency medicine I

生命科学部 健康科学科

年次	1 年
対象	26 ～ 19 W,W
単位数	2. 0 単位
担当教員	 水野恭志

授業の概要

救急救命士（消防官）になるための知識を習得する。

【フィードバック】課題（レポート）に対する講評やフィードバック指導を行う。

到達目標

- 1 救急救命士（消防官）になるという意識付けができる。
- 2 救急活動を理解する。

評価方法

1 授業に取り組む姿勢30%（到達目標 1、2 を評価）、レポート提出20%（到達目標 2 を評価）、定期試験50%（到達目標 1、2 を評価）により成績を評価し、総合点60点以上を合格とする。

注意事項

学外実習を計画している（施設見学等）。移動等にかかる費用は自己負担とする。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	生命倫理と医の倫理
第3回	救急医療体制
第4回	病院前救護体制
第5回	救急活動の基本（1）
第6回	救急活動の基本（2）
第7回	救急救命士の役割と責任・救急救命士に関する法規
第8回	災害医療
第9回	全身観察の意義
第10回	全身所見の観察法
第11回	局所所見の観察の意義
第12回	局所所見の観察法（1）
第13回	局所所見の観察法（2）
第14回	学外実習：消防救助技術中国地区大会の視察
第15回	学外実習：岡山県消防学校初任科教育課程の視察：この視察により、消防官・救急救命士を目指す学生の勉学及び職業意識に対する士気高揚を図ることができる。（教員が引率）

授業外学習

学習時間の目安：30 時間

予習の内容については講義毎に指示する。復習については随時行っておくこと。課題レポートを3回程度出題する。

教科書

改訂第10版救急救命士標準テキスト（新刊が4月中に発刊予定であるため、新刊発刊後に購入することとする）

第3版 人体の構造と機能：医学書院（5,200円（税別））：ISBN 978-4-260-02055-8

参考書

参考文献は適宜案内する。

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 藤田雅範

授業の概要

救急救命士に求められる医療従事者としての必要な知識はもとより、救急医学における役割や責任及びその範囲などを理解させるとともに、観察、判断、処置の方法について概論的に解説し、救急医学の基礎から応用までを理解させる。

到達目標

- ・医療従事者としての自覚、人間性、救急現場においての的確な観察能力、その症状を理解したうえでの適正な応急処置ができる。
- ・傷病者に最も適する医療機関の選定など、救急救命士として最低限必要な知識を身につけることができる。
- ・更なる救急救命医療への向上心を持つことができる。

評価方法

- ・講義に取り組む姿勢、課題レポート提出、模擬授業などの平常点と定期試験で評価を行う。
- ・評価は、レポート（30％）、模擬授業（30％）、定期試験（40％）の重みで判定する。

注意事項

無断での欠席、遅刻、早退はしないこと。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（医療従事者としての人間性とは）
第2回	観察 1
第3回	観察 2
第4回	観察 3
第5回	現場活動の基本
第6回	全身状態の観察 1
第7回	全身状態の観察 2
第8回	局所の観察 1
第9回	局所の観察 2
第10回	緊急度・重症度判断
第11回	資器材による観察
第12回	救急救命士が行う処置
第13回	救急蘇生法
第14回	在宅療法継続中の傷病者の処置
第15回	傷病者搬送法

授業外学習

学習時間の目安：30時間
ミニテストの実施（予習）および課題レポート（復習）の作成を必要毎に行う。

教科書
改訂第9版 救急救命士標準テキスト上巻：へるす出版

参考書
参考文献は適宜案内する。

備考

一般救急救命（34451）

後期

Basic Life Support and Emergency Care

生命科学部 健康科学科

年次	2 年
対象	25 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 山野力  吉田悦男  水野恭志

授業の概要

本講義では、救急処置の基本的知識とともに、スポーツ現場における救急処置ならびに内科的疾患の救急処置について学ぶ。

到達目標

スポーツ現場での救急処置のみにとどまらず、日常生活でも役立つ能力であり、救急処置への理解を深め、いつでも実践できる。

評価方法

学期末試験70％、授業に取り組む姿勢10％、救急法実技試験20％、で総合的に評価する。

注意事項

講義の内容が、緊急、生命に関わる重要かつ大切な内容である。真剣に取り組むこと。

また、講義、実習中の携帯電話使用は禁止とする。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（吉田・山野）
第2回	救急処置の目的と意義（吉田・山野）
第3回	救急処置の基礎知識（吉田・山野）
第4回	緊急時の対応計画（吉田・山野）
第5回	外傷の評価と応急処置（吉田・山野）
第6回	スポーツ現場にみられる外傷とその特性（吉田・山野）
第7回	出血の有無による応急処置の違い（吉田・山野）
第8回	RICE処置の理論と実際（吉田・山野）
第9回	スポーツ現場でみられる内科的疾患とその特性（吉田・山野）
第10回	熱中症・過換気症候群（吉田・山野）
第11回	食物依存性運動誘発性アナフィラキシー（吉田 水野 山野）
第12回	心肺蘇生法（1）人工呼吸（吉田 水野 山野）
第13回	心肺蘇生法（2）胸骨圧迫（吉田 水野 山野）
第14回	心肺蘇生法（3）人工呼吸・胸骨圧迫・AED（吉田 水野 山野）
第15回	総まとめ（吉田 水野 山野）

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

・教科書を熟読し、講義・実技の前にしっかりと予習をし、講義・実技後は的確に実践できるよう復習すること。

教科書

公益財団法人日本スポーツ協会 公認アスレティックトレーナー専門テキスト8 救急処置

参考書

なし

備考

救命救助法（34261）

後期

Emergency Medical Care

生命科学部 健康科学科

年次	3 年
対象	24 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 水野恭志  松村敬則

授業の概要

救急現場等で活動する救急救命士として必要な実践能力を習得するため、下記のとおり外傷傷病者や意識障害傷病者、また、急性期における蘇生トレーニングを習得し、チーム医療を実践する。

- ・外傷現場活動における救急隊員の基本処置などについてJPTEC、PBECをもとにした活動を習得する。
- ・救急現場における適切な観察・判断・処置を習得する。
- ・救急現場等におけるチーム医療を理解し習得する。

【フィードバック】シミュレーションに対するフィードバックを行う。

到達目標

- 1 外傷における病院前救急活動を理解し実践できることを目標とする。
- 2 救急現場におけるチーム医療について実践することを目標とする。
- 3 外傷病院前救護（JPTEC）プロバイダーコース受講を目標とする。
- 4 熱傷病院前救護（PBEC）プロバイダーコース受講を目標とする。
- 5 蘇生トレーニングコース（ICLS）受講を目標とする。

評価方法

・授業に取り組む態度・姿勢 40％（到達目標1～5を評価）、定期試験 60％（到達目標1を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・2年次ならびに3年次開講の必修科目を全て修了したものに限る。
- ・4年次開講の「病院内実習」及び「救急車同乗実習」への参加は本科目を修了したものに限る。
- ・本科目は、救急救命士になるための資格免許科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。
- ・より良い授業環境を確保するため、受講中の態度、遅刻、途中退出等の扱いについて留意点をまとめた「受講上の注意」を明確に示すので遵守すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（水野 松村）
第2回	外傷病院前救護（JPTEC）の活動（1）：活動概要・状況評価（水野 松村）
第3回	外傷病院前救護（JPTEC）の活動（2）：初期評価・全身観察（水野 松村）
第4回	外傷病院前救護（JPTEC）の活動（3）：重点観察・詳細観察・継続観察（水野 松村）
第5回	外傷病院前救護（JPTEC）の活動（4）：傷病者の固定と収容開始・収容直後の活動・報告と急変時の対応（水野 松村）
第6回	病院前熱傷救護（PBEC）の活動（1）：活動概要・状況評価・初期評価（水野 松村）
第7回	病院前熱傷救護（PBEC）の活動（2）：全身観察・重点観察等（水野 松村）
第8回	病院前熱傷救護（PBEC）の活動（3）：車内活動・病院選定（水野 松村）
第9回	病院前熱傷救護（PBEC）の活動（4）：化学損傷、電撃傷（水野 松村）

回数	内容
第10回	蘇生トレーニングコース（ICLS）について（１）：（水野 松村）
第11回	蘇生トレーニングコース（ICLS）について（２）：（水野 松村）
第12回	蘇生トレーニングコース（ICLS）について（３）：（水野 松村）
第13回	総合シミュレーション（１）：（水野 松村）
第14回	総合シミュレーション（２）：（水野 松村）
第15回	総合シミュレーション（３）：（水野 松村）

授業外学習

- ・テキスト、資料を毎回の講義後に熟読すること。
- ・実習室内にある資器材において、反復練習すること。
- ・外傷病院前救護（JPTEC）プロバイダーコースへのタスク参加を必須とする。
- ・熱傷病院前救護（PBEC）プロバイダーコースへタスク参加すること。
- ・蘇生トレーニングコース（ICLS）の受講を必須とする。

教科書

改訂第２版 JPTECガイドブック：へるす出版（3,780円（税込））ISBN 978-4-89269-885-9

改訂第９版 救急救命士標準テキスト（上巻）：へるす出版（10,584円（税込））ISBN 978-4-89269-869-9

改訂第９版 救急救命士標準テキスト（下巻）：へるす出版（10,584円（税込））ISBN 978-4-89269-870-5

３訂版 見る！わかる！救急手技の基本とポイント：東京法令出版（2,400円（税別））ISBN 978-4-8090-2425-2

救急処置スキルブック（上巻）：晴れ書房 ISBN 978-4-908980-01-5

救急処置スキルブック（下巻）：晴れ書房 ISBN 978-4-908980-02-2

ICLSコースガイドブック：羊土社 ISBN 978-4-7581-1800-2

参考書

適宜紹介する。

備考

年次	3 年
対象	24 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 松村敬則

授業の概要

- ・救急救命士として災害現場ですぐに実践できるための知識・スキルを習得する。
- ・災害医療についての知識を確認するため、小テスト・課題を実施し講評をフィードバックする。
- 【フィードバック】グループごとに行うシミュレーション等に対してフィードバックを行う。

到達目標

- 1 災害現場における基本的知識について理解し説明できる。
- 2 多数傷病者対応標準プログラム（MCLS）に基づいた現場活動について理解し説明できる。
- 3 トリアージの目的と方法を具体的に説明できる。
- 4 CBRNE災害に対する現場活動について理解し説明できる。

評価方法

- ・ミニテスト 40％（到達目標 2 ～ 4 を評価）、定期試験 60％（到達目標 1 ～ 4 を評価）により成績を評価し、総合計 6 0 点以上を合格とする。

注意事項

- ・救急救命士資格の取得、消防・警察・自衛隊を目指す学生を対象とする。
- ・本科目は、救急救命士になるための資格免許科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。
- ・より良い授業環境を確保するため、受講中の態度、遅刻、途中退出等の扱いについて留意点をまとめた「受講上の注意」を明確に示すので遵守すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	多数傷病者事故における災害現場医療対応の原則
第3回	災害現場管理、災害現場の医療（START法トリアージ）
第4回	災害対応シミュレーション（トリアージ）
第5回	災害現場の医療（START・PAT法トリアージ、トリアージタグ記載）
第6回	災害対応シミュレーション（トリアージタグ）
第7回	災害現場の医療（治療、搬送）
第8回	災害対応シミュレーション（多数傷病者事故 1）
第9回	災害対応シミュレーション（多数傷病者事故 2）
第10回	CBRNE災害共通の対応
第11回	CBRNE災害現場活動：検知・ゾーニング、防護、除染前トリアージ、除染、除染後トリアージ
第12回	CBRNE災害種別特性：化学剤、生物剤
第13回	CBRNE災害種別特性：放射性物質、核物質、爆発物

回数	内容
第14回	災害対応シミュレーション（CBRNE災害）
第15回	災害対応総合シミュレーション

授業外学習

- ・学習時間の目安：合計60時間
- ・次回の授業内容を確認し、その範囲の専門用語の意味等を調べて理解しておくこと。
- ・授業内容の復習として、ミニテストを3回程度実施する。

教科書

標準多数傷病者対応MCLSテキスト：ばーそん書房（2,160円（税別））ISBN 978-4-907095-12-3

MCLS-CBRNEテキスト：ばーそん書房（2,160円（税別））ISBN 978-4-907095-36-9

NBCテロ・災害対処ポケットブック：診断と治療社（1,600円（税別））ISBN 978-4-7878-2028-0

参考書

DMAT標準テキスト：へるす出版（5,616円（税別））ISBN 978-4-89269-859-0

備考

内科学 I（総論）（34409）

前期

Internal Medicine I (basic principles)

生命科学部 健康科学科

年次	2 年
対象	25 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 吉田悦男

授業の概要

内科学の基礎となる解剖、生理学を復習しつつ、それを発展させ各種疾患の病態生理学および診察、診断法を学ぶ。

到達目標

- 1 救急救命士国家試験に必要な解剖、生理学の知識を身につける。
- 2 基本的な診察法の理屈と手順を説明できる。
- 3 各種症候の原因を解剖生理学的に説明でき、さらに関連疾患を挙げることができる。

評価方法

筆記試験（小テスト4回）（100％）にて評価する。

注意事項

生理学を修了している者が受講できる。

授業計画

回数	内容
第1回	体液・血液系の解剖生理
第2回	体液・血液系の代表的疾患
第3回	消化器系の解剖生理
第4回	消化器系の代表的疾患
第5回	泌尿器系の解剖生理
第6回	泌尿器系の代表的疾患
第7回	内分泌系の解剖生理
第8回	内分泌系の代表的疾患
第9回	代謝性疾患
第10回	感染性疾患
第11回	寄生虫感染症
第12回	自己免疫、アレルギー疾患
第13回	臨床診断学
第14回	内科的診察法・問診法
第15回	バイタルサイン

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間

毎回の講義の復習をするとともに、次回講義の予習に必要な課題を出すのでよく理解しておくこと。

教科書

改訂第10版救急救命士標準テキスト | 救急救命士標準テキスト編集委員会 | へるす出版 |

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

内科学Ⅱ（呼吸・循環系）（34456）

後期

Internal Medicine Ⅱ (respiratory & cardiology)

生命科学部 健康科学科

年次	2 年
対象	25 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 吉田悦男

授業の概要

救急救命士にとって重要な心肺蘇生に直接関わる呼吸器、循環器系を理解する科目である。
救急医療の中核となる呼吸循環器系の解剖・生理学・病理学を復習確認しつつ、呼吸循環器系疾患の症候、診断、対処法を、救急疾患を中心に学ぶ。

到達目標

- 1 各種症候から複数の鑑別疾患を挙げることができる。
- 2 さらにその組み合わせからの確な臨床診断、対処法へと結びつけることができる。
- 3 救急救命士国家試験に必要な知識を習得する。

評価方法

筆記試験（小テスト4回）（100％）にて評価する。

注意事項

解剖学、生理学、内科学Ⅰのすべてを修了している者が受講できる。

授業計画

回数	内容
第1回	循環器系の解剖
第2回	循環器系の生理
第3回	バイタルサイン、聴診
第4回	心電図（1）理論
第5回	心電図（2）応用
第6回	循環器系救急症候
第7回	心疾患
第8回	脈管疾患
第9回	呼吸器系の解剖
第10回	呼吸器系の生理
第11回	呼吸器系救急症候
第12回	肺疾患
第13回	胸膜・縦隔疾患
第14回	症例検討（1）呼吸器系
第15回	症例検討（2）循環器系

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間

毎回の講義の復習をするとともに、次回講義の予習に必要な課題を出すのでよく理解しておくこと。

教科書

救急救命士標準テキスト上巻 | 救急救命士標準テキスト編集委員会 | へるす出版 | 978-4892698699
救急救命士標準テキスト下巻 | 救急救命士標準テキスト編集委員会 | へるす出版 | 978-4892698705

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

内科学Ⅲ（消化器・内分泌系）（34606）

前期

Internal Medicine Ⅲ (gastroenterology & endocrinology)

生命科学部 健康科学科

年次	3 年
対象	24 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 水野恭志  吉田悦男

授業の概要

消化器疾患および内分泌疾患の病態・診断・治療について講義する。特に代表的疾患および救急疾患について習得する。
【フィードバック】課題（レポート）に対するフィードバック指導を行う。

到達目標

- 1 病態・症状の把握から診断がつけられるようになる。
- 2 各種疾患に救急処置が習得できる。
- 3 救急救命士国家試験に必要な知識を習得できる。

評価方法

課題レポート50%（到達目標 1、2、3 を評価）、小テスト50%（到達目標 1、2、3 を評価）により成績を評価し、総合点計60点以上を合格とする。

注意事項

特記なし。

授業計画

回数	内容
第1回	消化器の解剖（吉田）
第2回	消化器の生理（吉田）
第3回	食道・胃の疾患（水野）
第4回	小腸大腸の疾患（水野）
第5回	肝・胆・膵の疾患（吉田）
第6回	急性腹症（吉田）
第7回	吐・下血（水野）
第8回	劇症肝炎・肝硬変（水野）
第9回	代謝障害（水野）
第10回	糖尿病Ⅰ 診断（水野）
第11回	糖尿病Ⅱ 治療（水野）
第12回	内分泌器官の解剖・生理（吉田）
第13回	内分泌疾患Ⅰ 下垂体（吉田）
第14回	内分泌疾患Ⅱ その他（吉田）
第15回	まとめ（吉田）

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間

毎回の講義の復習をするとともに、次回講義の予習に必要な課題を出すのでよく理解しておくこと。

教科書

救急救命士標準テキスト上・下巻（最新版）：へるす出版

参考書

適宜紹介する。

備考

内科学Ⅳ（神経系）（34457）

後期

Internal Medicine IV(neurology)

生命科学部 健康科学科

年次	3 年
対象	24 ～ 19 W,W
単位数	2. 0 単位
担当教員	 松村敬則

授業の概要

・人体のコントロールタワーともいべき神経系についての理解を深め、日常生活において重大な障害をもたらす神経系疾患について学習する。

・病院前救護における神経系疾患などの対応について、PCEC/PSLSをはじめ、PEMECについても理解し、救急救命士として適確な救急現場活動が行えるようになることを目的としている。

【アクティブラーニング】PCECコースを受講し発見学習を取り入れている。

【フィードバック】ミニテストやレポートに対する講評や省察を含めた指導を行う。

到達目標

- 1 神経系の構造と機能を理解し説明できる。
- 2 PCEC/PSLSの活動について理解し説明できる。
- 3 PEMECの活動について理解し説明できる。

評価方法

授業時間中に実施するミニテスト 30%（到達目標1を評価）、レポート 20%（到達目標2を評価）、定期試験 50%（到達目標1～3を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

・本科目は、救急救命士になるための資格免許科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。

・より良い授業環境を確保するため、受講中の態度、遅刻、途中退出等の扱いについて留意点をまとめた「受講上の注意」を明確に示すので遵守すること。

・PCEC/PSLSに関しては、日本臨床救急医学会（PCEC：<http://jsem.me/training/pcec.html>、PSLS:<http://jsem.me/training/psls.html>）のWebページで説明しているので、授業内容の理解に役立つ。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	人体の構造と機能（神経系1）：神経系の構成と役割、中枢神経系、末梢神経系、伝導路
第3回	人体の構造と機能（神経系2）：伝導路、自律神経系、脳循環、意識、反射
第4回	全身状態・局所の観察（神経に関する観察）、緊急度・重症度判断
第5回	救急病態生理学（1）：重症脳障害（総論、発症機序、一次性脳病変と二次性脳病変、頭蓋内圧亢進、脳ヘルニア、特殊な意識障害）
第6回	救急病態生理学（2）：神経系疾患（総論、脳血管障害、中枢神経系の感染症、末梢神経疾患、その他の中枢神経疾患）
第7回	救急症候学（1）：意識障害、頭痛
第8回	救急症候学（2）：痙攣、運動麻痺、めまい
第9回	PCEC（1）：状況評価、初期評価、情報収集、判断、全身観察、評価、車内活動
第10回	PCEC（2）：意識障害傷病者に対する観察

回数	内容
第11回	PCEC（3）：意識障害の原因となる代表的疾患の各論
第12回	救急現場活動：PCECコース受講
第13回	救急現場活動：PCECコース受講
第14回	救急活動シナリオトレーニング（1）：痙攣、頭痛等
第15回	救急活動シナリオトレーニング（2）：めまい・ふらつき、しびれ・痙攣等

授業外学習

- ・学習時間の目安：合計30時間
- ・次回の授業内容の確認を行い、その範囲の専門用語の意味等を調べ理解しておくこと。
- ・復習として、ミニテストを3回程度実施する。
- ・コース受講に対するレポートの作成。

教科書

改訂第9版 救急救命士標準テキスト（上巻）：へるす出版（10,584円（税込））ISBN 978-4-89269-869-9
改訂第9版 救急救命士標準テキスト（下巻）：へるす出版（10,584円（税込））ISBN 978-4-89269-870-5
PCECガイドブック2016：へるす出版（3,024円（税込））ISBN 978-4-89269-878-1
PSLSガイドブック2015：へるす出版（2,420円（税込））ISBN 978-4-89269-866-8
PEMECガイドブック2017：へるす出版（2,160円（税込））ISBN 978-4-89269-919-1
ビジュアルノート：メディックメディア（5,184円（税込））ISBN 978-4-89632-623-9
ねじ子のぐっとくる脳と神経のみかた：医学書院（1,600円（税別））ISBN 978-4-260-01772-5

参考書

のほほん解剖生理学：永岡書店（1,480円（税別））ISBN 978-4-522-43461-1

備考

外科学 I（総論）（34203）

前期

Surgery I (basic principles)

生命科学部 健康科学科

年次	3 年
対象	24 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 水野恭志  松村敬則

授業の概要

- ・救急救命士として、病院前救護活動において適確な観察・処置が行えるように、解剖生理学から復習し、外科学についての理解を深めることを目的とする。
- ・外傷全般についての知識はもとより、救急救命士国家試験に対する知識も高め、救急現場で活用できる内容について理解を深めることを目的とする。
- ・救急救命士に必要な臨床外科学の基本を学ぶ。

【フィードバック】ミニテスト・レポートに対する講評やフィードバックを含めた講義を行う。

到達目標

- 1 外傷システム、トラウマバイパス、緊急度・重症度等について理解する。
- 2 外傷の病態生理について理解する。
- 3 外傷の現場活動について理解し実践できる。

評価方法

・授業時間中に実施するミニテスト 30％（到達目標1～2を評価）、レポート 20％（到達目標1～2を評価）、定期試験 50％（到達目標1～3を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・本科目は、救急救命士になるための資格免許科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。
- ・より良い授業環境を確保するため、受講中の態度、遅刻、途中退出等の扱いについて留意点をまとめた「受講上の注意」を明確に示すので遵守すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション：（水野 松村）
第2回	外傷救急医学 外傷総論（1）：（水野 松村）
第3回	外傷救急医学 外傷総論（2）：（水野 松村）
第4回	外傷救急医学 外傷の病態生理：（水野 松村）
第5回	外傷救急医学 外傷の現場活動：（水野 松村）
第6回	外傷救急医学 頭部外傷：（水野 松村）
第7回	外傷救急医学 顔面・頸部外傷：（水野 松村）
第8回	外傷救急医学 脊椎・脊髄外傷：（水野 松村）
第9回	外傷救急医学 胸部外傷：（水野 松村）
第10回	外傷救急医学 腹部外傷：（水野 松村）
第11回	外傷救急医学 骨盤外傷：（水野 松村）

回数	内容
第12回	外傷救急医学 四肢外傷：（水野 松村）
第13回	外傷救急医学 皮膚・軟部外傷：（水野 松村）
第14回	外傷救急医学 小児・高齢者・妊婦の外傷：（水野 松村）
第15回	外傷救急医学 外科学（総論）まとめ：（水野 松村）

授業外学習

- ・学習時間の目安：30時間
- ・次回の授業内容を確認し、その範囲の専門用語の意味等を調べて理解しておくこと。
- ・復習としてミニテストを3回程度、各外傷についてのレポート提出を2回程度実施する。

教科書

改訂第9版 救急救命士標準テキスト（上巻）：へるす出版（10,584円（税込））ISBN 978-4-89269-869-9

改訂第9版 救急救命士標準テキスト（下巻）：へるす出版（10,584円（税込））ISBN 978-4-89269-870-5

改訂第2版 JPTECガイドブック：へるす出版（3,780円（税込））ISBN 978-4-89269-885-9

参考書

講義中に適宜紹介する。

備考

外科学Ⅱ（各論）（34352）

後期

Surgery Ⅱ (specialities)

生命科学部 健康科学科

年次	3 年
対象	24 ～ 19 W,W
単位数	2. 0 単位
担当教員	 水野恭志  松村敬則

授業の概要

- ・救急救命士として、病院前救護活動において適確な観察・処置が行えるように、解剖生理学から復習し、外科学についての理解を深めることを目的とする。
- ・外傷全般についての知識はもとより、救急救命士国家試験に対する知識も高め、救急現場で活用できる内容について理解を深めることを目的とする。
- ・救急救命士に必要な臨床外科学及び急性中毒学・環境障害を外科学Ⅰ（総論）に基づいて学ぶ。

【フィードバック】ミニテスト・レポートに対する講評やフィードバックを含めた講義を行う。

到達目標

- 1 外傷の病態生理について理解する。
- 2 外傷の現場活動について理解し実践できる。
- 3 急性中毒学及び環境障害について理解する。

評価方法

・授業時間中に実施するミニテスト 30%（到達目標1～3を評価）、レポート 20%（到達目標1～3を評価）、定期試験 50%（到達目標1～3を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・前期開講の「外科学Ⅰ（総論）」履修が必修であり、救急救命士資格の取得を目指す学生を対象とする。
- ・本科目は、救急救命士になるための資格免許科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。
- ・より良い授業環境を確保するため、受講中の態度、遅刻、途中退出等の扱いについて留意点をまとめた「受講上の注意」を明確に示すので遵守すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション：（水野 松村）
第2回	外傷救急医学 熱傷（1）：（松村）
第3回	外傷救急医学 熱傷（2）：（松村）
第4回	外傷救急医学 化学損傷：（松村）
第5回	外傷救急医学 電撃症・雷撃症：（松村）
第6回	外傷救急医学 刺咬症（傷）：（水野 松村）
第7回	急性中毒学・環境障害 中毒総論：（水野 松村）
第8回	急性中毒学・環境障害 中毒各論（1）：（水野 松村）
第9回	急性中毒学・環境障害 中毒各論（2）：（水野 松村）
第10回	急性中毒学・環境障害 異物：（水野 松村）
第11回	急性中毒学・環境障害 溺水：（水野 松村）

回数	内容
第12回	急性中毒学・環境障害 熱中症：（水野 松村）
第13回	急性中毒学・環境障害 偶発性低体温症：（水野 松村）
第14回	急性中毒学・環境障害 放射線障害：（水野 松村）
第15回	急性中毒学・環境障害 その他の環境障害：（水野 松村）

授業外学習

- ・学習時間の目安：30時間
- ・次回の授業内容を確認し、その範囲の専門用語の意味等を調べて理解しておくこと。
- ・復習としてミニテストを3回程度、各外傷についてのレポー提出を2回程度実施する。

教科書

改訂第9版 救急救命士標準テキスト（上巻）：へるす出版（10,584円（税込））ISBN 978-4-89269-869-9

改訂第9版 救急救命士標準テキスト（下巻）：へるす出版（10,584円（税込））ISBN 978-4-89269-870-5

改訂第2版 JPTECガイドブック：へるす出版（3,780円（税込））ISBN 978-4-89269-885-9

参考書

適宜紹介する。

備考

小児科学（34209）

前期

Pediatrics

生命科学部 健康科学科

年次	3 年
対象	24 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 藤田雅範

授業の概要

小児科学の総論と各論を通して小児の成長・発達、および生理を学び、新生児医療、救急医療、そして思春期医療を中心に小児疾患を理解する。

到達目標

成人と小児の違いを生理学を通して習得することで、救急現場において、小児に対する的確な観察判断および適正な応急処置が行えるようになる。

評価方法

講義に取り組む姿勢、課題レポート提出、模擬授業などの平常点と定期試験で評価を行う。
評価は、レポート（30％）、模擬授業（30％）、定期試験（40％）の重みで判定する。

注意事項

無断での欠席、遅刻、早退はしないこと。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	総論 小児の救急医療
第3回	救急現場で注意すべき小児疾患 1
第4回	救急現場で注意すべき小児疾患 2
第5回	救急現場で注意すべき小児疾患 3
第6回	小児救急現場での救急処置 1
第7回	小児救急現場での救急処置 2
第8回	小児救急現場での救急処置 3
第9回	小児救急現場での救急処置 4
第10回	総論 新生児・未熟児と救急医療体制
第11回	新生児・未熟児の症候学
第12回	新生児・未熟児の救急対応
第13回	小児の外傷
第14回	小児の外傷に対する救急対応
第15回	総復習、まとめ

授業外学習

学習時間の目安：30時間

ミニテストの実施（予習）および課題レポート（復習）の作成を必要毎に行う。

教科書

改訂第9版 救急救命士標準テキスト下巻:へるす出版

参考書

参考文献は適宜案内する。

備考

産婦人科学（34155）

後期

Obstetrics & Gynecology

生命科学部 健康科学科

年次	3 年
対象	24 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 藤田雅範  佐宮初美

授業の概要

救急医学における産婦人科学の特殊性を学び、母体と胎児における救急救命活動に関連の深い疾患を理解する。

到達目標

産科救急、婦人科救急の特殊性を習得することで、的確な観察判断および適正な応急処置（分娩介助など）を身につけることができる。

評価方法

講義に取り組む姿勢、課題レポート提出、模擬授業などの平常点と小試験で評価を行う。評価は、レポート（30％）、模擬授業（30％）、試験（40％）の重みで判定する。

注意事項

無断での欠席、遅刻、早退はしないこと。

一部、集中講義で開講する場合もあるので、掲示板の確認を怠らないこと。

授業計画

回数	内容
第1回	母体搬送と新生児・未熟児搬送 <佐宮>
第2回	正常分娩の経過 1 <佐宮>
第3回	正常分娩の経過 2 <佐宮>
第4回	各論 分娩時・産褥期の異常症状と産科救急 <佐宮>
第5回	各論 合併症妊婦の異常症状と産科救急 <佐宮>
第6回	各論 女性性器の異常と婦人科救急 <佐宮>
第7回	分娩介助法と新生児への対応 <佐宮>
第8回	総論 産科救急 <藤田>
第9回	総論 婦人科救急 <藤田>
第10回	救急救命活動における分娩介助と新生児への対応 1 <藤田>
第11回	救急救命活動における分娩介助と新生児への対応 2 <藤田>
第12回	救急救命活動における分娩介助と新生児への対応 3 <藤田>
第13回	各論 妊娠初期の異常症状と産科救急 <藤田>
第14回	各論 妊娠中期・後期の異常症状と産科救急 <藤田>
第15回	総復習、まとめ<佐宮・藤田>

授業外学習

学習時間の目安：30時間
ミニテストの実施（予習）および課題レポート（復習）の作成を必要毎に行う。

教科書
改訂第9版 救急救命士標準テキスト下巻：へるす出版

参考書
参考文献は適宜案内する。

備考

年次	3 年
対象	24 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 松村敬則

授業の概要

- ・救急救命士として、病院前救護活動において適確な観察・処置が行えるように、解剖生理学から復習し、筋・骨格系疾患についての理解を深めることを目的とする。
- ・外傷全般についての知識はもとより、救急救命士国家試験に対する知識も高め、救急現場で活用できる内容について理解を深めることを目的とする。
- ・標本を基に人体の構造の基礎等を中心に学び、人体の基本について理解できるようになる。

- 【アクティブラーニング】学外実習を実施し発見学習を取り入れている。
- 【フィードバック】ミニテストやレポートに対する講評や省察を含めた指導を行う。

到達目標

- 1 筋・骨格系に関する構造と機能について理解し説明できる。
- 2 筋・骨格系に関する観察方法、疾患について理解し説明できる。
- 3 学外実習を通して、人体構造についての知識を立体的・多面的に理解する。
- 4 JPTECに基づく現場活動について理解し説明できる。

評価方法

- ・授業時間中に実施するミニテスト 30％（到達目標1～2を評価）、レポート 20％（到達目標3を評価）、定期試験 50％（到達目標1～3を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・本科目は、救急救命士になるための資格免許科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。
- ・より良い授業環境を確保するため、受講中の態度、遅刻、途中退出等の扱いについて留意点をまとめた「受講上の注意」を明確に示すので遵守すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	人体の構造と機能（1）：筋・骨格系（筋・骨格、筋肉、骨・関節）
第3回	人体の構造と機能（2）：筋・骨格系（靱帯・腱、脊柱の構造）
第4回	局所の観察：運動障害、知覚障害、浮腫、腫脹、変形、短縮、動脈拍動、関節可動域
第5回	筋・骨格系疾患（1）総論、脊椎疾患
第6回	筋・骨格系疾患（2）関節疾患、筋疾患
第7回	学外実習（1）
第8回	学外実習（2）
第9回	外傷救急医学（1）：外傷総論（外傷疫学、受傷機転とエネルギー、外傷分類、主受傷機転）
第10回	外傷救急医学（2）：外傷病態生理（侵襲への反応、外傷に伴うショック）

回数	内容
第11回	外傷救急医学（3）：外傷現場活動（状況評価、傷病者の評価）
第12回	現場活動（1）：状況評価、初期評価、全身観察
第13回	現場活動（2）：全身観察、継続観察、詳細観察、重点観察
第14回	救急シナリオトレーニング（1）：外傷に関するシミュレーション
第15回	救急シナリオトレーニング（2）：外傷に関するシミュレーション

授業外学習

- ・学習時間の目安：合計 30 時間
- ・次回の授業内容の確認を行い、その範囲の専門用語の意味等を調べて理解しておくこと。
- ・復習として、ミニテストを 3 回程度実施する。
- ・学外実習に対するレポートの作成。

教科書

改訂第 9 版 救急救命士標準テキスト（上巻）：へるす出版（10,584円（税込））ISBN 978-4-89269-869-9

改訂第 9 版 救急救命士標準テキスト（下巻）：へるす出版（10,584円（税込））ISBN 978-4-89269-870-5

改訂第 2 版 JPTECガイドブック：へるす出版（3,780円（税込））ISBN 978-4-89269-885-9

超カンタン！ 解剖生理：東京法令出版（1,900円（税別））ISBN 9784-8090-2369-9

参考書

病気がみえる（vol.11）運動器・整形外科：メディックメディア（3,800円（税別））ISBN 978-4-89632-632-1

のほほん解剖生理学：永岡書店（1,480円（税別））ISBN 978-4-522-43461-1

備考

年次	3 年
対象	24 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	大川元久

授業の概要

高齢社会の現代の医療に即した形で、脳神経外科の基本的知識や疾患、特に脳血管障害や脳・神経外傷などの病態について学習し、プロフェッショナル医療人として役に立つ知識と技術を養えるようになることが目標である。尚、クラスを小グループに分けPBL形式の授業を行う。

到達目標

シナリオ症例からその疾患・外傷を脳神経外科学的に理解し説明できる（PBL形式）。救急救命士国家試験の脳神経外科学関連の問題が解ける知識を学ぶ。

評価方法

小テスト、期末テストおよび授業態度で評価する。特にPBLの際にはグループ内での役割・貢献度を最終評価の半分とする。

注意事項

講義前後で各自予復習を1時間行うこと。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション 第15回までの総論と続く各論の学び方を把握する。
- 第2回 中枢神経系の構造と機能 中枢神経と末梢神経の違いを学ぶ。特に脳ヘルニアで重要なことは呼吸？瞳孔？血圧？意識？に答える。
- 第3回 観察（全身）まずは、気道・呼吸・循環のバイタルサインが中枢神経系にどう関与するかを学ぶ。
- 第4回 観察（局所）外傷診療標準システム(ITLSやJATEC)の基本的プロトコールから中枢神経系の症候や症状を理解する。
- 第5回 重症度・緊急度 1 救急医療の基礎的概念。なぜ必要かという点まで深く学ぶ。実際に救急医療現場を想定して知識をどのように生かすかを学ぶ。
- 第6回 処置(総論・各論) 救命士に資格に保証される最も特徴的な行為は何かを学ぶ。
- 第7回 検査・感染とその予防 まずは自分を守るという感染防御がこれからの仕事の第一歩。
- 第8回 生命の維持・意識障害 脳の機能と生命との関わりは覚醒を基準とした意識から。
- 第9回 頭痛・発熱・失神・痙攣 脳を急に痛めると何が起こるかを考える
- 第10回 運動障害・しびれ・視覚障害・めまい 脳の障害の代表である麻痺や痺れを知る。
- 第11回 腫瘍：正常な細胞が暴走していくその姿が腫瘍です。何が起こっているのか考える。
- 第12回 血管障害 かつて、そして今も日本人がよく襲われる病気は、と振り返る。
- 第13回 感染 人々は、病原微生物と戦って医学を確立していきました。感染とは何か学ぶ。
- 第14回 脳蘇生 なぜ時間というファクターが大事かを理解する。
- 第15回 総論のまとめ 国家試験、プロとしての救命士活動に必要な知識の使い方をPBLで習得する。
- 第16回 一次救命処置を中枢神経系の関連を考察できるように学ぶ。
- 第17回 疾患の成り立ちと回復過程 1 中枢神経系の病気を具体的に、脳梗塞・クモ膜下出血や外傷を症例を提示して考察する。
- 第18回 疾患の成り立ちと回復過程 2 髄膜炎や環境因子の影響による熱中症を具体的に知る。
- 第19回 腫瘍 1 脳腫瘍の発生機序を学び、その種類を知る。
- 第20回 腫瘍 2 実際の患者さんがどのようなのかを学ぶ。
- 第21回 血管障害 1 脳血管障害の発生のしくみを学ぶ。脳梗塞・脳出血・くも膜出血とは具体的にどんな病気を理解する。
- 第22回 血管障害 2 脊髄や末梢神経の循環障害はどのようなものかを理解する。
- 第23回 感染症 1 病原微生物がどのように中枢神経系に感染していくかを学ぶ。
- 第24回 感染症 2 中枢神経感染症の症状・症候を学ぶ。意識障害と痙攣に注目する。
- 第25回 外傷 1 救命活動の真骨頂の外傷を世界基準のATLSから脳神経外科との関連を学ぶ。
- 第26回 外傷 2 ATLSに基づいて構築された我が国のJATEC・JPTECまで基本を学ぶ。
- 第27回 PBL演習 1 意識障害の症例から医療的対応を考察する。
- 第28回 PBL演習 2 脳血管障害の症例から医療的対応を考察する。

第29回 PBL演習 3 交通事故外傷の症例から医療的対応を考察する。

第30回 まとめ 国家試験、プロとしての救命士活動に必要な知識の使い方をPBLで習得する。まとめテストを行い最終評価とする。

授業外学習

学習時間の目安：30時間

予習は授業計画に沿って参考書やインターネットの情報から各項目で1時間程度エッセンスをまとめておく。チャンスがあれば、医師・看護師・救命士・医療技師の行うPSLS,ISLS講習会に参加してもらう（参加費自己負担）

教科書

プリント中心の講義で特に指定はしない。

参考書

第41回・第42回 救急救命士国家試験問題 解答・解説集 救急救命士標準テキスト へるす出版 東京

必修 救急救命士国家試験対策問題集2019 出版社: 文光堂

救急救命士国家試験対策 Deru-Q 2018-2019 出版社: 文光堂

イラストで解る 救急救命士国家試験直前ドリル 出版社: 文光堂; 3版

備考

医学検査（34304）

前期

Clinical Laboratory Medicine

生命科学部 健康科学科

年次	3 年
対象	24 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 吉田悦男

授業の概要

救急の臨床現場で行われる各種検査の目的と意義を学習する。
各種病態における検査結果への影響を、解剖生理学を再度復習しながら理解を深める。
特に救急疾患の鑑別に重要な心電図診断能力を身につけるトレーニングを重点的に行う。

到達目標

- 1 救急疾患の鑑別に必要な検査を挙げることができる。
- 2 各種測定器具の仕組みを理解し適正な使用法を身につける。
- 3 心電図診断能力を身につける。
- 4 救急救命士国家試験に必要な知識を習得する。

評価方法

筆記試験（小テスト4回）（100％）にて評価する。

注意事項

2 年次開講の内科学Ⅰ、内科学Ⅱを修了したものが受講できる。
4 年次開講の病院内実習、救急車同乗実習を受講する者は他科目とともに当科目「医学検査」を修了しているものに限られるので注意すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	循環動態に関する検査 1（血圧関連）
第3回	循環動態に関する検査 2（血流関連）
第4回	呼吸機能に関する検査
第5回	X線検査 1（各部位の単純X線）
第6回	X線検査 2（CT）
第7回	MRI検査
第8回	内視鏡検査
第9回	超音波検査
第10回	細菌検査
第11回	血液生化学検査
第12回	尿便検査
第13回	心電図トレーニング 1（心電図の基礎）
第14回	心電図トレーニング 2（不整脈）
第15回	心電図トレーニング 3（虚血性心疾患）

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間
毎回の講義の復習をするとともに、次回講義の予習に必要な課題を出すのでよく理解しておくこと。

教科書

救急救命士標準テキスト上巻 | 救急救命士標準テキスト編集委員会 | ヘルス出版 | 978-4892698699
救急救命士標準テキスト下巻 | 救急救命士標準テキスト編集委員会 | ヘルス出版 | 978-4892698705

参考書

授業中に随時紹介する。

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 19 W,W
単位数	2. 0 単位
担当教員	水野恭志 松村敬則

授業の概要

・救急救命士として救急現場で活動するために必要となる基本的技術として、救急課程修了程度の医学的知識や現場活動における応急処置のスキルを習得することを目的とする。

【フィードバック】レポート及びシミュレーションに対する講評などのフィードバックを含めた指導を行う。
【実務経験のある教員による授業科目】元・消防職員（救急救命士）：救急救命士としての実務経験をもとに、救急隊員として必要な知識・技術についての実習を指導する。

到達目標

- 1 心肺蘇生法や三角巾を用いた止血等、救急現場活動における応急処置のスキルをシミュレーションにおいて実践できる。
- 2 救急現場活動において基本となる観察方法
- 3 救急隊員として必要な知識・技術を習得する。

評価方法

・授業時間中に実施するミニテスト 30％（到達目標2～3を評価）、レポート 20％（到達目標2～3を評価）、定期試験 50％（到達目標1～3を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・前期開講の「救急医学概論」履修が必須であり、救急救命士資格取得を目指す学生を対象とする。
- ・本科目は、救急救命士になるための資格免許科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。
- ・より良い授業環境を確保するため、受講中の態度、遅刻、途中退出等の扱いについて留意点をまとめた「受講上の注意」を明確に示すので遵守すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション：（水野 松村）
第2回	シミュレーション実施時に必要な基本手技等：（水野 松村）
第3回	一般市民に対する心肺蘇生法：（水野 松村）
第4回	医療従事者に対する心肺蘇生法：（水野 松村）
第5回	心肺蘇生法（新生児・乳幼児・小児）：（水野 松村）
第6回	三角巾取り扱い：（水野 松村）
第7回	3回目～6回目理解度の確認：（水野 松村）
第8回	気道管理（喉頭展開・用手による気道確保）：（水野 松村）
第9回	気道管理（BVM取り扱い）：（水野 松村）
第10回	各種観察器具取り扱い：（水野 松村）
第11回	観察：（水野 松村）

回数	内容
第12回	8回目～11回目理解度の確認：（水野 松村）
第13回	救急救命士特定行為補助：（水野 松村）
第14回	救急現場活動（1）：（水野 松村）
第15回	救急現場活動（2）：（水野 松村）

授業外学習

- ・前期で学ぶ救急医学概論I及び、同時開講している救急医学概論IIの内容とリンクするところが多数存在するので、復習・予習は確実にしておくこと。
- ・次回の授業内容を確認し、その範囲の専門用語やスキルについて調べて理解しておくこと。
- ・復習として、ミニテスト及びレポートを各2回程度実施する。

教科書

改訂第9版 救急救命士標準テキスト（上巻）：へるす出版（10,584円（税込））ISBN 978-4-89269-869-9

改訂第9版 救急救命士標準テキスト（下巻）：へるす出版（10,584円（税込））ISBN 978-4-89269-870-5

※改訂10版 救急救命士標準テキスト（予定）が2020年4月中に発刊予定であるため、購入までは下記の救急技術マニュアルのみで対応する。

5訂版 救急技術マニュアル：東京法令出版（3,800円（税別））ISBN 978-4-8090-2433-7

参考書

適宜紹介する

備考

年次	2 年
対象	25 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 水野恭志  松村敬則

授業の概要

救急現場等で活動する救急救命士として必要な実践能力を習得するため、シミュレーションⅠの内容を基に、下記のとおり傷病者の生理学的評価、解剖学的評価から緊急度・重症度を的確に判断し優先される処置は何かを選択できる知識と判断力を習得する。

- ・シミュレーションⅠの内容を基に、救急救命士特定行為について救急現場で迅速・確実に実施できることを目的とする。
- ・各種プロトコルに基づいた救急活動を実践できることを目的とする。

【フィードバック】ミニテスト、レポート及びシミュレーションに対しフィードバック等を行う。

【実務経験のある教員による授業科目】元・消防職員（救急救命士）：救急救命士としての実務経験をもとに、救急隊員として必要な知識・技術についての実習を指導する。

到達目標

- 1 救急救命士特定行為について理解し説明できる。
- 2 救急活動プロトコルについて学び、特定行為等について考察することにより、救急現場で判断し確実に実施できるようになる。
- 3 救急救命士として必要な知識・技術を習得する。

評価方法

・授業時間中に実施するミニテスト 30％（到達目標1～3を評価）、レポート 20％（到達目標1～3を評価）、定期試験 50％（到達目標1～3を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・「シミュレーションⅠ」履修が必須であり、救急救命士資格取得を目指す学生を対象とする。
- ・本科目は、救急救命士になるための資格免許科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。
- ・より良い授業環境を確保するため、受講中の態度、遅刻、途中退出等の扱いについて留意点をまとめた「受講上の注意」を明確に示すので遵守すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション：（水野 松村）
第2回	心肺蘇生法（医療従事者向け）・プロトコル：（水野 松村）
第3回	器具を使用した気道確保（1）：（水野 松村）
第4回	器具を使用した気道確保（2）：（水野 松村）
第5回	気管挿管・ビデオ喉頭鏡（1）：（水野 松村）
第6回	気管挿管・ビデオ喉頭鏡（2）：（水野 松村）
第7回	2回目～6回目理解度の確認：（水野 松村）
第8回	静脈路確保（1）：（水野 松村）
第9回	静脈路確保（2）：（水野 松村）
第10回	薬剤投与（1）：（水野 松村）

回数	内容
第11回	薬剤投与（２）・エビペン：（水野 松村）
第12回	８回目～１１回目理解度の確認：（水野 松村）
第13回	救急現場活動（１）：（水野 松村）
第14回	救急現場活動（２）：（水野 松村）
第15回	シミュレーションⅡ総括：（水野 松村）

授業外学習

- ・１年次で学ぶ救急医学概論Ⅰ・Ⅱ、シミュレーションⅠの内容とリンクするところが多数存在するので、復習は確実にしておくこと。
- ・次回の授業内容を確認し、その範囲の専門用語やスキルについて調べて理解しておくこと。
- ・復習として、ミニテスト及びレポートを各２回程度実施する。

教科書

改訂第10版救急救命士標準テキスト（新刊が４月中に発刊予定であり、新刊発刊後に購入してもらう）

５訂版 救急技術マニュアル：東京法令出版（3,800円（税別））ISBN 978-4-8090-2433-7

３訂版 見る！わかる！救急手技の基本とポイント：東京法令出版（2,400円（税別））ISBN 978-4-8090-2425-2

必携 救急観察処置スキルマニュアル：ぱーそん書房 ISBN 978-4-907095-35-2

E. M. Tサポートブック ４版：東京法令出版（2,300円（税別））ISBN 978-4-8090-2398-9

参考書

適宜紹介する

備考

年次	2 年
対象	25 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	水野恭志 松村敬則

授業の概要

救急現場等で活動する救急救命士として必要な実践能力を習得するため、シミュレーションⅠ及びⅡの内容を基に、下記のとおり傷病者の生理学的評価、解剖学的評価から緊急度・重症度を的確に判断し優先される処置は何かを選択できる知識と判断力を習得する。

- ・内因性疾患に基づく救急活動を、応急処置や特定行為などを取り入れ総合的に学ぶ講義である。
- ・救急救命士特定行為について救急現場で迅速・確実に実施できることを目的とする。

【フィードバック】ミニテスト、レポート及びシミュレーションに対し講評等の指導を行う。

【実務経験のある教員による授業科目】元・消防職員（救急救命士）：救急救命士としての実務経験をもとに、救急隊員として必要な知識・技術についての実習を指導する。

到達目標

- 1 救急救命士特定行為について理解し説明できる。
- 2 救急活動プロトコールについて学び、特定行為等について考察することにより、救急現場で判断し確実に実施できるようになる。
- 3 救急救命士として必要な知識・技術を習得する。

評価方法

・授業時間中に実施するミニテスト 30％（到達目標1～3を評価）、レポート 20％（到達目標1～3を評価）、定期試験 50％（到達目標1～3を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・「シミュレーションⅡ」履修が必須であり、救急救命士資格取得を目指す学生を対象とする。
- ・本科目は、救急救命士になるための資格免許科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。
- ・より良い授業環境を確保するため、受講中の態度、遅刻、途中退出等の扱いについて留意点をまとめた「受講上の注意」を明確に示すので遵守すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション：（水野 松村）
第2回	心肺蘇生法（医療従事者向け）：（水野 松村）
第3回	心肺停止前輸液（1）：（水野 松村）
第4回	心肺停止前輸液（2）：（水野 松村）
第5回	血糖測定・ブドウ糖投与（1）：（水野 松村）
第6回	血糖測定・ブドウ糖投与（2）：（水野 松村）
第7回	3回目～6回目理解度の確認：（水野 松村）
第8回	救急現場活動（1）：（水野 松村）
第9回	救急現場活動（2）：（水野 松村）
第10回	救急現場活動（3）：（水野 松村）

回数	内容
第11回	総合救急現場活動（１）：（水野 松村）
第12回	総合救急現場活動（２）：（水野 松村）
第13回	総合救急現場活動（３）：（水野 松村）
第14回	総合救急現場活動（４）：（水野 松村）
第15回	シミュレーションⅠ～Ⅲ総括：（水野 松村）

授業外学習

- ・シミュレーションⅠ・Ⅱの内容とリンクするところが多く存在するので、復習は確実にしておくこと。
- ・次回の授業内容を確認し、その範囲の専門用語やスキルについて調べて理解しておくこと。
- ・復習として、ミニテスト及びレポートを各２回程度実施する。

教科書

改訂第９版 救急救命士標準テキスト（上巻）：へるす出版（10,584円（税込））ISBN 978-4-89269-869-9

改訂第９版 救急救命士標準テキスト（下巻）：へるす出版（10,584円（税込））ISBN 978-4-89269-870-5

５訂版 救急技術マニュアル：東京法令出版（3,800円（税別））ISBN 978-4-8090-2433-7

必携 救急観察処置スキルマニュアル：ぱーそん書房 ISBN 978-4-907095-35-2

PEMECガイドブック2017：へるす出版（2,160円（税込））ISBN 978-4-89269-919-1

説明できる 病態生理（2,600（税別））ISBN 978-4-7809-1349-1

参考書

適宜紹介する

備考

病院内実習（34610）

通年

Inside Hospital Training

生命科学部 健康科学科

年次	4 年
対象	23 ～ 19 W,W
単位数	1 2 . 0 単位
担当教員	 水野恭志  松村敬則

授業の概要

救急医療に関連した知識の応用と救急救命処置に係わる技術を習得する。

【フィードバック】提出された報告書に対しフィードバックを行う。

到達目標

・医療現場の見学と医行為の介助などを通して、診療の補助に対する理解が深まる。

評価方法

実習指導者の評価（30％）、実習報告書の評価（70％）により総合的に評価する。

注意事項

- ・病院の職員や一般の患者と接するので、言動や服装に特に気をつけること。
- ・3年次までに開講する、救急救命士の必修科目すべてを修了している者に限り受講できる。
- ・実習費用は入学当時に伝えたとおり、学費とは別に納入する。
- ・実習施設までの移動費等は自己負担とする。

授業計画

バイタルサイン、身体所見の観察、モニター、酸素マスクの装着、バックバルブマスク法、食道閉鎖式エアウェイ、ラリングエルマスクの使用、気道内吸引、喉頭鏡の使用、胸骨圧迫マッサージの実施、末梢静脈路の確保、点滴ラインの準備、除細動の実施、ナースینگケア、精神科、小児科、産婦人科領域の処置、創傷、骨折の処置など、病院実習ガイドラインに従ったことを実習する。

授業外学習

・実習とはいえ、ユニフォームを着る以上はプロとみなされる。予習も当然のことながら、毎回の実習後は復習し、知識を深めておくことはもちろんのこと、普段の生活や態度に気をつけるよう心掛けること。

教科書

改訂第9版 救急救命士標準テキスト（上巻）：へるす出版（10,584円（税込））ISBN 978-4-89269-869-9

改訂第9版 救急救命士標準テキスト（下巻）：へるす出版（10,584円（税込））ISBN 978-4-89269-870-5

参考書

適宜紹介する

備考

救急車同乗実習（34611）

通年

Clinical Practice with ambulances car

生命科学部 健康科学科

年次	4 年
対象	23 ～ 19 W,W
単位数	3．0 単位
担当教員	 水野恭志  松村敬則

授業の概要

消防機関において、実際に救急自動車に同乗し救急現場に出動、救急現場の状況や傷病者の観察・処置、家族等への対応、医療機関への収容方法等実際の救急活動について学ぶ。

【フィードバック】提出された報告書に対しフィードバックを行う。

到達目標

・ 出動指令から帰署、帰署後の活動における救急活動等を知ることができる。

評価方法

・ 実習に取り組む姿勢・態度（30％）、実習報告書の評価（70％）により総合的に評価する。

注意事項

- ・ 実際に傷病者やその家族と接するので、言動や服装に特に気をつけること。
- ・ 3 年次までに開講の必修科目をすべて修了した者に限り受講できる。
- ・ 実習施設までの移動費等は自己負担とする。

授業計画

消防署に待機し、救急出動時の救急車に同乗する。
待機時間は指導救急救命士の指示に従い行動する。

授業外学習

救急車に同乗することは、プロとしてみなされる。予習はもちろんのこと、毎回の実習後には復習し、知識を深めておくこと。普段の生活や態度に気をつけるよう心掛けること。

教科書

改訂第9版 救急救命士標準テキスト（上巻）：へるす出版（10,584円（税込））ISBN 978-4-89269-869-9
改訂第9版 救急救命士標準テキスト（下巻）：へるす出版（10,584円（税込））ISBN 978-4-89269-870-5

参考書

適宜紹介する

備考

体育原理（34358）

後期

Theory of Physical Education

生命科学部 健康科学科

年次	2 年
対象	25 ～ 19 W,W
単位数	2． 0 単位
担当教員	 石田博也

授業の概要

体育・スポーツ領域の事象を扱うにあたり、まずはその本質を理解することが必要である。したがって、本講義では「体育」、「スポーツ」、「運動」および「プレイ」の概念・性質を検討したのち、具体的な事象取り上げ考察し、体育・スポーツについての理解を深める。

到達目標

体育・スポーツについて理解する。

評価方法

定期試験の結果、レポートの提出・内容及び授業に取り組む姿勢を総合的に評価する。評価は、発表および授業に取り組む態度（２０％）、レポート（２０％）、定期試験（６０％）の割合で行う。

注意事項

授業態度においては厳しく指導します

授業計画

回数	内容
第1回	体育原理とは何か
第2回	体育とは何か
第3回	スポーツとは何か
第4回	運動とは何か
第5回	遊びとは何か
第6回	身体形成とは何か
第7回	健康とは何か
第8回	中間まとめ
第9回	身体と精神との関係
第10回	スポーツと競争
第11回	スポーツと規範
第12回	スポーツと運動文化
第13回	スポーツと経済
第14回	スポーツと政治
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

毎回の授業についてよく予習と復習をしておくこと。

教科書

使用しない。

参考書

川峯 雄『体育原理』（大修館書店）、中村 敏雄 編著『体育原理講義』（大修館書店）

備考

スポーツ実習 I（陸上）（34405）

前期

Sports Training I (Athletic Sports)

生命科学部 健康科学科

年次	3 年
対象	24 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 枝松千尋

授業の概要

本講義は、陸上競技の実習科目であり、基本的な陸上競技種目の特性と技術、競技ルールについて理解させる。また、指導の方法についても学習させる。

【アクティブラーニング】自分たちで技術的にレベルアップするために、お互いのフォームについて指導しあう方法を取り入れている。

【フィードバック】陸上競技のフォームの学習においてICTを用いて、フィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 7 種の陸上競技ができる。特に、ハードル走（100m）を男子は18秒、女子は23秒、男子1500m走は5分45秒、女子1000m走は4分30秒を基準に、これをクリアすること。
- 指導案に従って、フィールド競技の指導法を身につける。
- 実習が安全でスムーズに行えるように機敏な行動や適切な声かけが実践できる。

評価方法

競技記録7 種目 4 0 %（到達目標1を評価）と、実習に取り組む姿勢 4 0 %（到達目標 3 を評価）と指導方法 2 0 %（到達目標2を評価）で成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・教員免許取得を目指す学生を対象とする。（それ以外は基本的には履修を認めない）
- ・最終的には、公認トラックを有する学外施設での実習を行う。（学外の陸上記録会に参加することを目指す）

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（注意事項と実習方法、準備）
第2回	陸上競技とは（走フォーム、ウォーミングアップとクーリングダウン）
第3回	短距離種目の基本練習（フォームの習得）
第4回	短距離種目の基本練習（スタートとコーナー走）
第5回	短距離種目の基本練習と計測
第6回	ハードル走の基本練習（空中姿勢の習得）
第7回	ハードル走の基本練習（踏み切りと着地・インターバルランニング）
第8回	ハードル走の基本練習と計測
第9回	跳躍種目の基本練習（走り幅跳び）
第10回	投擲種目の基本練習（砲丸投げ）
第11回	投擲種目の基本練習（やり投げ（ジャベリックスロー））
第12回	リレー種目の基本練習と個人課題の練習
第13回	個人課題の練習
第14回	陸上競技会（学外施設利用）

回数	内容
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間

- ・到達目標を達成できるようにハードル練習と持久的トレーニング（10km/週以上のジョギング、90分以上）を行うこと。
 - ・予習として各種目のルール、技術のポイントを毎回十分に学習しておくこと（30分）。
 - ・復習として授業で習った種目の技術を毎回十分に反復練習すること（60分）。
 - ・指導の方法については予行演習を十分にしておくこと（60分）。
-

教科書

実習中に指示する。

参考書

実習中に指示する。

備考

スポーツ実習Ⅲ（球技）（34101）

前期

Sports Training Ⅲ(Ball Game)

生命科学部 健康科学科

年次	2 年
対象	25 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 荒木直彦  椎葉大輔

授業の概要

保健体育教員、スポーツ指導者として対峙関係を形成する球技から、バスケットボール、フットボール（サッカー、ラグビー）等を中心に高等学校および中学校保健体育学習指導要領にのっとった指導方法,ならびに技術トレーニング方法を実習から学ぶ。

到達目標

- 1 「球技の指導現場において個人の特性に対応した指導計画の作成および実技指導ができる」
- 2 「試合の運営など球技大会を想定した運営計画を作成できる」

評価方法

授業に取り組む姿勢(20%)、課題レポート(40%)、実技テスト(40%)で総合的に評価する。

注意事項

- ・実習科目なので、欠席をしないこと。
- ・服装（スポーツウエア）、シューズ等を忘れないように用意する。

授業計画

回数	内容
第1回	チーム分けおよびオリエンテーション（荒木、椎葉）
第2回	ラグビーの基本的ルール（椎葉）
第3回	ラグビーのパスについて（椎葉）
第4回	ラグビーのタックルについて（椎葉）
第5回	ラグビーのオフENSE（椎葉）
第6回	ラグビーのディフェンス（椎葉）
第7回	ラグビーの戦術と試合展開（椎葉）
第8回	ラグビーのゲームと試合運営（椎葉）
第9回	バスケットボールの基本的ルール（荒木）
第10回	バスケットボールのパスについて（荒木）
第11回	バスケットボールのドリブルとシュートについて（荒木）
第12回	バスケットボールのオフENSE、ディフェンス（荒木）
第13回	バスケットボールの戦術と試合展開（荒木）
第14回	バスケットボールのゲームと試合運営（荒木）
第15回	まとめ（荒木、椎葉）

授業外学習

指導方法および技術トレーニング方法について授業毎に学んだことを復習しておくこと。（1時間）

各種メディアやテキスト等からスポーツ指導に係わる進捗状況の把握に努めること。（５時間）
課題レポートを２回提出すること。（１０時間）

教科書

公認スポーツ指導者育成テキストⅠ

参考書

公認スポーツ指導者育成テキストⅡ

公認スポーツ指導者育成テキストⅢ

中学校・高等学校保健体育教科書

備考

スポーツ実習Ⅳ（武道）（34253）

後期

Sports Training Ⅳ(Martial Art)

生命科学部 健康科学科

年次	2 年
対象	25 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 猪木原孝二  大家一

授業の概要

日本古来の武道精神に乗っ取り、柔道の真髄を正しく理解させることを目的として、精神の鍛錬と技の技術を習得させることを教授する。

到達目標

- 1.実際に相手と組み合い試合ができるまでになる。
- 2.ある程度柔道競技の指導できるようになる。

評価方法

授業に取り組む姿勢（60％），課題レポート(40%)で評価する。

注意事項

各人が柔道着を個人で用意すること。
武道は危険なので道場以外での技を仕掛けることは禁止する。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（猪木原・大家）
第2回	武道精神について（猪木原・大家）
第3回	基本動作 姿勢（猪木原・大家）
第4回	基本動作 礼法（猪木原・大家）
第5回	基本動作 組み方・作りと掛け・崩し（猪木原・大家）
第6回	基本動作 受け身（猪木原・大家）
第7回	基本動作 受け身（猪木原・大家）
第8回	投げ技 手 技（猪木原・大家）
第9回	投げ技 腰 技（猪木原・大家）
第10回	投げ技 足 技（猪木原・大家）
第11回	固め技 抑え技（猪木原・大家）
第12回	固め技 絞技・関節技 レポート「武道精神について(1)」（猪木原・大家）
第13回	乱取り稽古（猪木原・大家）
第14回	乱取り稽古 レポート「武道精神について(2)」（猪木原・大家）
第15回	試合稽古（猪木原・大家）

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

その代り試合等がテレビ等で放送されることがあれば観るようにする。

教科書

講義中に指示する。

参考書

必要に応じて指示する。

備考

スポーツ実習Ⅴ（テニス）（34504）

前期

Sports Training Ⅴ(Tennis)

生命科学部 健康科学科

年次	3 年
対象	24 ～ 19 W,W
単位数	2. 0 単位
担当教員	 石川昌平

授業の概要

テニスは生涯スポーツであり、何歳になっても楽しめるスポーツである。

授業では、基本技術の習得、ゲームのルールやテニスのマナーを学び応用技術を実習しゲームができるように学習する。

到達目標

テニスの基本技術と応用技術を学び、試合ができることを目標とする。

テニスの楽しさを学ぶ。

評価方法

平常点（100点）

配点内訳： 技術点25% レポート等点25% 授業態度50%

注意事項

運動ができる服装、シューズで授業を受けること。

授業計画

第1回 ラケットとボールに慣れる。

第2回～3回 グランドストローク

第4回～5回 ボレー、スマッシュ

第6回 サーブ

第7回 応用技術

第8回 ルール説明、試合の進め方

第9回～10回 シングルス

第11回～12回 ダブルス

第13回～15回 トーナメント、技術テスト

天候により授業の内容は変更する場合がある。

個人の技能に応じてシラバスの内容を変更して指導を行う場合がある。

授業外学習

学習時間の目安：30時間

- ・テニスの専門用語を理解できるように調べておく。
- ・ルールに関する、レポートを提出する。（2回）

教科書

プリントを配布する。

参考書

プリントを配布する。

備考

スポーツ実習Ⅵ（体操）（34305）

前期

Sports Training Ⅵ(Gymnastics)

生命科学部 健康科学科

年次	3 年
対象	24 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 梶谷信之  岡井克明

授業の概要

学校教育および生涯スポーツの中で実施されている体操（器械運動）は、身体を制御する能力を高める運動として効果的である。そこで、体操（器械運動）の実施方法や指導方法並びに補助法などを身につけることにより、将来の活動現場において有益な助言・指導が出来る能力の習得を目的とする。

到達目標

体操（器械運動）の実施方法や指導方法並びに補助法などを身につける。

評価方法

毎回のレポート 3 0 %、実技試験 3 0 %、受講意欲 4 0 %（遅刻、服装不良、授業態度不良などは減点とする）

注意事項

- ・本授業は前半15回と後半15回で担当教員が異なる。前半は岡井、後半は梶谷が担当する。前半は倉敷芸術科学大学にて、通常の授業科目と同様に行うが、後半は集中講義で倉敷芸術科学大学もしくは学外にて実施する予定である。（昨年は岡山大学で実施）
- ・授業前に柔軟運動やマット運動・鉄棒運動などに慣れておくと、授業がスムーズにできるし、けがの予防にもなる。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（岡井）
第2回	体操の基本運動（準備体操、柔軟、組体操など）（岡井）
第3回	鉄棒運動の基本技術と指導法：上がり技（逆上がりなど）（岡井）
第4回	鉄棒運動の基本技術と指導法：支持回転系の技（前方支持回転など）、足かけ回転系の技（前方膝かけ回転など）（岡井）
第5回	鉄棒運動の基本技術と指導法：下り技（踏み込み下りなど）（岡井）
第6回	鉄棒運動の基本技術の確認：実技試験（岡井）
第7回	跳び箱運動の基本運動：踏み切り板の使い方と導入の練習方法（岡井）
第8回	跳び箱運動の基本技術とその指導法：切り返し系の跳躍技（開脚跳びなど）（岡井）
第9回	跳び箱運動の基本技術とその指導法：回転系の跳躍技（台上前転跳びなど）（岡井）
第10回	跳び箱運動の基本技術の確認：実技試験（岡井）
第11回	マット運動の基本運動：模倣運動と平均立ち技群（バランス、倒立など）（岡井）
第12回	マット運動の基本技術とその指導法：接転技群（前転グループ、後転グループ）（岡井）
第13回	マット運動の基本技術とその指導法：ほん転技群（側方倒立回転など）（岡井）
第14回	マット運動の応用技術とその指導法：演技構成とその練習（岡井）
第15回	マット運動の基本技術の確認：実技試験（岡井）
第16回	体操の応用運動（梶谷）
第17回	鉄棒運動の応用技術と指導法：上がり技（梶谷）

回数	内容
第18回	鉄棒運動の応用技術と指導法：支持回転系の技、足かけ回転系の技（梶谷）
第19回	鉄棒運動の応用技術と指導法：下り技（梶谷）
第20回	鉄棒運動の応用技術の確認：実技試験（梶谷）
第21回	跳び箱運動の応用運動（梶谷）
第22回	跳び箱運動の応用技術とその指導法：切り返し系の跳躍技（梶谷）
第23回	跳び箱運動の応用技術とその指導法：回転系の跳躍技（梶谷）
第24回	跳び箱運動の応用技術の確認：実技試験（梶谷）
第25回	マット運動の応用運動：模倣運動と平均立ち技群（梶谷）
第26回	マット運動の応用技術とその指導法：接転技群（梶谷）
第27回	マット運動の応用技術とその指導法：ほん転技群（梶谷）
第28回	マット運動の応用技術とその指導法：演技構成とその練習 1（梶谷）
第29回	マット運動の応用技術とその指導法：演技構成とその練習 2（梶谷）
第30回	マット運動の応用技術の確認：実技試験（梶谷）

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間

器械運動の実施方法および指導方法をよく自習しておくこと。技の習得や危険防止のために自宅での柔軟運動を実施すること。

教科書

特になし。

参考書

適宜プリント（資料）を配布する。

備考

エアロビエクササイズ実習（34210）

前期

Training of Aerobics

生命科学部 健康科学科

年次	3 年
対象	24 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 菊本晃司  枝松千尋

授業の概要

健康づくりを目的としたエアロビクスエクササイズの実施・指導方法に必要な知識と技能を習得する。
安全性と効率性に配慮した運動プログラムの作成と目的や対象者に合った実施方法・指導方法の技能を学ぶ。
【アクティブラーニング】 運動プログラムの作成・実施にあたり、グループ・ディスカッションとプレゼンテーション（リード）を取り入れている。
【フィードバック】 鏡およびICTを用いたフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1 健康運動の指導者として、ハイレベルなエアロビクスエクササイズ指導ができることを目指す。
- 2 実習が安全でスムーズに行えるように機敏な行動や適切な声かけが実践できる。

評価方法

実習に取り組む姿勢（30%）（到達目標 1）
実技テスト（50%）（到達目標 2）
レポート（20%）（到達目標 2）
上記の評価方法によって到達目標の達成度を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

健康運動実践指導者・健康運動指導士・保健体育教師を目指す学生を対象とする。（それ以外の学生は基本的には履修を認めない）
学外のエアロビクスエクササイズイベントに参加する。（参加費・交通費は自己負担）
保健体育教師を目指す学生は創作ダンスに関する特別講座に参加する。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション及びエアロビクスエクササイズの体験（菊本・枝松）
第2回	エアロビクスエクササイズの基本的な動作（1）（ジョギング・ウォーキング）（菊本・枝松）
第3回	エアロビクスエクササイズの基本的な動作（2）（菊本）
第4回	エアロビクスエクササイズの基本的な動作（3）（菊本）
第5回	エアロビクスエクササイズの運動プログラム構成（菊本）
第6回	エアロビクスエクササイズ実施前の注意点（菊本）
第7回	エアロビクスエクササイズのためのウォーミング・アップ（菊本）
第8回	運動強度の調節と動作の構成（1）（ジョギング・ウォーキング）（菊本・枝松）
第9回	運動強度の調節と動作の構成（2）（菊本）
第10回	主運動の構成（菊本）
第11回	対象者に合わせた実施方法と指導中の心得（菊本）
第12回	クール・ダウンの実施方法（菊本）
第13回	運動プログラムの全体的構成（初級者を対象として）（菊本）

回数	内容
第14回	運動プログラムの全体的構成（中級者を対象として）（菊本）
第15回	まとめ（菊本・枝松）

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間

予習として、各種ステップの技術ポイントを毎回十分に学習しておくこと。
復習として、授業で習った技術を次週まで十分に反復練習し習得すること。
模擬指導については、各自でプログラム作成後、予行演習を十分に行っておくこと。
学外のエアロビクスエクササイズイベントに参加する。

教科書

実習中に指示する。

参考書

実習中に指示する。

備考

年次	3 年
対象	24 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 荒木直彦

授業の概要

健康の保持・増進、競技力向上に必要なトレーニングに関する概念、及びそれぞれの科学的基礎、各種トレーニング方法について学習し、トレーニングが生体に与える効果と影響につて理解する。

到達目標

各種トレーニング方法と負荷強度と生体の関係についての基礎知識を習得する。

評価方法

テスト（6 0％）とレポート（20％）、及び授業態度（2 0％）での総合評価

注意事項

日本体育協会公認スポーツ指導者資格取得に関連する科目

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	トレーニングの基礎的概念
第3回	トレーニングと健康
第4回	競技力向上のためのトレーニング
第5回	障害予防のためのトレーニング
第6回	トレーニングによる生体反応
第7回	トレーニングの種類
第8回	トレーニングの方法
第9回	トレーニングの評価
第10回	トレーニングと老化
第11回	トレーニングと性差
第12回	トレーニングと栄養
第13回	トレーニングと疾患
第14回	まとめ1
第15回	まとめ2

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間（予習・復習、及び資料や文献等の検索。課題レポートの作成）

日本体育協会公認スポーツ指導者資格に対応した各種トレーニング方法や負荷強度、性差や年齢に関する文献等を調べる。

また、単元ごとにエッセイ、レポートを作成する。

教科書

資料を配布。

参考書

日本体育協会公認スポーツ指導者養成テキストⅠ・Ⅱ・Ⅲ
その他講義中に指示する。

備考

トレーニング実習（34452）

後期

Training

生命科学部 健康科学科

年次	3 年
対象	24 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 荒木直彦  三宅洋之

授業の概要

社会生活における健康の保持・増進のための身体トレーニングはQLOの基盤となる重要な要素の一つである。安全性、健全性を担保された適切なトレーニングの実践、指導に関して、トレーニング理論で学習した各種トレーニング方法を実施し、トレーニングの持つ意味、目的、そして生体に与える効果を実習から学ぶ。

到達目標

各種トレーニング方法についての基礎知識を習得し、実践する。

評価方法

授業に取り組む姿勢(20%)、課題レポート(30%)、小テスト(50%)で総合的に評価する。

注意事項

実習中に指示する。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（荒木）
第2回	トレーニング実習I（陸上および水中(シミュレーション)でのレペティション、インターバル）（荒木・三宅・外部講師：藤山）
第3回	トレーニング実習II（陸上および水中(シミュレーション)でのサーキット、ヒルト）（荒木・三宅・外部講師：藤山）
第4回	トレーニング実習III（陸上および水中(シミュレーション) トレーニング時の生理応答評価）（荒木・三宅・外部講師：藤山）
第5回	トレーニング実習IV（年齢に応じた陸上および水中(シミュレーション) トレーニング）（荒木・三宅・外部講師：藤山）
第6回	最新トレーニング理論・実習I（陸上および水中(シミュレーション)での高強度間欠トレーニング(1)）（荒木・三宅・外部講師：藤山）
第7回	最新トレーニング理論・実習I（陸上および水中(シミュレーション)での高強度間欠トレーニング(2)）（荒木・三宅・外部講師：藤山）
第8回	体力トレーニングI（器具を用いない方法、自重、水抵抗（シミュレーション)(1)）（荒木・三宅・外部講師：藤山）
第9回	体力トレーニングI（器具を用いない方法、自重、水抵抗（シミュレーション)(2)）（荒木・三宅・外部講師：藤山）
第10回	トレーニング計画の理論（陸上運動・水中運動）（荒木・三宅・外部講師：藤山）
第11回	トレーニング計画の作成・実施（陸上運動・水中運動）（荒木）
第12回	トレーニング計画の作成・実施（陸上運動・水中運動）（荒木）
第13回	トレーニング計画の作成・実施（荒木）
第14回	トレーニング計画実施に関する課題検討（荒木）
第15回	レポート作成・提出（荒木）

授業外学習

課題レポートは、講義テーマ毎に提示したものを作成し、授業最終回に提出する。（20時間）
各種トレーニング方法に関連する情報（ポイントや注意点、発展的な方法等）をまとめる。（10時間）

教科書

なし。

参考書

公認スポーツ指導者育成テキストⅠ・Ⅱ・Ⅲ
健康運動実践指導者テキスト

備考

キッズスポーツ理論（34555）

後期

Theory of Kids Sports
生命科学部 健康科学科

年次	3 年
対象	24 ～ 19 W,W
単位数	2． 0 単位
担当教員	 石田博也

授業の概要

本講義では、子どもたちを取り巻く環境とジュニア期のスポーツ活動の有効性について理解させ、ジュニアスポーツの指導者として必要な知識を教授する。

到達目標

ジュニアスポーツの指導者として必要な知識を習得する。

評価方法

指導案作成・課題レポート・テストを30：30：40の割合で評価し、到達目標の達成度を総合的に判断する。

注意事項

授業の出席、提出物の時間・期限厳守

この授業を受講していない者は後期のキッズスポーツ実習を履修できない

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	ジュニア期のスポーツの考え方 1 （子どもを取り巻く問題点とジュニア期のスポーツ）
第3回	ジュニア期のスポーツの考え方 2 （ジュニアスポーツのあるべき姿）
第4回	子どもの発達とコミュニケーションスキル 1 （子どもとコミュニケーションするための姿勢）
第5回	子どもの発達とコミュニケーションスキル 2 （コミュニケーションの方法）
第6回	乳幼児期の動きの発達とスキルの獲得 1 （移動系の運動スキル）
第7回	乳幼児期の動きの発達とスキルの獲得 2 （平衡系・操作系の運動スキル）
第8回	児童前期の動きの発達とスキルの獲得 1 （移動系・平衡系の運動スキル）
第9回	児童前期の動きの発達とスキルの獲得 2 （操作系の運動スキル・運動組合せ）
第10回	児童後期の動きの発達とスキルの獲得 1 （時間的調整からなるスポーツスキル）
第11回	児童後期の動きの発達とスキルの獲得 2 （空間的調整からなるスポーツスキル）
第12回	児童後期の動きの発達とスキルの獲得 3 （力量的調整からなるスポーツスキル）
第13回	青年前期の動きの発達とスキルの獲得 1 （運動組合せの基本）
第14回	青年前期の動きの発達とスキルの獲得 2 （運動組合せの応用）
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

ジュニアスポーツに関する書籍・新聞記事等を読むこと。

教科書

プリントなどを配布する

参考書

からだの科学（日本評論社）

小児保健（南江堂）

備考

キッズスポーツ実習（34556）

後期

Kids Sports

生命科学部 健康科学科

年次	3 年
対象	24 ～ 19 W,W
単位数	2．0 単位
担当教員	 枝松千尋  石田博也

授業の概要

本実習では、ジュニアスポーツの指導者として必要な技術習得を目指し、各発達段階において必要となる動き・スキルの獲得方法について学ぶ。本授業では運動あそび・レクリエーションゲーム・ニュースポーツを題材に学生が指導計画書を作成し、それに基づき授業を展開する。また、学内での実習だけでなく、近隣の幼稚園や地域型スポーツクラブにおいて、実際に子どもを指導する。さらに、学外の市民マラソンに参加し、子供から大人までが健康的なスポーツ活動を行う上で必要とされるものを考えさせる。

【アクティブラーニング】 グループ・ディスカッションとプレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】 課題、レポート、プレゼンテーション等に対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1 「企画運営能力を身につける」
- 2 「幼児体育の技術を身につける」
- 3 「レクリエーション、ニュースポーツの知識と技術を身につける」

評価方法

実習報告(発表(40%)、レポート(30%))及び模擬授業(30%)で評価する。

上記の評価方法により、到達目標の達成度を総合的に評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・市民マラソンへ参加する（参加費自己負担）。
- ・幼稚園・保育園や地域型スポーツクラブでの学外実習を行う。
- ・ジュニアスポーツ指導員もしくは健康運動実践指導者の受験予定者のみ履修できる。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（石田・枝松）
第2回	乳幼児期の運動あそび・ゲーム1（親子のあそび・ゲーム）（石田）
第3回	乳幼児期の運動あそび・ゲーム2（1人でできるあそび・ゲーム）（石田）
第4回	乳幼児期の運動あそび・ゲーム3（グループでのあそび・ゲーム）（石田）
第5回	児童前期の運動あそび・ゲーム1（あそびや運動の種類）（石田）
第6回	児童前期の運動あそび・ゲーム2（幼少年期に必要な動き）（石田）
第7回	児童前期の運動あそび・ゲーム3（運動あそび・ゲーム）（石田）
第8回	児童後期のスポーツスキル1（投げる、捕る）（石田）
第9回	児童後期のスポーツスキル2（蹴る、打つ）（石田）
第10回	児童後期のスポーツスキル3（走る、跳ぶ）（石田）
第11回	児童後期のスポーツスキル4（他の基本スキル）（石田）
第12回	青年前期のスポーツスキル1（球技系）（石田・枝松）
第13回	青年前期のスポーツスキル2（陸上競技、水泳、スキー）（石田・枝松）

回数	内容
第14回	青年前期のスポーツスキル3（武道、ダンス）（石田）
第15回	まとめ（石田・枝松）

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間

- ・指導計画書の作成を行い、十分な予行演習を行うこと。
- ・基礎体力をつけるためにランニング等を習慣的に行うこと（60分/週以上）。

教科書

子どもに関わる新聞、論文の情報を授業で使用します。

参考書

小児保健（南江堂）

備考

シミュレーションⅣ（34307）

前期

Simulation Ⅳ

生命科学部 健康科学科

年次	4 年
対象	23 ～ 19 W,W
単位数	3．0 単位
担当教員	 水野恭志  松村敬則

授業の概要

シミュレーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ及び救命救助法の総合演習を行う。

病院内実習、救急車同乗実習も4年次開講であることから、本講義では学外実習における必要な知識・技術も習得する。

【フィードバック】課題レポート、シナリオトレーニングに対しフィードバックを行う。

【実務経験のある教員による授業科目】元・消防職員（救急救命士）：救急救命士としての実務経験をもとに、救急隊員として必要な知識・技術についての実習を指導する。

到達目標

- 1 各シナリオに対して臨機応変な対応ができるようになる。
- 2 病院内実習、救急車同乗実習に必要な知識を習得できる。

評価方法

・授業時間中に実施するミニテスト 30％（到達目標1～2を評価）、レポート 20％（到達目標2を評価）、定期試験 50％（到達目標1～2を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・3年次までの救急救命士コース必須科目履修が必須であり、救急救命士資格取得を目指す学生を対象とする。
- ・本科目は、救急救命士になるための資格免許科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。
- ・より良い授業環境を確保するため、受講中の態度、遅刻、途中退出等の扱いについて留意点をまとめた「受講上の注意」を明確に示すので遵守すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション、病院内実習と救急車同乗実習についての説明：（水野 松村）
第2回	病院内実習の理解（1）（実習項目の理解）：（水野 松村）
第3回	病院内実習の理解（2）（実習項目の理解）：（水野 松村）
第4回	病院内実習の理解（3）（実習項目の理解）：（水野 松村）
第5回	救急車同乗実習の理解（1）（実習の理解）：（水野 松村）
第6回	救急車同乗実習の理解（2）（実習の理解）：（水野 松村）
第7回	救急車同乗実習の理解（3）（実習の理解）：（水野 松村）
第8回	シナリオトレーニング（1）：（水野 松村）
第9回	シナリオトレーニング（2）：（水野 松村）
第10回	シナリオトレーニング（3）：（水野 松村）
第11回	シナリオトレーニング（4）：（水野 松村）
第12回	シナリオトレーニング（5）：（水野 松村）

回数	内容
第13回	シナリオトレーニング（6）：（水野 松村）
第14回	シナリオトレーニング（7）：（水野 松村）
第15回	シミュレーションⅣ総括：（水野 松村）

授業外学習

- ・シミュレーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ、救命救助法の内容とリンクするところが多数存在するので、復習は確実にしておくこと。
- ・次回の授業内容を確認し、その範囲の専門用語やスキルについて調べて理解しておくこと。
- ・復習として、ミニテスト及びレポートを各2回程度実施する。

教科書

改訂第9版 救急救命士標準テキスト（上巻）：へるす出版（10,584円（税込））ISBN 978-4-89269-869-9

改訂第9版 救急救命士標準テキスト（下巻）：へるす出版（10,584円（税込））ISBN 978-4-89269-870-5

参考書

適宜紹介する

備考

ゼミナール（34605）

通年

Seminar

生命科学部 健康科学科

年次	3 年
対象	24 ～ 19 W,W
単位数	4．0 単位
担当教員	 猪木原孝二

授業の概要

卒業研究へ向けての指導を行う。その中で卒業研究に向けての取り組み方を指導する。研究のテーマは、運動が生体に果たす役割について究明する。各自が考えている健康体と運動の関係、さまざまな健康を取り上げ、生体反応の変化等を実験および調査によって究明していく。

到達目標

各自が考えている健康体と運動の関係、さまざまな健康を取り上げ、生体反応の変化等を実験および調査によって究明し、究明した事項、論文として発表させる事までを教授する。

評価方法

ゼミに取り組む姿勢（20％）及びレポート（80％）で評価する。

注意事項

必ず面接を行います。

授業計画

- 第 1 週 オリエンテーション
- 第 2 週～第 4 週 卒業研究に向けての取り組み方を指導
- 第 4 週～第 1 4 週 データの収集・分析・調査を行う。
- 第 1 5 週 中間のまとめ
- 第 1 6 週～第 2 8 週 文献の収集・整理
- 第 2 9 週 まとめ
- 第 3 0 週 レポート提出

授業外学習

学習時間の目安：合計120時間

授業外学習の具体的な内容や方法については、授業中に詳しく指示する。

教科書

使用しない。

参考書

参考文献は、適宜紹介する。

備考

ゼミナール (34605)

通年

Seminar

生命科学部 健康科学科

年次	3 年
対象	24 ～ 19 W,W
単位数	4. 0 単位
担当教員	 荒木直彦

授業の概要

研究テーマを「スポーツ時の生体反応」、「日常生活における生体反応」、「ゲーム分析」として、4 年次に専攻する研究の基本的な準備を行う。研究に必要な調査・実験によるデータ収集及び処理を中心に展開し、卒業研究の基盤t作りを目的としている。

到達目標

4 年次に専攻する卒業研究の礎を築く。

評価方法

ゼミに取り組む姿勢（30%）、レポート内容（40%）、課題（30%）によって評価する。

注意事項

人間・運動科学の分野に関する知識を基盤として、実験及び調査を実施するので、正規の日時以外でも実施する。また、レポート作成や必要なデータの管理等に P C を使用するので、各自で準備すること。

授業計画

前期

オリエンテーション

機器操作、文献購読

研究内容の検討 1

研究テーマの検討

研究内容の検討 2

研究テーマの選択

研究内容の検討 3

研究テーマの決定

研究計画の検討

研究計画の提出

後期

オリエンテーション

研究調査

研究実験

データ解析

データ整理、考察、文献購読

中間報告

研究レポートの検討

研究レポートの作成

研究レポート提出（1月末平日〆切）

授業外学習

学習時間の目安：120時間

今回の授業内容に関する専門用語や関連事案を調べて理解しておくこと。

復習として課題レポートを 5 回提出する。

課題に対する調査と見解をまとめる。

教科書

使用しない。

参考書

参考文献は、適宜紹介する。

備考

ゼミナール（34605）

通年

Seminar

生命科学部 健康科学科

年次	3 年
対象	24 ～ 19 W,W
単位数	4．0 単位
担当教員	 妹尾護

授業の概要

河川水・地下水・水道水等の水質汚染、河川・ため池の底質および道路脇粉塵の土壌汚染等、私たちの身近な環境問題の中から関心のあるテーマを選び、文献調査やデータ・参考資料の解析方法等を理解するとともに、実際に野外に出て、調査を行う。また、採取した試料について機器分析を行い、その結果をレポートしてまとめる。

到達目標

- 1 水質汚染や土壌汚染についての文献調査、試料のサンプリング方法、機器による分析方法を習得する。
- 2 得られたデータをもとに、解析、考察を行い、レポートとしてまとめる。

評価方法

ゼミナールに取り組む態度・姿勢 3 0 %（到達目標 1 を評価）、レポートおよび発表点 7 0 %（到達目標 1、2 を評価）により成績評価を行う。

注意事項

土曜日、日曜日に野外調査を実施する場合がある。

授業計画

前期

- ・オリエンテーション
- ・文献講読
- ・機器操作
- ・レポートテーマの選択
- ・レポートテーマの決定
- ・計画書の提出

後期

- ・オリエンテーション
- ・調査・実験・解析
- ・データ整理
- ・文献講読、考察
- ・レポートの作成
- ・レポートの発表
- ・レポートの提出

授業外学習

学習時間の目安：合計120時間

前回の授業内容について復習するとともに、配布プリント、参考書等により、次回の授業内容を確認し、その範囲の専門用語の意味等を調べて理解しておくこと。

教科書

配布プリントを使用する。（教科書は使用しない）

参考書

授業中に適宜紹介する。

備考

ゼミナール（34605）

通年

Seminar

生命科学部 健康科学科

年次	3 年
対象	24 ～ 19 W,W
単位数	4．0 単位
担当教員	 内藤 整

授業の概要

当研究室は、健康で快適な人間生活のために植物を有効利用するための研究を行なっている。3 年次のゼミナールでは 4 年次で行う卒業研究の前段階として、植物栽培の体験、学術論文の紹介、討論などを行い、植物利用上の問題点について明らかにする。
【アクティブラーニング】農家の圃場でイネの栽培を体験する。また、研究テーマの決定に際してはグループディスカッションを行う。

到達目標

- 1.実験に用いる植物の栽培ができる。
- 2.実験で使用する機器の操作、植物生長の測定・解析ができる。
- 3.現在までの研究の状況を把握し、4 年次に行う卒業研究のテーマを明確にする。

評価方法

授業態度50%（到達目標1,2を評価）、提出物の内容50%（到達目標2,3を評価）によって評価する。

注意事項

当研究室では研究対象として植物を扱っている。そのため、規定の日時以外にもその管理・育成に努める必要がある。また、植物の栽培を学ぶため、倉敷市内の農地において学外実習を行う。

授業計画

前期には、植物の栽培を行い、植物の生理生態についての理解を深める。また、植物成長の測定などの実験手法、測定機器の取り扱い方法についても学ぶ。
後期には、「植物の栽培方法の改善」、「植物のストレス耐性メカニズム」、「植物資源の有効利用」など研究室で取り組む課題の中から、各自興味のある分野についての情報収集、学術論文の紹介、討論などを通じて自らの研究テーマを明確にする。

授業外学習

学習時間の目安：合計120時間

- ・実験植物の栽培管理。
- ・機器の取り扱いマニュアルを読み、使用方法を理解しておく。
- ・実験レポートの作成。
- ・論文の検索とレジュメの作成

教科書

使用しない。プリントを配布する。

参考書

「植物栄養実験法」博友社、日本作物学会紀事、Plant Production Science、Tropical Agriculture and Development、SAGO PALM 他適宜案内する。

備考

ゼミナール（34605）

通年

Seminar

生命科学部 健康科学科

年次	3 年
対象	24 ～ 19 W,W
単位数	4．0 単位
担当教員	 加藤敬史

授業の概要

野外実習を組み合わせ、地球科学領域の基礎的知識を概説する。野外では、試料の採取や地質現象の観察も行う。採集した試料は実験室での分析を行う。

到達目標

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）の「課題解決力を身につける」に対応して、具体的には以下の2点を目標としている。1）卒業研究の準備として、地球環境の解析を行う基礎的な知識を身につける。2）各種分析機器の測定原理や使用方法を理解し、使用できる。3）試料の分析や標本の観察を行い正確に記録できる。4）科学的な思考や観察した事実に基づいて、科学的な思考法で自然を理解できる。

評価方法

前・後期末に提出するレポート（70％）、ゼミへの積極的参加と態度（30％）の割合で評価する。

注意事項

野外実習では、土曜日などを利用し地質現象の観察や試料の採取を行う。

授業計画

- 1.はじめに：ゼミの進め方と諸注意。学ぶ姿勢等について概説する。
- 2～5.地球環境科学の野外調査に必要な基本的な知識をつける
- 6～9.調査資料の整理法，作図方法について学ぶ
- 10～15.野外実習：春休み，休日等を利用して野外実習を行う
- 16～20.実習試料の整理，分析：採取した試料の分析を行う。関連機器（偏光顕微鏡，実体顕微鏡，電子顕微鏡）の使用について学ぶ
- 21～29.文献検索と論文購読：文献検索の方法について学び，関連文献について輪読を行う
- 30.まとめ，レポート作成

授業外学習

学習時間の目安：合計120時間

次週の概要をゼミで連絡するので、提示された資料を確認し、当日のまとめと合わせて4時間程度の予習復習を行っておくこと。

教科書

なし（参考資料・文献等を適宜提示する）

参考書

参考資料・文献等を適宜提示する

備考

ゼミナール（34605）

通年

Seminar

生命科学部 健康科学科

年次	3 年
対象	24 ～ 19 W,W
単位数	4．0 単位
担当教員	 矢田貝智恵子

授業の概要

食・栄養・健康に関する基礎的知識・技術を学び、興味のあるテーマを見つけ、卒業研究につなげることを目的としている。具体的には、環境やスポーツが人の健康に及ぼす影響を科学的に研究し、諸問題を自ら解決でき、スポーツ分野における競技者や指導者、子供から高齢者までのあらゆる年齢の方々の健康生活のサポートを行う人材の養成を目標としている。

ゼミナールでは、体組成分析装置や超音波骨密度測定機などを用いて、継続的・客観的に自己の栄養状態等を評価し、生活習慣を振り返ることで、課題を見出し、その課題を解決する力を身につける。また、レポート作成を通し、文献等資料の検索、調査・実験等研究方法を習得し、論文を書くための力を身につける。

さらに、卒業研究に向け、「人を対象とする研究倫理」等についての研修会、卒業研究発表会への参加を通して、研究倫理を学び、卒業研究がどのようなものかを把握し、食・栄養・健康に関して興味のあるテーマを設定する。

また、体力測定などに積極的に参加し、機器操作、結果評価コミュニケーションスキルを高めることも重要である。

到達目標

- 1 体組成分析装置などの各種機器の取り扱い方法を習得し、利用できる。
- 2 継続的・客観的に自己の栄養状態等を評価し、生活習慣を振り返ることで、課題を見出し、課題解決力を身につける。
- 3 レポート作成を通し、文献等資料の検索、調査・実験等研究方法を習得し、論文を書くための力を身につける。
- 4 卒業研究に向け、研修会、卒業研究発表会に参加し、卒業研究がどのようなものかを把握する。
- 5 食・栄養・健康に関して興味のあるテーマを設定する。
- 6 体力測定など、学科主催の行事に積極的に参加することができる。

評価方法

ゼミに取り組む姿勢・態度60％（到達目標1～6）、レポート40％（到達目標1～3）に基づいて総合的に評価する。

注意事項

- ・研究対象によっては、規定の日時にこだわらず行う。
- ・真面目に取り組むことが必須条件である。

授業計画

前期

- ・オリエンテーション
- ・機器操作
- ・研究テーマの選択・決定
- ・研究計画書の作成・提出
- ・研究および文献講読
- ・「人を対象とする研究倫理」等についての研修会受講

後期

- ・オリエンテーション
- ・研究および文献講読
- ・データ整理および解析
- ・レポート作成・提出

授業外学習

学習時間の目安：合計120時間

研究テーマによっては、規定の日時にこだわらず行うため、授業外にもデータ収集および整理を行う。

また、関連する情報を得るため、学内外の図書館などを利用し、文献収集を行う。

教科書

適宜紹介する。

参考書

適宜紹介・配布する。

備考

ゼミナール（34605）

通年

Seminar

生命科学部 健康科学科

年次	3 年
対象	24 ～ 19 W,W
単位数	4．0 単位
担当教員	 松村敬則

授業の概要

- ・医療職としての救急救命士が必要とする知識やスキルに着眼しテーマを決定、追求する。
- ・テーマについては、前期・後期各 1 つとし、それぞれにレポートを作成しゼミナール内においてプレゼンテーションを行う。
- ・4 年次の卒業研究に対しての基本的準備という捉え方であり、研究に必要な調査・実験等によるデータ収集及び処理を中心に展開、ベースを作る。

到達目標

- ・救急救命士として、また医療人として必要な知識について、調査・実験等行うことにより理解を深める。

評価方法

- ・ゼミナールに取り組む姿勢（態度、知識を評価する。特に遅刻、早退は厳しく点数に反映する。）を 4 0 %、レポート提出を 6 0 %とし、総合的に評価する。

注意事項

- ・特記なし。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	具体的なテーマ検討（前期）（1）
第3回	具体的なテーマ検討（前期）（2）
第4回	研究テーマ決定（前期）
第5回	実験・調査・データ整理、レポート作成（前期）（1）
第6回	実験・調査・データ整理、レポート作成（前期）（2）
第7回	実験・調査・データ整理、レポート作成（前期）（3）
第8回	実験・調査・データ整理、レポート作成（前期）（4）
第9回	実験・調査・データ整理、レポート作成（前期）（5）
第10回	実験・調査・データ整理、レポート作成（前期）（6）
第11回	実験・調査・データ整理、レポート作成（前期）（7）
第12回	実験・調査・データ整理、レポート作成（前期）（8）
第13回	発表・討論（前期）（1）
第14回	発表・討論（前期）（2）
第15回	発表・討論（前期）（3）
第16回	具体的なテーマ検討（後期）（1）
第17回	具体的なテーマ検討（後期）（2）

回数	内容
第18回	研究テーマ決定（後期）
第19回	実験・調査・データ整理、レポート作成（後期）（1）
第20回	実験・調査・データ整理、レポート作成（後期）（2）
第21回	実験・調査・データ整理、レポート作成（後期）（3）
第22回	実験・調査・データ整理、レポート作成（後期）（4）
第23回	実験・調査・データ整理、レポート作成（後期）（5）
第24回	実験・調査・データ整理、レポート作成（後期）（6）
第25回	実験・調査・データ整理、レポート作成（後期）（7）
第26回	実験・調査・データ整理、レポート作成（後期）（8）
第27回	発表・討論（後期）（1）
第28回	発表・討論（後期）（2）
第29回	発表・討論（後期）（3）
第30回	総括

授業外学習

学習時間の目安：合計 1 2 0 時間

・必要な情報については、授業中に指示するが、事前にも調査しておくこと。

教科書

適宜指示する。

参考書

適宜指示する。

備考

ゼミナール（34605）

通年

Seminar

生命科学部 健康科学科

年次	3 年
対象	24 ～ 19 W,W
単位数	4． 0 単位
担当教員	👤 枝松千尋

授業の概要

当研究室では、歩く・階段昇降・しゃがむといった日常の動作や、走・投・跳・打などのスポーツパフォーマンスに関する動作を、バイオメカニクスの実験・解析をする。3 年次は卒業研究の準備として、機器操作や文献講読を行うことで、実験・解析方法や研究テーマへの理解を深める。

到達目標

- 1 「論文講読によって、スポーツバイオメカニクスの実験方法・解析方法を理解する」
- 2 「実験の機器操作を身につける」

評価方法

ゼミに取り組む姿勢（５０％）およびレポート（５０％）で評価する。
上記の評価方法により、到達目標の達成度を総合的に評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・週２日（１０時～１６時）以上は研究室にて学習・研究活動をする事。
- ・ゼミ活動へ積極的に参加すること。
- ・学外の学会への参加をすること。

授業計画

第 1 週

- ◆オリエンテーション

第 2 週～1 4 週

- ◆機器操作、文献購読、研究テーマの選択

第 1 5 週

- ◆研究テーマの決定・研究計画の提出

第 1 6 週～2 8 週

- ◆実験・解析、データの整理・考察、文献講読

第 2 9 週

- ◆レポート作成・提出

第 3 0 週

- ◆レポート発表

授業外学習

学習時間の目安：合計120時間

- ・論文検索を行い、最新の研究論文を読むことで研究テーマへの理解を深めること。
- ・卒業研究の実験を手伝うことで実験方法・解析方法を習得すること。

教科書

無

参考書

資料配布

備考

ゼミナール（34605）

通年

Seminar

生命科学部 健康科学科

年次	3 年
対象	24 ～ 19 W,W
単位数	4．0 単位
担当教員	 吉田悦男

授業の概要

人体の構造と機能、病理学等の基礎医学の理解および救急疾患の病態生理について学び、実際の症例を題材に症候の発症機序、病態生理、理論的対処法について検討する。

到達目標

基本的な人体の構造と機能に関して他者に説明できる。症例から理論的に診断、治療法を挙げることができる。

評価方法

ゼミに取り組む姿勢（5 0％）及びレポート（5 0％）により総合的に評価する。

注意事項

自分で資料を探し出す能力を高めてもらいたい。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	基礎医学の理解 1（体液血液）
第3回	基礎医学の理解 2（呼吸循環系）
第4回	基礎医学の理解 3（代謝内分泌系）
第5回	基礎医学の理解 4（神経系）
第6回	血液疾患の病態生理の理解
第7回	呼吸器疾患の病態生理の理解
第8回	循環器疾患の病態生理の理解
第9回	消化器疾患の病態生理の理解
第10回	泌尿器疾患の病態生理の理解
第11回	代謝疾患の病態生理の理解
第12回	内分泌疾患の病態生理の理解
第13回	中枢神経疾患の病態生理の理解
第14回	末梢神経疾患の病態生理の理解
第15回	免疫系疾患の病態生理の理解
第16回	症例検討会 呼吸不全
第17回	症例検討会 心不全
第18回	症例検討会 ショック
第19回	症例検討会 重症脳障害

回数	内容
第20回	症例検討会 心肺停止
第21回	症例検討会 意識障害
第22回	症例検討会 失神
第23回	症例検討会 胸痛
第24回	症例検討会 腹痛
第25回	症例検討会 吐血下血
第26回	症例検討会 腰背部痛
第27回	症例検討会 環境障害
第28回	症例検討会 外傷
第29回	症例検討会 中毒
第30回	レポート提出

授業外学習

毎回討論のための予備学習をしておくこと。

学習時間の目安：合計120時間

教科書

使用しない。

参考書

参考文献は、適宜紹介する。

備考

ゼミナール（34605）

通年

Seminar

生命科学部 健康科学科

年次	3 年
対象	24 ～ 19 W,W
単位数	4．0 単位
担当教員	 水野恭志

授業の概要

医療は日進月歩である。救急救命士も一医療人として位置づけられている。本ゼミナールでは、医療全般に眼を向け、その中でも救急救命士が必要とする医療に着眼し、それぞれがテーマを決め、追及していく。

テーマは前期・後期の2つとし、それぞれにレポートを作成し、ゼミナール内でプレゼンテーションを行う。

4年次の卒業研究に対しての基本的準備という捉え方である。研究に必要な調査・実験によるデータ収集及び処理を中心に展開し、ベースを作り上げる。

到達目標

一医療人として必要な知識を調査・実験等を行うことにより理解が深まる。

評価方法

ゼミナールに取り組む姿勢・態度(40%)、レポート(60%)により総合的に評価する。

注意事項

特記無し

授業計画

オリエンテーション

具体的なテーマを検討する(1)（前期）

具体的なテーマを検討する(2)（前期）

研究テーマ決定

実験・調査・データ整理、レポート作成(1)

実験・調査・データ整理、レポート作成(2)

実験・調査・データ整理、レポート作成(3)

実験・調査・データ整理、レポート作成(4)

実験・調査・データ整理、レポート作成(5)

実験・調査・データ整理、レポート作成(6)

実験・調査・データ整理、レポート作成(7)

実験・調査・データ整理、レポート作成(8)

発表・討論(1)

発表・討論(2)

発表・討論(3)

具体的なテーマを検討する(1)（前期）

具体的なテーマを検討する(2)（前期）

研究テーマ決定

実験・調査・データ整理、レポート作成(1)

実験・調査・データ整理、レポート作成(2)

実験・調査・データ整理、レポート作成(3)

実験・調査・データ整理、レポート作成(4)

実験・調査・データ整理、レポート作成(5)

実験・調査・データ整理、レポート作成(6)

実験・調査・データ整理、レポート作成(7)

実験・調査・データ整理、レポート作成(8)

実験・調査・データ整理、レポート作成(9)

発表・討論(1)
発表・討論(2)
発表・討論(3)

授業外学習

学習時間の目安：合計 1 2 0 時間
授業の概要にも記載したとおり、それぞれが決めたテーマに必要な情報などを事前に調査しておくこと。

教科書

適宜紹介する。

参考書

適宜紹介する。

備考

ゼミナール（34605）

通年

Seminar

生命科学部 健康科学科

年次	3 年
対象	24 ～ 19 W,W
単位数	4．0 単位
担当教員	 椎葉大輔

授業の概要

当研究室では、運動などのストレスが生体に与える影響について、免疫学的観点から検討している。ゼミナールでは研究テーマに基づいて、分子生物学的手法を用いた実験を行い、卒業研究の基礎となる中間報告（レポート）としてまとめることを目標とする。【アクティブラーニング】生理学および分子生物学的手法を用いて、研究対象を分析を学生が主体的に実施する。【フィードバック】実験により得られた結果と先行研究との差異について解説する。

到達目標

- 1 「生理学および分子生物学の基本手法を実施できる」
- 2 「実験を通じて観察した現象について、論理的に説明できる」

評価方法

取り組む姿勢（8 0％）およびレポート（5 0％）により総合的に評価する。

注意事項

生体試料を対象とすることから、規定時間外の実験が行われることがある。

授業計画

<前期>

- ・オリエンテーション
- ・動物実験倫理に関する講義
- ・研究テーマの決定
- ・研究計画立案
- ・実験
- ・論文抄読会
- ・進捗状況報告会

<後期>

- ・オリエンテーション
- ・実験
- ・論文抄読会
- ・進捗状況報告会
- ・レポート作成
- ・プレゼンテーション

授業外学習

学習時間の目安：合計120時間

他大学などの研究施設で実験を行うことがある。

教科書

使用しない。

参考書

必要に応じて指示する。

ゼミナール（34605）

通年

Seminar

生命科学部 健康科学科

年次	3 年
対象	24 ～ 19 W,W
単位数	4．0 単位
担当教員	 大川元久

授業の概要

現在、救急救命士も一医療人として位置づけられている。メディカル・コントロールにおいては、医師とともに事例発表や討論・質疑応答を行う。そこで、前期には問題解決方法の学習PBLを行い、研究の基本を理解する。特に公務員試験の数的処理や文章読解のような問題ができる基本学習能力を要請する。

後期には、卒業研究の基本的準備とし、研究に必要な調査・実験によるデータ収集及び処理を中心に展開する。国家試験に必要な基礎医学を基礎に重点的に学び各種試験に対応できる知識を身に着ける。

到達目標

救急医療システムや救急活動の現場などの1つのテーマに取り組み、問題解決の方法や調査・研究の実施方法を習得する。

- 1．問題基盤型学習(PBL：Problem-based learning)の理解。
- 2．研究に関する資料を収集・調査し、研究計画を立てる。
- 3．問題点を把握し、それを解決する方法を見つけられる。
- 4．医学的知識を基盤とした研究の成果を発表する。

と目標設定し、自ら問題意識をもち設定した課題を専門的なルールに則って解決する能力の基礎を身につけ、研究発表の形式で、そのプレゼンテーション法を習得する。

評価方法

ゼミナールに取り組む姿勢（態度、知識を評価する、特に出席、遅刻、早退は厳しく点数に反映する）60%、およびレポート40%で評価する。

注意事項

救急医療の根幹はチーム医療である。したがって学生であってもゼミ生としてそのチームの一員として態度・行動をとることが最も重要である。

授業計画

第 1 週	オリエンテーション
第 2 週～第 4 週	PBLチュートリアルの実施、研究テーマ決定
第 5 週～第 12 週	実験・調査・データ整理、レポート作成
第 13 週～第 15 週	発表・討論
第 16 週～第 17 週	具体的なテーマを検討する（後期）
第 18 週	研究テーマ決定
第 19 週～第 27 週	実験・調査・データ整理、レポート作成
第 28 週～第 30 週	発表・討論

授業外学習

学習時間の目安：合計120時間

授業外学習の具体的な内容や方法については、授業中に詳しく指示する。特にヘリコプター関連の研修や外傷コース、各種研究会・学会に参加する（費用がかかる事あり）。

教科書

講義中に紹介する。

参考書

講義中に紹介する。

備考

ゼミナール（34605）

通年

Seminar

生命科学部 健康科学科

年次	3 年
対象	24 ～ 19 W,W
単位数	4．0 単位
担当教員	 山野力

授業の概要

本講では、学内のクラブと連携をとりながらアスレティックトレーナーとしての活動を行い、スポーツ傷害への対応と予防、コンディショニング等を実践する。3 年次は卒業研究の準備として、文献講読を行うことにより、実際のスポーツ現場で起こりやすい傷害や、種目特性による受傷頻度の高い傷害の症例を理解し、自身の研究テーマへとつなげる。

到達目標

アスレティックトレーナーとして、専門知識の理解及びスキルアップを目的としながら、実際の現場で活動できるようになる。

評価方法

・ゼミに取り組む姿勢（５０％）およびレポート（５０％）で評価する。

注意事項

現場実習では、選手やチームの重要な情報を扱うことになる。個人情報、チーム情報の保護をしっかりとし、いかなる理由があっても情報を漏えいしない確約をすること。

授業計画

オリエンテーション

文献購読、研究テーマの選択

文献購読、研究テーマの選択

文献購読、研究テーマの選択

文献購読、研究テーマの選択

文献購読、研究テーマの選択

文献購読、研究テーマの選択

文献購読、研究テーマの選択

文献購読、研究テーマの選択

現場実習、文献購読、研究テーマの選択

現場実習、文献購読、研究テーマの選択

現場実習、文献購読、研究テーマの選択

現場実習、文献購読、研究テーマの選択

現場実習、文献購読、研究テーマの選択

研究テーマの決定・研究計画の提出

現場実習、研究テーマの整理・考察、文献講読

現場実習、研究テーマの整理・考察、文献講読

現場実習、研究テーマの整理・考察、文献講読

現場実習、研究テーマの整理・考察、文献講読

現場実習、研究テーマの整理・考察、文献講読

現場実習、研究テーマの整理・考察、文献講読

現場実習、研究テーマの整理・考察、文献講読

現場実習、研究テーマの整理・考察、文献講読

現場実習、研究テーマの整理・考察、文献講読

現場実習、研究テーマの整理・考察、文献講読

現場実習、研究テーマの整理・考察、文献講読

現場実習、研究テーマの整理・考察、文献講読

レポート作成

レポート作成・提出

レポート発表

授業外学習

学習時間の目安：合計120時間

学内及び学外での現場実習を行いつつ、研究論文を読み、自身の研究テーマの絞込みを行う。

教科書

使用しない。

参考書

適宜紹介する。

備考

卒業研究 (34609)

通年

Undergraduate Research

生命科学部 健康科学科

年次	4 年
対象	23 ～ 19 W,W
単位数	6．0 単位
担当教員	 猪木原孝二

授業の概要

研究のテーマは、運動と生体反応の関係からこれからの健康体の育成について考える。

健康体を維持・増進していく上での運動と生体反応の関係を深く究明し、運動時の生体反応の変化等を実験および調査によって分析する。

到達目標

各自が考えている健康体と運動の関係、さまざまな健康を取り上げ、生体反応の変化等を実験および調査によって究明し、究明した事項を論文として発表させる事までを教授する。

評価方法

論文作成（70%）およびゼミ活動（30%）で評価する。

注意事項

特になし

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.データの収集・分析・調査を行う。
- 3.データの収集・分析・調査を行う。
- 4.データの収集・分析・調査を行う。
- 5.データの収集・分析・調査を行う。
- 6.データの収集・分析・調査を行う。
- 7.データの収集・分析・調査を行う。
- 8.データの収集・分析・調査を行う。
- 9.データの収集・分析・調査を行う。
- 10.データの収集・分析・調査を行う。
- 11.データの収集・分析・調査を行う。
- 12.データの収集・分析・調査を行う。
- 13.データの収集・分析・調査を行う。
- 14.データの収集・分析・調査を行う。
- 15.中間のまとめ
- 16.文献の収集・整理
- 17.文献の収集・整理
- 18.文献の収集・整理
- 19.執筆指導
- 20.執筆指導
- 21.執筆指導
- 22.執筆指導
- 23.執筆指導
- 24.執筆指導
- 25.執筆指導
- 26.執筆指導
- 27.執筆指導
- 28.執筆指導
- 29.まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計90時間

授業外学習の具体的な内容や方法については、授業中に詳しく指示する。

教科書

使用しない。

参考書

参考文献は、適宜紹介する。

備考

卒業研究（34609）

通年

Undergraduate Research

生命科学部 健康科学科

年次	4 年
対象	23 ～ 19 W,W
単位数	6．0 単位
担当教員	 荒木直彦

授業の概要

3 年次ゼミからの研究内容を卒業研究としてまとめる。2 年次もしくは3 年次から進めてきた「健康科学」、「運動科学」の研究を卒業論文として完成させることを目的としている。

到達目標

卒業論文を完成する。

評価方法

作成論文の内容に対する作業状況およびゼミにて実施する討論会・発表会によって評価する。

注意事項

実験・調査によるデータ処理や文献の検索等に膨大な時間を要することが予測されるので、ゼミ開講時間に限らず、担当教員と研究の進行状況を確認すること。

授業計画

前期

オリエンテーション

機器操作、文献購読

研究テーマの検討

研究テーマの選択

研究テーマの決定

研究計画の検討

研究計画の提出

後期

オリエンテーション

卒業研究調査

卒業研究実験

データ解析

データ整理、考察、文献購読

卒業論文の作成

卒業論文提出（1月末平日㍻切）

卒業論文発表会（2月中旬予定）

授業外学習

学習時間の目安：90時間

今回の授業内容に関する専門用語や関連事案を調べて理解しておくこと。

復習として課題レポートを5回提出する。

課題に対する調査と見解をまとめる。

教科書

研究テーマに応じて適宜案内する。

参考書

動生理学分野等、適宜支持する。

備考

卒業研究（34609）

通年

Undergraduate Research

生命科学部 健康科学科

年次	4 年
対象	23 ～ 19 W,W
単位数	6．0 単位
担当教員	 妹尾護

授業の概要

私たちの身近な地球環境問題について、関心のあるテーマに焦点を絞り、卒業研究の進展に向けて研究を行う。具体的には、参考文献の調査、試料の採取、機器による定性・定量分析、分析データの解析および考察を行い、最終的にそれをまとめて卒業論文を作成する。

到達目標

- 1 卒業研究のテーマについての文献調査を行い、問題点を指摘できる。
- 2 分析試料の採取、機器による分析方法を理解し、説明できる。
- 3 得られたデータの解析・考察を通して、自然科学分野の論文を作成することができる。

評価方法

試料採取、機器分析等の卒業研究に取り組む態度・姿勢 3 0 %（到達目標 1、2 を評価）、中間発表および提出論文 7 0 %（到達目標 1、2、3 を評価）により成績評価を行う。

注意事項

各自が研究の進展に応じて中間発表を行う。土曜日、日曜日に野外調査を行う場合がある。

授業計画

前期

- ・オリエンテーション
- ・文献講読
- ・機器操作
- ・研究テーマの選択
- ・研究テーマの決定
- ・研究計画書の提出

後期

- ・オリエンテーション
- ・調査・実験・解析
- ・データ整理
- ・文献講読、考察
- ・卒業論文作成
- ・卒業論文提出（1月末）
- ・卒業論文発表会（2月中旬）

授業外学習

学習時間の目安：合計 9 0 時間

前回の授業内容について復習するとともに、配布プリント、参考資料等により、次回の授業内容を確認する。

教科書

配布プリントを使用する。（教科書は使用しない）

参考書

授業中に適宜紹介する。

備考

卒業研究（34609）

通年

Undergraduate Research

生命科学部 健康科学科

年次	4 年
対象	23 ～ 19 W,W
単位数	6．0 単位
担当教員	 内藤整

授業の概要

豊かで健康な人間生活のために必要な食料や生活資材となる作物の安定した生産を可能にするための研究を行う。植物の生理・生態やそれに関連する形態的特徴の解明、栽培法の構築を目的として各自が取り上げたテーマについて研究を行う。
【アクティブラーニング】研究成果については学科で行う卒業論文発表会でプレゼンテーションを行う。

到達目標

- 1.自ら設定した課題に答えを出し、新たな知を創出できる。
- 2.得られた新しい知見を分かりやすく説明できる。

評価方法

卒業研究論文の内容70%（到達目標1を評価）、研究態度10%（到達目標1を評価）、卒論要旨ならびにプレゼンテーションの内容20%（到達目標2を評価）によって評価する。

注意事項

- ・研究に使用する器具・薬品には危険なものもある。真剣な態度で取り組むこと。
- ・実験には生物（植物）を用いるので、日々の管理が必要である。
- ・研究の内容によっては、市内の農地を実験場所とする場合がある。
- ・栽培学、栽培学実習を履修しておくことが望ましい。

授業計画

前期

- ・オリエンテーション
- ・機器操作、文献講読
- ・研究テーマの選択（以下に示す5つの研究内容から）
 1. 植物の物質生産機能（光合成、呼吸、蒸散）に関する研究
 2. 環境ストレス条件下での植物の生理機能の解析
 3. ストレス耐性に関わる形態的特徴の解明
 4. 生産性を高める栽培法の確立
 5. その他、植物の利用に関する研究。
- ・研究テーマの決定
- ・研究計画の提出
- ・実験準備
- ・調査・実験・解析

後期

- ・オリエンテーション
- ・調査・実験・解析
- ・データ整理、考察、文献講読
- ・卒業論文作成
- ・卒業論文提出（1月末の平日㍻切）
- ・卒業論文発表会（2月中旬）

授業外学習

学習時間の目安：合計90時間

文献の調査、実験植物の栽培管理、分かりやすい発表のための練習など。

教科書

使用しない。

参考書

日本作物学会紀事、Plant Production Science、Tropical Agriculture and Development、SAGO PALM 他適宜案内する。

備考

卒業研究（34609）

通年

Undergraduate Research

生命科学部 健康科学科

年次	4 年
対象	23 ～ 19 W,W
単位数	6．0 単位
担当教員	 加藤敬史

授業の概要

私たちを取り巻く自然環境の成り立ちを調べる。具体的なテーマとしては、１）動物の骨や歯の組織を調べて、環境や生態や進化について研究します：南西諸島の化石動物の歯や骨の組織を調べ、どのような生活をしていたか、どのような進化を遂げたのかを研究します。春休みなどを利用して、沖縄県や鹿児島県の離島に渡って絶滅した動物の化石を採集します。５～７日程度の野外調査を予定しています。２）身近な自然環境を活用した子供の野外体験の企画：鍾乳洞や渓谷を歩きながら、楽しく自然体験ができるコースを開発します。フィールドは高梁市成羽町の渓谷です。自然観察のみどころを選定して、渓谷のガイドマップを作成します。このガイドマップは自然観察の手引きとして小学校から高校までの理科教育や自然体験教育に活用してもらいます。春休み、夏休みなどを利用して現地調査をおこないます。

到達目標

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）の「課題解決力を身につける」に対応して、それぞれの研究テーマに対する新たな知見から自然の多様な姿を理解するための能力を身につける。

評価方法

年度末に提出する卒業研究論文の内容（７０％）、研究への積極的参加と態度（実験・実習中の作業などの迅速で効率的な実施への協力、グループ内での役割を果たす、研究に対する創意工夫など。）（３０％）の割合で評価する。

注意事項

土曜日、夏休みなどを利用して野外で地質現象の観察や試料の採取を行う。（最長で４泊程度）

授業計画

- 1) 研究テーマの紹介と説明
- 2) 文献調査・講読
- 3) 野外調査
- 4) 試料、標本の処理
- 5) 試料の解析、標本の記載
- 6) 研究のまとめ
- 7) 論文の提出と発表

授業外学習

学習時間の目安：合計90時間

おのおのの研究目的に関連した文献調査を事前に行いゼミで紹介すること。

教科書

なし（参考資料・文献等を適宜提示する）

参考書

参考資料・文献等を適宜提示する

備考

年次	4 年
対象	23 ～ 19 W,W
単位数	6．0 単位
担当教員	 矢田貝智恵子

授業の概要

ゼミナールで修得したスキルや知識を踏まえ、専門的知識の深化発展をはかり、その成果を卒業論文にまとめ、発表することを目的としている。具体的には、食・栄養・健康分野において、卒論テーマを教員と協議して決める。次いで、研究倫理を理解し、実験・調査方法等を修得、文献調査を行ないつつ、研究テーマについて自主的・計画的に研究（調査・実験）を実施する。得られたデータについて解析し、問題が生じたときは自ら解決し、考察する。これらの研究成果をまとめて卒業論文を作成し、卒業論文発表会で発表する。

到達目標

- 1 実験機器の操作方法を理解し、利用できる。
- 2 研究計画を立案し、自主的・計画的に研究を進めることができる。
- 3 研究倫理を理解し、実験・調査方法等を修得、適確な文献調査をすることができる。
- 4 研究データを解析し、問題が生じたときは解決できる力を身につける。
- 5 研究成果をまとめ、卒業論文を作成できる。
- 6 研究した内容を適切に発表することができる。

評価方法

研究に取り組む姿勢・態度50%（到達目標1～4）、卒業論文40%（到達目標5）、口頭発表10%（到達目標6）に基づき総合的に評価する。

注意事項

- ・研究テーマによっては、学外での実施や規定の日時にこだわらず行うことがある。
- ・自主的・継続的に調査・実験、分析を進めること。

授業計画

前期

- ・オリエンテーション（4月）
- ・研究テーマの確認
- ・研究計画書作成・提出
- ・研究および文献講読
- ・「人を対象とする研究倫理」等についての研修会受講

後期

- ・オリエンテーション（9月）
- ・研究計画の確認
- ・研究および文献講読
- ・データ整理、考察、文献講読
- ・査読用卒業論文作成
- ・査読用卒業論文提出（12月第3金曜日〆切）
- ・卒業論文（要旨）作成および発表用資料作成
- ・卒業論文（要旨）提出（1月末の平日〆切）
- ・卒業論文発表会（2月中旬）

授業外学習

学習時間の目安：合計90時間

関連する情報を得るため、学内外の図書館なども利用し、文献収集を行うなど、研究テーマへの理解を深め、卒業論文作成に取り組む。

教科書

適宜紹介する。

参考書

適宜紹介・配布する。

備考

卒業研究（34609）

通年

Undergraduate Research

生命科学部 健康科学科

年次	4 年
対象	23 ～ 19 W,W
単位数	6．0 単位
担当教員	 松村敬則

授業の概要

3 年次のゼミナール内容をもとに、さらに深く救急関連について追求し、卒業研究を作成する。
研究に必要な調査、データ収集及び処理を中心に展開し、最終的にまとめ、卒業研究を作成する。

到達目標

救急医療システムなど、救急に関するもの 1 つのテーマに取り組み、問題解決の方法や調査・研究の実施方法を習得する。

評価方法

・卒業研究に取り組む姿勢（態度、知識を評価する。遅刻、早退は厳しく点数に反映する。）を 4 0 %、レポート提出とプレゼンテーションを 6 0 %で評価する。

注意事項

・特記なし。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	卒業研究の具体的なテーマ検討（1）
第3回	卒業研究の具体的なテーマ検討（2）
第4回	卒業研究の具体的なテーマ検討（3）
第5回	研究テーマの決定
第6回	調査、研究、データ整理、レポート作成（1）
第7回	調査、研究、データ整理、レポート作成（2）
第8回	調査、研究、データ整理、レポート作成（3）
第9回	調査、研究、データ整理、レポート作成（4）
第10回	調査、研究、データ整理、レポート作成（5）
第11回	調査、研究、データ整理、レポート作成（6）
第12回	調査、研究、データ整理、レポート作成（7）
第13回	調査、研究、データ整理、レポート作成（8）
第14回	調査、研究、データ整理、レポート作成（9）
第15回	調査、研究、データ整理、レポート作成（1 0）
第16回	調査、研究、データ整理、レポート作成（1 1）
第17回	調査、研究、データ整理、レポート作成（1 2）
第18回	調査、研究、データ整理、レポート作成（1 3）

回数	内容
第19回	調査、研究、データ整理、レポート作成（１４）
第20回	調査、研究、データ整理、レポート作成（１５）
第21回	調査、研究、データ整理、レポート作成（１６）
第22回	調査、研究、データ整理、レポート作成（１７）
第23回	調査、研究、データ整理、レポート作成（１８）
第24回	調査、研究、データ整理、レポート作成（１９）
第25回	調査、研究、データ整理、レポート作成（２０）
第26回	発表・討論（１）
第27回	発表・討論（２）
第28回	発表・討論（３）
第29回	まとめ、研究提出
第30回	総括

授業外学習

学習時間の目安：合計90時間

詳細については、授業中に指示する。

各種研究会・学会に参加すること。（費用については、自己負担）

教科書

適宜紹介する。

参考書

適宜紹介する。

備考

卒業研究（34609）

通年

Undergraduate Research

生命科学部 健康科学科

年次	4 年
対象	23 ～ 19 W,W
単位数	6．0 単位
担当教員	 枝松千尋

授業の概要

スポーツのパフォーマンス向上に係わる動作や高齢者の日常生活動作を研究テーマとし、バイオメカニクスの実験・解析を行う。3 年ゼミで得た知識を踏まえて、各自が興味を持てるテーマを取り上げて研究を行う。最終的にそれらをまとめて卒業論文を作成する。

到達目標

- 1 「卒業論文を作成する」
- 2 「学外の学会で研究発表を行う」

評価方法

ゼミに取り組む姿勢（2 0 %）（到達目標 1，2）及び論文（8 0 %）（到達目標 1）で評価する。
上記の評価方法により、到達目標の達成度を総合的に評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・週2 日（1 0 時～1 6 時）以上は研究室にて学習・研究活動をする事。
- ・学外の学会で研究発表を行うこと。
- ・土日や夏休みなどに実験を行うこともある。実験は大人数が必要となることが多いので基本的に全員で行う。
- ・ゼミ活動へ積極的に参加すること。

授業計画

第 1 週～第 8 週

- ・テーマの仮決定
- ・文献調査
- ・予備実験の実施・データ解析・考察
- ・中間発表・問題点の整理・目的の明確化

第 9 週～第 2 4 週

- ・テーマの決定
- ・本実験の実施・データ解析・考察
- ・文献調査
- ・中間発表・問題点の整理

第 2 5 週～第 3 0 週

- ・追加実験・データ解析
- ・文献調査
- ・卒業論文作成・提出

授業外学習

学習時間の目安：合計90時間

論文検索を行い、最新の研究論文を読むことで研究テーマへの理解を深めること。

教科書

無

参考書

資料配布

卒業研究（34609）

通年

Undergraduate Research

生命科学部 健康科学科

年次	4 年
対象	23 ～ 19 W,W
単位数	6．0 単位
担当教員	 吉田悦男

授業の概要

3 年次のゼミナールを継続し、内容を深め調査研究を行い卒業論文を作成する。

到達目標

科学的研究の基本、論文の構成法を説明できる。

評価方法

研究に取り組む姿勢（5 0 %）論文（5 0 %）で評価する。

注意事項

自ら資料を探し出す能力も高めてもらいたい。

授業計画

まず、自分の興味ある分野から研究テーマを複数挙げる。十分に時間をかけて、それぞれに近い先行研究を調べ新しいテーマであることを確認する。確認できれば、研究テーマとして決定し、研究計画表を作成する。ここまでに教員とのディスカッションを繰り返して行う。決定後は関連論文をすべて読み理解し現状を把握しておく。計画に沿って実験研究を行い、データを取り、考察をする。考察は他グループとともに集団討論をする。まとまったら論文を作成し、また発表スライドを作成する。最後に学科卒論発表会で批評をしていただく。

授業外学習

学習時間の目安：合計90時間

授業以外に文献検索などの自己学習を積極的にすすめること。

教科書

使用しない。

参考書

参考文献は、適宜紹介する。

備考

卒業研究（34609）

通年

Undergraduate Research

生命科学部 健康科学科

年次	4 年
対象	23 ～ 19 W,W
単位数	6．0 単位
担当教員	 水野恭志

授業の概要

3 年次のゼミナールの内容を基に、さらに深く追求し、卒業研究を作成する。研究に必要な調査、データ収集及び処理を中心に展開し、最終的にまとめ、卒業研究を作成する。

到達目標

研究が理解できる。プレゼンテーション能力が向上する。

評価方法

卒業研究に取り組む姿勢・態度(40%)、卒業研究内容(60%)により総合的に評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

特記無し

授業計画

オリエンテーション

卒業研究の具体的なテーマを検討する

卒業研究の具体的なテーマを検討する

研究テーマ決定

実験・調査・データ整理、レポート作成.1

実験・調査・データ整理、レポート作成.2

実験・調査・データ整理、レポート作成.3

実験・調査・データ整理、レポート作成.4

実験・調査・データ整理、レポート作成.5

実験・調査・データ整理、レポート作成.6

実験・調査・データ整理、レポート作成.7

実験・調査・データ整理、レポート作成.8

実験・調査・データ整理、レポート作成.9

実験・調査・データ整理、レポート作成.10

実験・調査・データ整理、レポート作成.11

実験・調査・データ整理、レポート作成.12

実験・調査・データ整理、レポート作成.13

実験・調査・データ整理、レポート作成.14

実験・調査・データ整理、レポート作成.15

実験・調査・データ整理、レポート作成.16

実験・調査・データ整理、レポート作成.17

実験・調査・データ整理、レポート作成.18

実験・調査・データ整理、レポート作成.19

実験・調査・データ整理、レポート作成.20

実験・調査・データ整理、レポート作成.21

実験・調査・データ整理、レポート作成.22

実験・調査・データ整理、レポート作成.23

発表・討論(1)

発表・討論(2)

まとめ、研究提出

授業外学習

学習時間の目安：合計90時間

データ収集（主に論文検索）に努める。卒業研究の処理を随時行う。

教科書

適宜紹介する。

参考書

適宜紹介する。

備考

卒業研究（34609）

通年

Undergraduate Research

生命科学部 健康科学科

年次	4 年
対象	23 ～ 19 W,W
単位数	6．0 単位
担当教員	 椎葉大輔

授業の概要

当研究室では、運動などのストレスが生体に与える影響について、免疫学的観点から検討している。卒業研究では研究テーマに基づいて、生理学・分子生物学的手法を用いた実験を行い、卒業研究としてまとめる。【アクティブラーニング】先行研究などを精査し、研究テーマに関する現状や問題点、明らかではない点などを明らかにする。また生理学および分子生物学的手法を用いて、研究対象を分析を学生が主体的に実施する。さらに実験により得られた結果と先行研究との差異について考察し、論文としてまとめる。【フィードバック】研究進捗発表や論文作成時のディスカッションを行い、研究の遂行に必要な情報を提示する。

到達目標

- 1 「生理学および分子生物学の基本手法を実施できる」
- 2 「実験を通じて観察した現象について、論理的に説明できる」
- 3 「得られた研究結果を先行研究との比較から考察し、論文としてまとめることができる」

評価方法

取り組む姿勢（50％）および論文（50％）により総合的に評価する。

注意事項

生体試料を対象とすることから、規定時間外の実験が行われることがある。

授業計画

<前期>

- ・オリエンテーション
- ・動物実験倫理に関する講義
- ・研究テーマの決定
- ・研究計画立案
- ・実験
- ・論文抄読会
- ・進捗状況報告会

<後期>

- ・オリエンテーション
- ・実験
- ・論文抄読会
- ・進捗状況報告会
- ・卒業論文作成
- ・卒業論文提出（1月末の平日㍻切）
- ・卒業論文発表会（2月中旬）

授業外学習

学習時間の目安：合計90時間

他大学などの研究施設で実験を行う。

教科書

使用しない。

参考書

必要に応じて指示する。

備考

卒業研究（34609）

通年

Undergraduate Research

生命科学部 健康科学科

年次	4 年
対象	23 ～ 19 W,W
単位数	6．0 単位
担当教員	 大川元久

授業の概要

3 年次のゼミナールの内容を基に、さらに深く追求し、卒業研究を作成する。研究に必要な調査、データ収集及び処理を中心に展開し、最終的にまとめ、卒業研究を作成する。

到達目標

救急医療システムや救急活動の現場などの 1 つのテーマに取り組み、問題解決の方法や調査・研究の実施方法を習得する。

- 1．問題基盤型学習(PBL：Problem-based learning)の理解。
- 2．研究に関する資料を収集・調査し、研究計画を立てる。
- 3．問題点を把握し、それを解決する方法を見つけられる。
- 4．医学的知識を基盤とした研究の成果を発表する。

と目標設定し、自ら問題意識をもち設定した課題を専門的なルールに則って解決する能力の基礎を身につけ、研究発表の形式で、そのプレゼンテーション法を習得する。

評価方法

卒業研究に取り組む姿勢（態度、知識を評価する、特に出席、遅刻、早退は厳しく点数に反映する）を40%、およびレポートとプレゼンテーションを60%で評価する。

注意事項

態度、知識を評価する、特に出席、遅刻、早退は厳しく点数に反映する。

授業計画

第 1 週	オリエンテーション
第 2 週～第 3 週	卒業研究の具体的なテーマを検討する
第 4 週	研究テーマ決定
第 5 週～第 2 7 週	調査、データ整理、レポート作成
第 2 8 週～第 2 9 週	発表・討論（12月末予定）
第 3 0 週	まとめ・研究提出

授業外学習

授業中に詳しく指示する。各種研究会・学会に参加する（費用がかかる事あり）。

教科書

講義中に紹介する。

参考書

講義中に紹介する。

備考

年次	4 年
対象	23 ～ 19 W,W
単位数	6．0 単位
担当教員	 山野力

授業の概要

本講では、学内のクラブと連携をとりながらアスレティックトレーナーとしての活動を行い、スポーツ傷害への対応と予防、コンディショニング等を実践する。また、卒業研究の準備として、文献講読を行うことにより、実際のスポーツ現場で起こりやすい傷害や、種目特性による受傷頻度の高い傷害の症例を理解し、自身の研究テーマへとつなげ卒業研究をする。

到達目標

アスレティックトレーナーとして、専門知識の理解及びスキルアップを目的としながら、実際の現場で活動できるようになる。
また、自身の研究テーマについて説明でき、卒業論文を作成する。

評価方法

・ゼミに取り組む姿勢（５０％）およびレポート（５０％）で評価する。

注意事項

現場実習では、選手やチームの重要な情報を扱うことになる。個人情報、チーム情報の保護をしっかりとし、いかなる理由があっても情報を漏えいしない確約をすること。

授業計画

オリエンテーション

文献購読、研究テーマの選択

文献購読、研究テーマの選択

文献購読、研究テーマの選択

文献購読、研究テーマの選択

文献購読、研究テーマの選択

文献購読、研究テーマの選択

文献購読、研究テーマの選択

文献購読、研究テーマの選択

現場実習、文献購読、研究テーマの選択

現場実習、文献購読、研究テーマの選択

現場実習、文献購読、研究テーマの選択

現場実習、文献購読、研究テーマの選択

現場実習、文献購読、研究テーマの選択

研究テーマの決定・研究計画の提出

現場実習、研究テーマの整理・考察、文献講読

現場実習、研究テーマの整理・考察、文献講読

現場実習、研究テーマの整理・考察、文献講読

現場実習、研究テーマの整理・考察、文献講読

現場実習、研究テーマの整理・考察、文献講読

現場実習、研究テーマの整理・考察、文献講読

現場実習、研究テーマの整理・考察、文献講読

現場実習、研究テーマの整理・考察、文献講読

現場実習、研究テーマの整理・考察、文献講読

現場実習、研究テーマの整理・考察、文献講読

現場実習、研究テーマの整理・考察、文献講読

現場実習、研究テーマの整理・考察、文献講読

レポート作成

レポート作成・提出

レポート発表

授業外学習

学習時間の目安：合計90時間

学内及び学外での現場実習を行いつつ、研究論文を読み、自身の研究テーマに必要な文献や情報を収集する。

教科書

使用しない。

参考書

適宜紹介する。

備考